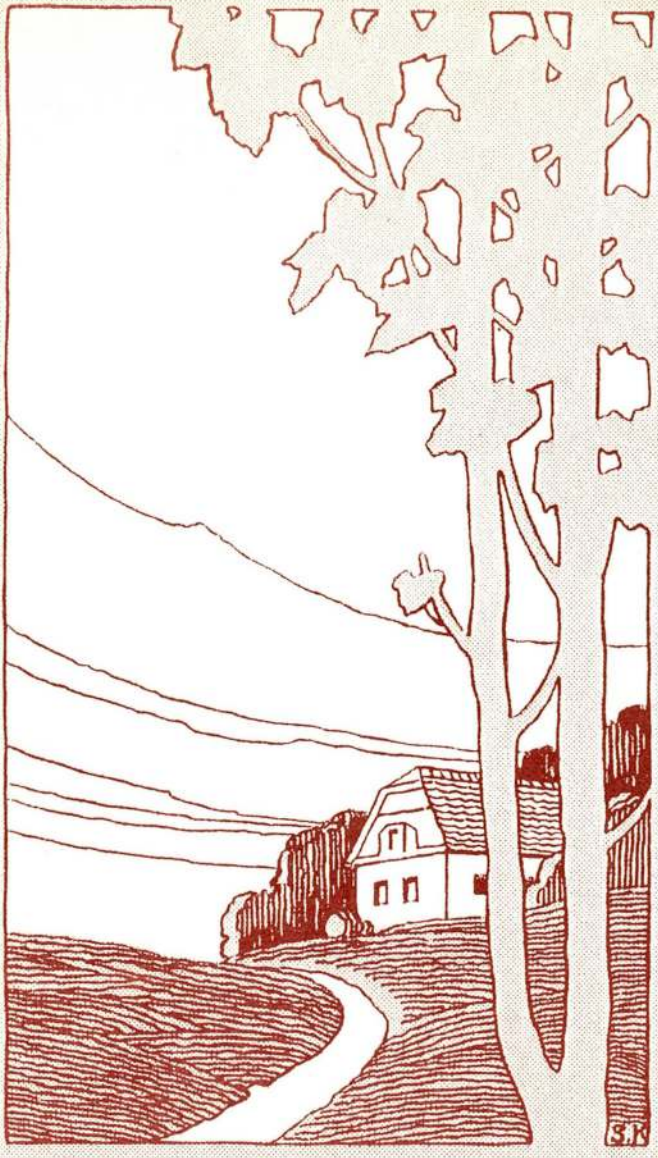
建築ト社會

大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正九年一月一日發行（毎月一回一日發行）



第三輯
第一號

大正九年一月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ發實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ決衝ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　修身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

修身贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ總會及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ケ修身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ケ

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲アリ　ト認ムルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經タル上除名スルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年ト

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編　輯　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告ヲ、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ每秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

第二十二條　本會ノ財產ハ積立ノ義務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立ノ義務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年二月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

日本建築協會雜誌

改題

建築と社會

妖雲漸く闇けて、暉陽長へに燦たるの概あり。戰後第一次の去春は、實に、我日本建築協會の使命も、世界の進運と共に一躍進を劃したる是も思出多き頭歳なりしこと當時、我會名及び我誌の革新を宣しられしことに仍りて、讀者の多くは之を諒とせられしことなるを信ず。而して、夙くも今復た其第二次迎春に方り、顧みて世界の凡ゆる方面に於ける變轉は、僅に既往三百有餘日の時間に於てすら既に世紀を累ねたるに等しからむとするものあり、我等少くとも亦須らく斯の進運に協合する處莫くむばあらず。きれば、我協會活動の機關たり其表現たる『日本建築協會雜誌』は茲に再び誌名を更て、一層、社會的觸接を期し、相充當せむことを冀ふと共に、駸乎たる躍進的機運に先むせんことを欲す、維れ、爰に、我誌名を復び更改する所以也。

謹賀新年

日本建築協會

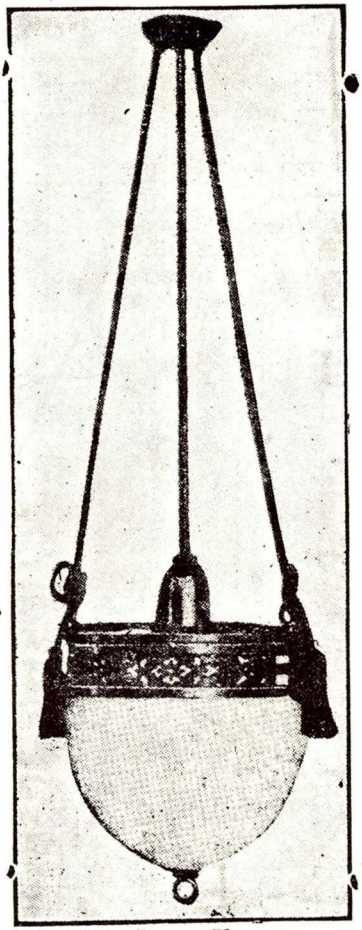
役員

職員一同

誰しも嘆美する『花霞』

（日本座敷用半間接照明器具）

照明學會懸賞 第一等當選 意匠登録 第一四八六〇號



■ 高尚なる御座敷には是非とも此の花霞を御取付け下さいませ。其の穏かな光りと優美なる形とは必ずや優雅なる氣分を御家庭の中に漲らせます。

■ 花霞御用命の節は何卒最寄の本社販賣部出張所に御一報の程御願ひ申し上げます。

上製 大型八疊以上座敷用 一〇〇―二五〇ワット瓦斯封入 マツダCランプ使用 金五十五圓

並製 小型八疊以下座敷用 一〇〇ワット瓦斯封入 マツダCランプ使用 金二十八圓

神奈川縣川崎町

東京電氣株式會社販賣部出張所

東京 東京市銀座須尾町一ノ一 電話新橋（長一〇五九、一九三、三二一二、三二七二）

大阪 大阪市西區阿波堀通一ノ五 電話新町（長六三〇、八九九、八九八）

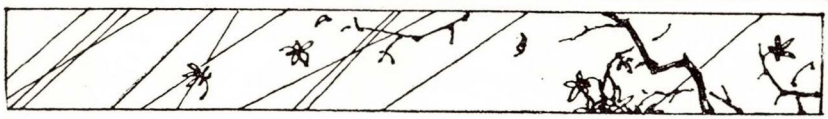
門司 門司市西本町三ノ二九 電話（長四六、六八二）

名古屋 名古屋市中區府大津町二ノ三ノ二 電話（長二五九八）

札幌 札幌區南一條通西四ノ二一 電話（九八九）

上海 上海南京路東首五六四 電話中央（三二六七、四九〇七）

大連 大連市山縣通四五 電話（長一二五）

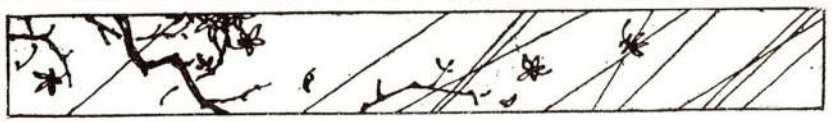


『建築と社會』第參輯第壹號

目次

口繪 ノースリバーより看たるニューヨーク市下町（三色版）
議院設計第三等（第一、二席）當選圖案（自一至六）

△卷頭――新春來りぬ……會員 片岡安……二
△生活改善と我國の住宅……會員 片岡安……二
△我邦に適合する建築……男爵 後藤新平……七
△都市計畫の財政觀……法學博士 關一……一〇
△火災保險業者より觀たる日本の建築……日本火災保險株式會社調査部長 小澤增太郎……一四
△居構百選（一）……會員 葛野壯一郎……一八
△子供本位の住宅（上）……會員 向井章……二三
△汎米會館……會員 安井武雄……二九
△大阪劇場の變遷（A）……會員 池田實……三八
△米國建築視察談（一）……會員 光安梶之助……四四
△都市有機體觀……江村郊郵……五二



〔都市と社會施設〕

△米國に於ける簡易食堂……會員　日高胖……五六

〔資料〕

△世界鐵道沿線の森林概況……會員　谷民藏……六〇

〔女流の生活觀〕

△今一入目醒ねばなりませぬ……平佐その子……六七

〔漫錄〕

△四宜草堂漫筆（二）……會員　佐藤四郎……七〇

伎樂と劇と劇場と

〔訪れの記〕

△「家相見」君と僕……K……七六

〔藻苑〕

△和歌……S……七六

△故山本治兵衛君小傳……たみこ……八〇

△時報……八一

△會報……八七

附錄

△ブダペスト建築條例(1)……八頁

G.E. CHEMICAL PRODUCTS.

ジーエフ防水剤

GF. Waterproofing Paste.
GF. Trowel Coating.
GF. Dampproofing Coating.
GF. Acidproofing.
GF. Cristalrox,
GF. Mastic Cement.
GF. Timber Life.
GF. Floor Enamel,
GF. Brick and Cement Coating.
GF. Galvanized Steel Coating,
Etc., Etc.

ジーエフ塗料

GE
YOUNGSTOWN. OHIO.

TKS

製造元　米國ジエネラル、フアイヤープルーフキング會社

輸入元　中外貿易株式會社

◉ジーエフ防水剤
◉ジーエフ防水防濕塗料
◉ジーエフ防酸塗料
◉ジーエフ室内装飾塗料
◉ジーエフ床用塗料
◉ジーエフ金屬防蝕塗料
◉ジーエフ木材防蝕塗料
◉在庫品豊富◉

販賣元　東京市京橋區傳馬町一丁目

株式會社 東洋工業社

電話京橋㈡一二八〇・二二〇・四長四三〇四五

出張所　大阪　名古屋　小倉　紐育

S.G.

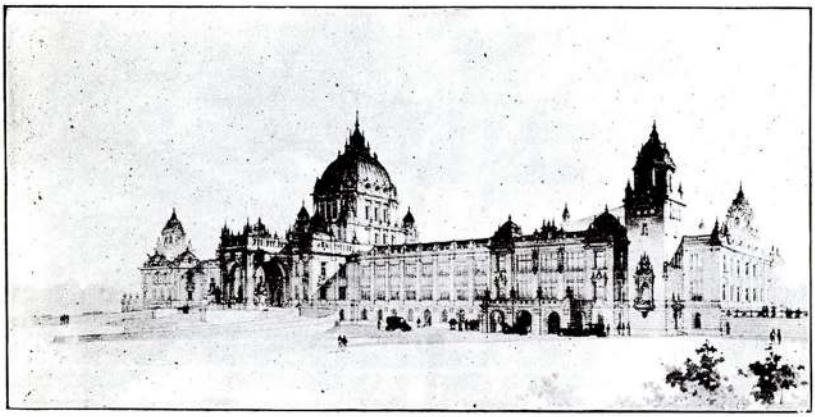


ニューヨーク市　（下町ノースリバーより眺望）

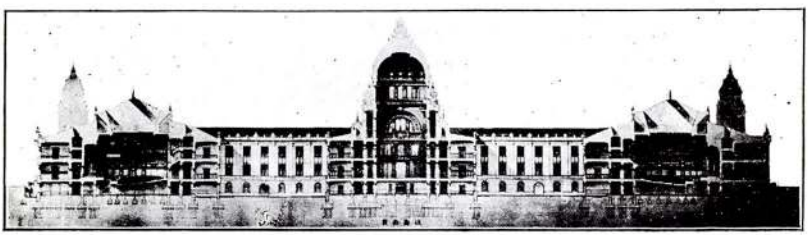
大阪(栗田製版印刷)

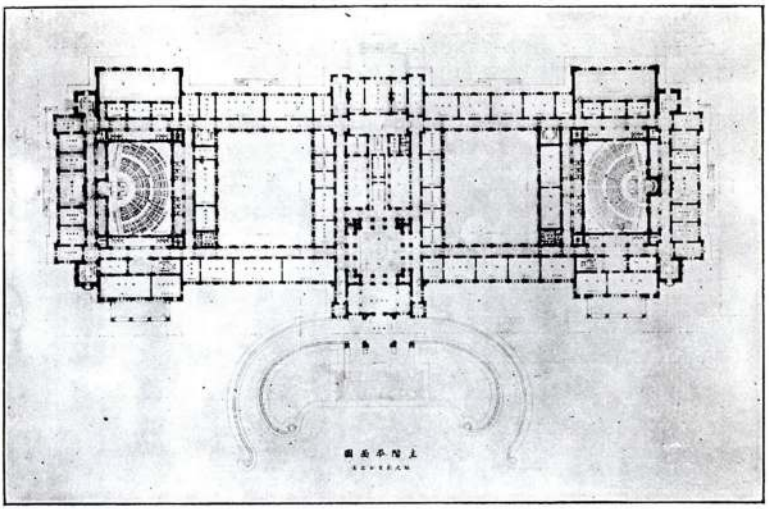
選當席一第等三案圖計設院議

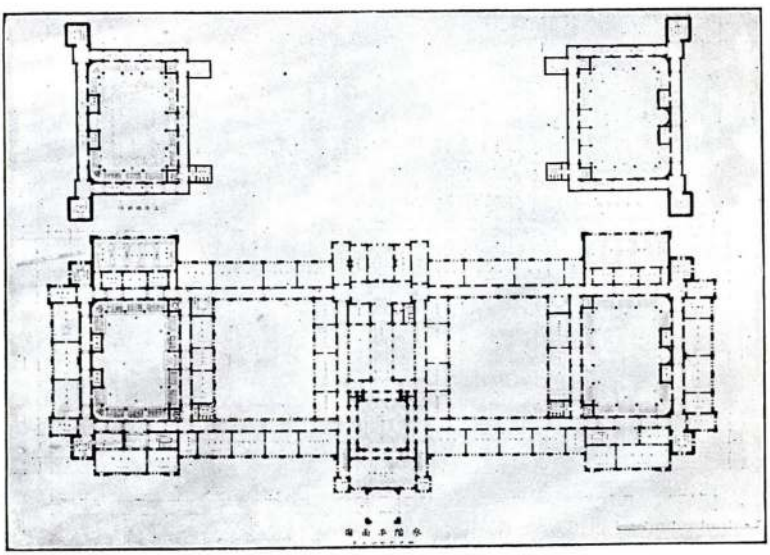
設計者　永山美樹三氏（以下同じ）

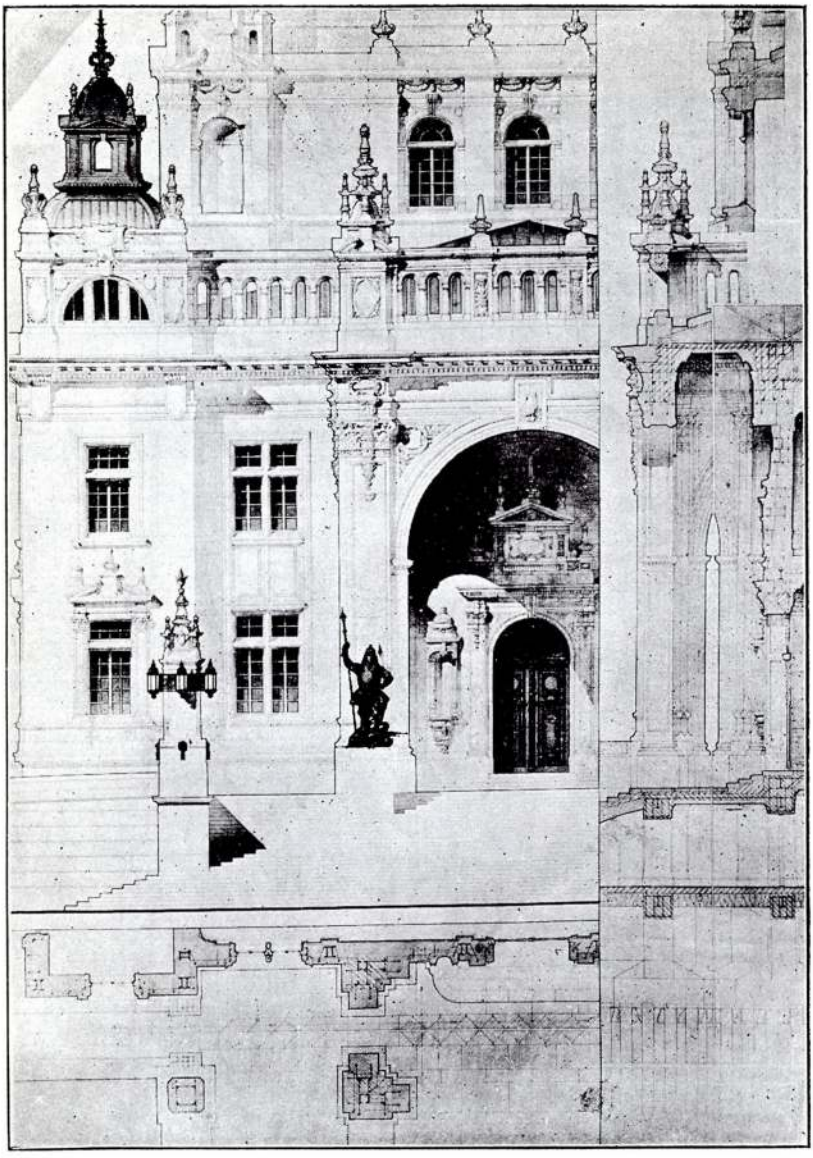






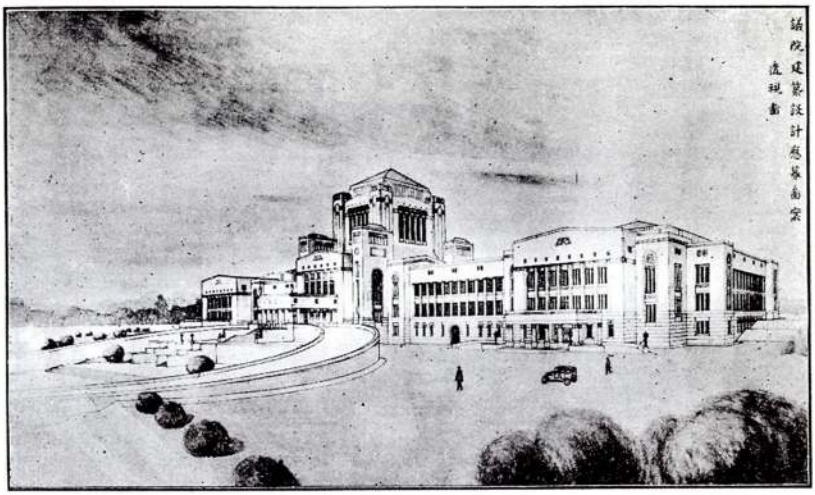


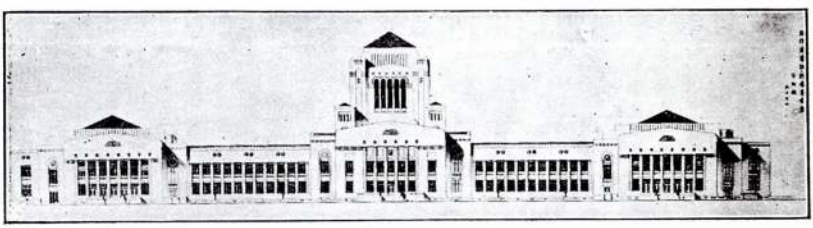


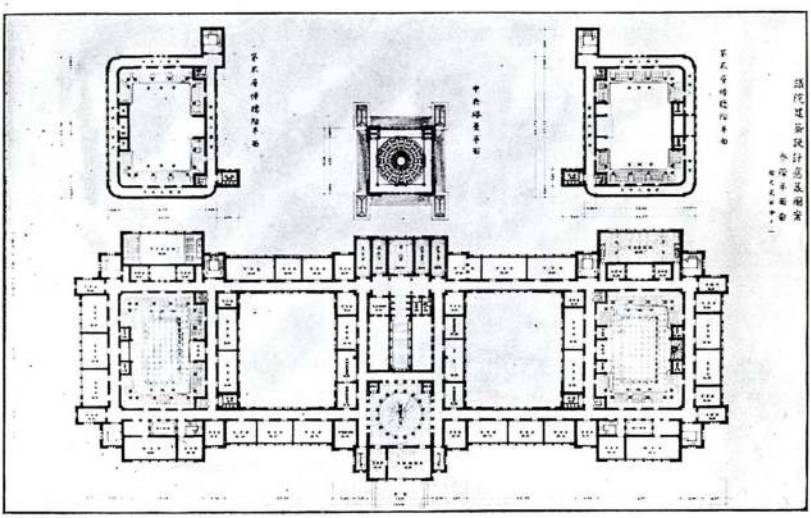


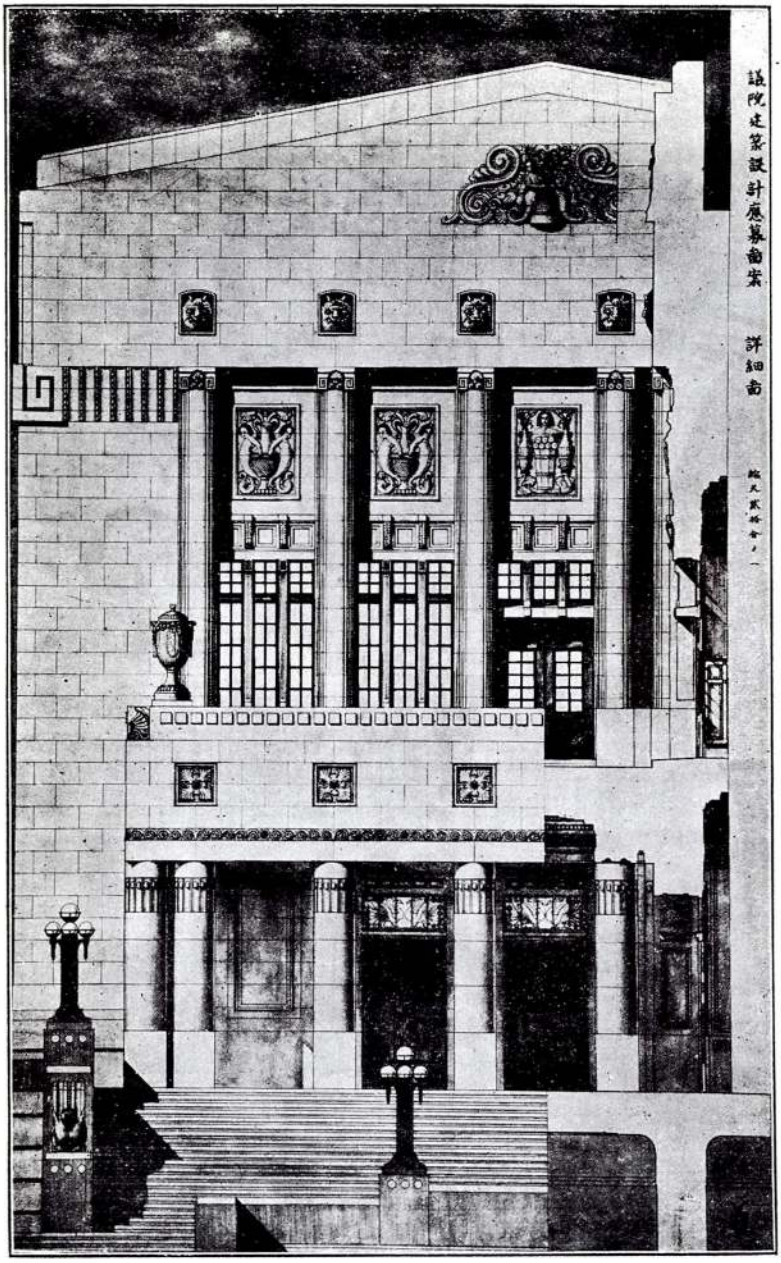
選當席二第等三案圖計設院議

（以下同じ）氏七新内竹　者計設



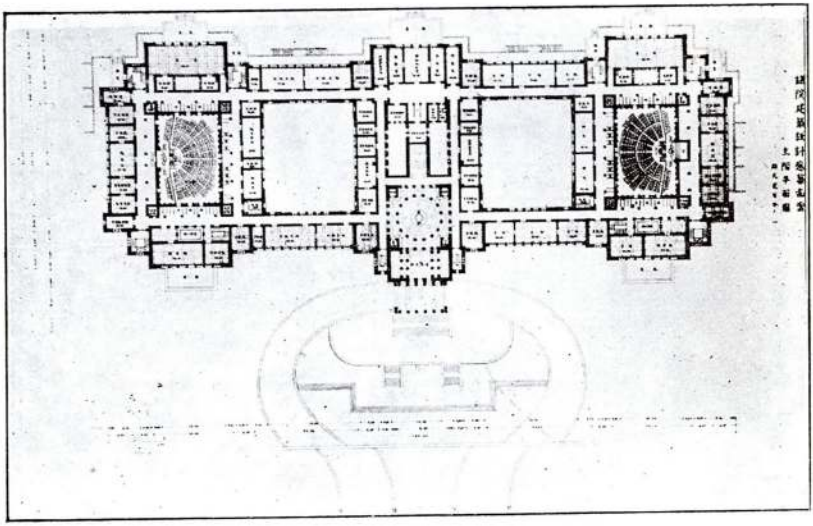






議院建築設計應募圖案　詳細圖

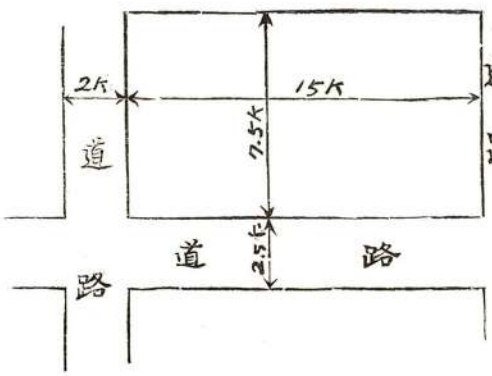
縮尺百分ノ一



改良住宅設計懸賞募集

本協會は大阪住宅經營株式會社創立委員長山岡順太郎氏の委嘱により生活改善の目的を以て左の規定により改良住宅案を募集す

一、敷　地　左の配置圖に示す如し



二、構　造　連續四戸建とし配置及其他の要項は現行大阪府建築取締規則に據り且つ火災に對し成可く延燒を緩漫ならしむるものたる可し設備其他は改良の目的に添ふものを望む

三、工　費　四戸に付壹萬五千圓以內

四、應募圖面　(イ)　原圖用紙大に墨入仕上げ寸法記入すべし

(ロ)　要求圖面

各階平面圖　縮尺五十分の一

建　圖　同　上

斷面圖　縮尺貳拾分の一

他に說明書壹通

(ハ)　應募者は圖面及說明書に暗號を記載し之を嚴封の上同封の表にも暗號を附す可し、別に宿所姓名を記したる名刺を紙封筒に封入し、封筒には前項の暗號のみを記し之を同封す可し

五、審　査　員　本協會理事及第三部(住宅)委員とす

六、賞　金　壹等　一人　金參百圓也

貳等　二人　各金貳百圓也

參等　二人　各金壹百圓也

七、應募締切　大正九年二月十日迄に本協會宛屆くる可し

八、審査の結果　大正九年三月發刊本會雜誌に表發す

尙應募圖面は返附せず

日本建築協會

大阪市東區今橋一丁目一一番地



新春來りぬ

謡曲『山かげの、夕の空もものふかく、〳〵、松の嵐もこゑすみて、春としも夏かげに、庭の木蔭ぞさびしき、入日かぐろふ草むらの、露に殘れる其人の跡なつかしきけしき哉〳〵それ花ひらけて雪猶ひるがへる、せうしつともにせうせず。十やひとつのしなぐの、さましかをる其中に殊に色香もたぐひなき、こうようばいをうるおきて、九夏三伏のあつきには、日影をいとひ露をそゝぎ、げんとうそせつのさむき夜は、あらしをふせぎ露をへだてゝ、朝夕かけて庭の面になさけをはこぶ心ざし、淺からざりしためしかな…』

風、颯ッと庭の面を掠め、枯葉婆塞たり、陽炎斜に眞雛を衛ふて皷音微かに搖らぐ、ア、春だ！春だ！



生活改善と我國の住宅

會員　片岡安

一

生活改善の期望は今や世界を通じての一大潮流と成り激しき渦巻を成して襲來したるように思はれる。我國のハイカラ黨は歐米各國の生活を以て大に洗練されたる文明的のものと言ひ、我國のそれを以て甚だ慨然たる混亂極りなきものと考へて居るのであるが、最近のデモクラシー主義又は社會主義の普及は遂に其事實を赤裸々に裏切つて來たのである。成る程我國民の大部が享有する生活程度の低くしてその慨然たる狀況や、或は又和洋両樣新舊相半ばする混亂極りなき有樣は大に改善の餘地あるものであるけれども、歐米の上流者生活の端正にして富裕なる樣子をのみ見たばかりで無闇にその文明的なるに憧憬しつゝ來りし我國のハイカラ連中も、歐米民衆の大多數なる勞働階級の營みつゝある其生活が、決して現代文明と一致する程度に達して居るものでないことには餘り氣が付かなかつたのであつた。

故に從來ハイカラ黨の唱へ來りし生活改善は中產階級以上のものが比較的不經濟なる又新舊和洋混亂の狀態にあることを指摘するに過ぎなかつたのである。固より中產階級以上のものゝ生活改善

は必要なる事であろふ、けれども、彼等が今も尚和洋兩樣の服裝を爲し新舊兩樣の趣味に沒頭しつゝある所以はまだまだ彼等の生活に餘裕があるからで、もう一步世の中がセチ辛くなつて來ればかゝる不經濟なる生活法は自然的に解決されて來るのは明かである。何も八ケ釜しく之を批難するにも及ばない筈である。

吾人の唱んとする生活改善は我國民衆一般の生活を向上せんとする努力を言ふのであつて、斯かる中產階級以上の不經濟なる混亂生活の改善をば目的とするものではない。けれども現時吾人の甚だ不可思議に感ずるのは所謂中產階級者が此の物價騰貴の甚しく生計經濟を壓迫するに拘らず、矢張り混亂の二重生活或は三重生活を繼續せんとし、餘り深く其改善を圖らざることである。此等は彼等の大に反省すべき事であつて、敢て社會的に又は國家的に之を指導するとか、改善を勸誘するとか言ふ手數を煩はすべき筈のものではないのである。

二

現代に於ける生活改善の大目的は國民の最大多數なる勞働階級の生活狀態向上であるとして見れば、歐米各國に於ても其方面の努力が近時著しく緊張して來たのは、之れ亦當然のことであつて、獨り我國のみの問題ではないのである。而して文明國民として現代の科學が誨ゆる、あらゆる經濟的衛生的及び娛樂的設備を積極的に施工し、以て共同生活の意義を秩序的に運ぶべく努力することが對內行政の大なる項目であつて、其對象たるや殆んど其大部は勞働階級であることを考へねばならぬのである。即生活改善の努力は之を半面から見れば、確に社會政策であり又勞働政策であると

言はねばならぬ。從來は勞働政策とか社會政策と言へば急進政治家の獨專舞臺のものと思はれて居たようであるが、詮し詰めて見れば凡て之れ現代科學の積極的應用を如何に運用するかに歸着せざるはないのである。即ち生活改善の社會的運動は現代文明國民の最大義務にして又同時に其實現を期待する權利を有するのである。

生活改善の第一は住居の問題であることは今茲に喋々するまでもないけれども、我國に於ては古來住居の問題には甚だ冷淡であつた習慣上今だに其思想が一般に持續されて居るのは甚だ遺憾である。住居の狀態により吾人の健康が左右され、家庭の幸福が加減され又各人活動力の消長にも關係を生ずるのであつて、其影響の大なること到底衣服の改良や食物の經濟などに比すべくもないのである。食料の經濟や改良衣服の問題固より國家の大問題ではあるけれども、各自それぞれの解決を試みつゝある外に之を學理上統計上に照して漸次其至善を盡すべき順序は立つのである。然るに吾人の生活改善に最も重大なる影響を與ふる住宅の問題が現時の我國に於て殆んど顧みられて居ないのは實に不合理千萬のことゝ言はねばならぬ。人或は住宅問題は近時高唱されて來たではないかと言はんも、少しく其意見の內容を見れば唯現時の其欠乏を救濟せよと言ふに過ぎないのであつて、何等生活改善の基礎たる意味に於て之を考へて居ないのである。唯少數の建築學者又は技術家の間に於て深甚の考慮を費されて居ることは事實なれども、それとても獻身的に之を攻究し更に之を社會に高唱すると言ふまでに立至らぬの現狀である。

歐米各國に於ける住宅改善計畫は事新らしき問題なれども最近十數年間著しく其實績を擧げつゝ

あるは、吾人の大に參考とすべき事柄であつて一概に之を西洋心酔として排斥すべきではないかと思はれる。唯吾人の習慣及び現狀は直接に彼地の案を參照し得ざるが故に、其計畫の形体に捉はれずして其内容の精神を十分に批判し、以て我國將來の住宅改善の方針を立つべきである。

三

住宅改善の難關は可なり多く吾人の前に置かれて居る。之を都市の共同生活から見て先づ第一に其環境との調和協力が困難なる問題である。住宅が山腹の一軒家なる場合には環境に對する其關係は非常に單純に之を取扱ひ得るけれども都市又は村邑の住宅としては各箇の住宅は其環境に不利益を與へざるを限度としてよく其調和を圖り協同一致以て其利便に貢獻すべきである。斯の意味に於て我國從來の住宅は一大改善を要するは言ふまでもないが、殊に其火災に對する不用意、外容の貧弱さに至つては到底之を文明生活根據地として容すべきものではないのである。更に其内容の欠点に就ては從來數次各方面に於て列擧されて居るから此處に一々それを詳述するを避けるとして一言其大綱に就て意見を述べることゝする。

我國從來の一般住宅が有する缺點の中で木材構造の家屋であると言ふ其本來の性質から免かることの非常に困難なるものもあり、又舊來の座式生活を株守せんとする關係上當然離すことの出來ない部分もある。又都市全体の改良工事例へば下水系統の不完全なる等の事情から其改善の容易に實行出來ない部分もあり、炊煮法の改善から着手せざれば其施設を根本的に衛生上利便ある樣に工夫出來ない部分もある。其他服裝、履物の混亂は言はずもがな、日常の家族的生活の不安定不規律等

の持續は凡て之れ住宅改善の方針を妨げるものである。斯く觀じ來れば我國住宅の一般的改善は歐米のそれよりも餘程困難なる事情にあると言はねばならぬけれども吾人は斯かる舊慣拘泥に陷りつゝ何等現狀の改善に氣付かざる我國現時の沈滯思想は、如何なる犧牲を拂ふとも此際之を一掃して世界的文明の進歩的、積極的又建設的思想に轉換せねばならぬのであるから、其方策の第一着手として之を住宅改善の大手術により其改宗を企て、以て維新以來五十年間遂巡しつゝ來りし座式生活や和洋両樣の服裝、孤立的炊煮法其他一切の舊慣を打破し共同生活の原則たる衛生、經濟、利便の三大要目と合致せる生活方法に移るべき道程に上らねばならぬと考ふるのである。

從來我國の住宅改善案として論議されたるものは、大体に於て現時の舊慣拘泥は動かすべからざるものとして、唯其小部分に改良を工夫したるに過ぎなかつたから、社會からはむしろ五十歩百歩の差として冷評されたるのも致し方がないのである。現代は之を物質的に見れば科學應用旺盛の時期に到達したのであり、之を精神的に見れば倫理的公正を生活の上に發見せんとする努力の時代である。此時期に際し我國の最も遲れたる凡ての組織改善の第一着手として住宅改善を企畫するは我國民の最高最大の義務でなくてはならぬのである。然るに斯かる重大なる意義ある住宅改善を以て唯二三建築技術家の餘暇の仕事として顧みざらんとする不堅實なる處の現時の風潮は寔に悲むべきことである。



我邦に最も適合する建築

男爵　後藤新平

□□二重三重の生活狀態

わが日本の、時代その者がすでに、最も激しい過渡期、換言すれば、混沌期に際會してゐるのであるから、凡ての事柄、例へば思想にせよ衣食住にせよ、抽象も具体も、殘り無く此混沌たる雲に包まれて居るのは止むを得ないのである。

從つて都市の狀態は勿論、われ〳〵の住宅もまた爾りで、就中、住宅の如きは、我輩も久しく此混沌狀態から脫却したいと心掛けては居ながらも、それは實に容易ならざる仕事で、矢張り其日其日の、周圍の習慣乃至は誤りたる必要に迫られては、次第に引張られて來つゝある。

混沌狀態は、詰りわれ〳〵へ、二重の生活三重の生活を迫り、其間に於て、不合理にして不經濟と知りつゝも、色々な生活方法を取らねばならぬ事になる。日本の住宅に住み、洋服を着し、或は、西洋式住宅に住んで日本服を着する處に矛盾があり、不經濟が伴ひ、非合理的な事柄の生ずるのは、當然なのである。

で、これからの住宅は、日本式とか西洋式とかいふ限界を離れて、即ち、理想的な和洋折衷を造らねばならぬもので、この完成を俟つて始めて、われ〳〵は最も肝要なる住宅の混沌から一歩を踏み出す事になるのである。

□□純理想的な和洋折衷

我輩は國内に於ても外國に於ても、種々なる

階級の人々と接觸し、その住宅も見たけれども何れも、これこそはと思ふやうな、本當の理想的なものは無かつた。單に、廣いからとか、綺麗だからといふだけでは、住宅としては何等の價値も無いのである。

我輩は然した度毎に、常に、一つで二つを兼ねるやうな住宅、即ち、間取りでも、光線の具合でも、其他裝飾でも、總てが西洋式生活にも大して差支なく、日本式生活にも大して差支ない方法はないものかと泌々感じたのであつた、即ち、完全なる理想的折衷住宅の必要である。

各建築家も、大いに此點に考慮して貰ひ度いと思ふ、時代とわれ〳〵の生活狀態とは、手を取つて離れずに歩るいて行く、生活狀態と住むべき家とは、矢張りより以上に密接に相伴つて行く、故に混沌期の住宅として、此混沌の中心點、云へ換へれば折衷點を見出して其處に理想的なる設計を要望するのである。

□□脫却する唯一の方法

衣服の不便乃至食物の不便は、すぐにも、容易に改廢し、改正する事が出來得るが、しかし住宅は、半永久的のものであり、從つて當初の不便は、毎日〳〵其一家族を苦しめて、一方不愉快に、一方不經濟に、快よからぬ結果をのみ殘して行くのである。

家族の具合によつて勿論大なる注意を拂つて設計しなくてはならない。子供のある家庭、老人のある家庭、來客の多い職業に從事してゐる家庭、皆それ〴〵に違つた趣きが無ければならぬ。これが、住宅と家庭とがよく調和しよく親んで行く第一の要素であると思ふ。

之れを要するに、目下日本の住宅として、我輩の希望する處のものは、日本式でも無く、西洋式でも無く、日本に最も適合したる所謂折衷式建築で、それが矢張り眞個日本建築、日本式住宅と成るべき性質のものなのである。

理想を此點に置き。現在の二重三重の混沌生活に適せざる純日本式、若しくは純西洋式の欠點ある住宅は、一日も早く改廢すべく、これこ

し、不經濟なる生活から脫却する唯一の方法であらねばならぬ。

□□御皇居は實に模範的

日本の皇室はわれ〳〵の信仰である事は勿論だが、前述の點から見て、陛下の御居城もまた實に理想的であると申上げる事が出來るのである。

皇居の御設計に就ては、其當時實に喧しい議論が起きて、係官が非常なる苦心を拂ひ、必生の努力を竭して建築し參らせたものであつたが今にして之を拜すれば、徹頭徹尾我輩の理想を喜ばしむるもので、頗る調和的に出來て居り、純日本式の中に、高尙なる洋風を加味し、しかもそれがよく咀嚼されて加味されたので、尊嚴を傷つけず、風致を害せず、甚だ立派なものであると、自分は常々感心して居る處のものである。

我輩歸朝早々の多忙で、歐米に於ても種々感じた處があるのだが、それは何れ機會を得て詳しく論述するであらふ。

——談。文責在記者——

建築と人生——建築は、獨立の人間の生涯を返照する鏡であつて、それは時間と空間との上に獨立に書かれた大なるものの生涯である。幼年時代の恐怖、少年時代の銳敏なる趣味と渴仰、壯年時代の勝負好きの强き謹嚴な悅び、物質的になつた老年時代の慾な貪婪な殘忿等は精神上の生涯に或準備としてのみ貢獻するものと解することが出來る、只螺線狀の一層高尙な弧狀に行くのである。



都市計畫の財政觀

法學博士　關　一

都市なるものは、一國文化藝術の中心にして而も最高の中心なり。斯は、我邦に於ても、歐洲に於ても、最も重要視されある問題にして、殊に、我大阪市も、斯の問題を重要視し在り。而して、大阪市の現狀は、交通及住居に對して殆むど行詰りの狀態なり。就中、電車の如きも今日の狀態には最早不充分にして、高速度のものを必要としあり。其他、住居問題に關しても現今の如く或一種の人に委して置くが如きは、最早事情の容さざることとなれり。又、衛生問題に就ても、下水問題に關しても、尿屎問題に到りても、現在の狀態にては、斯の大都市として行詰りのこととなれり。

茲に於て、都市計畫の聲は漸次高調され來り斯の現狀を打破して、新しきものを作らむとするの要求と成れり。而して、之に對しては、各種の法制を定むること必要なり。是に就いては先般定められたる『東京市道路改正條例』及び前議會に於て定められたる『都市計畫法』『市街地建築物法』其他之等の附屬法令等に據つて施行さるべきなり。斯くの如く法制の定められたることは寔に欣ばしき事なれども、之を完全に運用して遺憾なからしむることは、非常に困難なる事項なり。而して、其困難の中に其最たるものは、實に、都市計畫に要する財政上の問題也。

斯の財源に就きては、亞米利加に於ける都市計畫の權威者ネルソンリースの書ける本に『亞

米利加の都市にては、漸次都市計畫を行ひ、之に對し種々の努力をなして、設計其他の事を爲し、立派な報告書を作りて各方面に送られたとき、各市の市民は非常に欣び、今にも第二のParisを實見されむと欣びしが、扨て、幾等の費用を要するやの質問と成り、設計者は之に對して正直に答ふるや、幾多の人々は斯の設計者に對して批難を加へ、折角市民の熱心も冷却して、惜むべくも、斯の立派なる設計書は、徒らに展覽會に於ける陳列物となりて、終に闇に葬むらる』との意味なる事を述べあり、這は採つて以て戒鑑とすべき問題也。

斯の問題に對する我智識階級の考を察するに蓋し二箇の思潮あるを覺ゆ。都市計畫法に衛生其他の項目存するが、共に『美觀』なる事項を考慮に入るべきや否やに仍つて議論の生ずる處なり。都市計畫に美觀なる考を入るることは勿論結構な事項なるも、斯の計畫は其計畫の都度財政を考慮せば可なりとの說と、今は斯る贅澤なる計畫を樹つべきの時代にあらず、先づ、國防敎育等の如き國家に必要なる經費を支出して若し財政に餘裕あらば、都市計畫の如き問題を考ふるも可なりとの說あり。斯の二者果して孰れを採るべきか、予の考ふる處に據れば、斯の兩者孰れも妥當なりと言ふべからず。言ふが如く美觀に重きを置くは勿論結構なるも、其財政に就て大体の問題を取り決めずして之を行ふが如きは寔に無謀にして、前述米人の云ふ如く、竟に空論に終らむのみ。而して、後者の論の如きも亦誤れり。蓋し、都市計畫なるものは、國防若くは敎育等と同時に論ずべきものに非ずして、全然性質の異れる問題なり。國防は勿論必要なるも之より直ちに金錢上の利益を擧ぐべからず、即ち價格に算定したる利益は起らざるなり。敎育の如きも亦爾り。されど、斯の事業は無形の利、即ち、藝術の發達、死亡率の減退、不良少年の減少等は算定せざるべからざるも、其以外に金錢的の利益を生ずるなり——、多少後年の事にはあるも——。英國の Gbon Barns 曰く『都市計畫は、一年で勘定すれば損失、五

箇年では少しの利益、十年二十年後には非常に利ある Investuent なりと思ふに到らむ』と。都市計畫は一の事業にして、大利益ある一の Investurent なり。今、大阪市に一億圓を投じて種々の方面に市區改正の効果を生ずれば、地價騰貴し、全市千七百萬坪の上に一億圓を割當つれば六圓、十年とすれば六十錢なり。最近の騰貴は六十錢の負擔だけに非ず。宅地にては六百廿萬坪あるも、一年に一圓何十錢かの割當に過ぎず。騰貴せる地價の一部を割きて斯の計畫を施行せば、Gbon Barns の言へる如く一の大 Investuent なり。今日の如く、路面斜を用ふれば速力を減ず、例へば、大阪市の堺筋線の如き一時間八十間を損せり。又、混雜の爲一日に十八間損ずるとして、一日七十萬乃至九十萬を先づ六十萬人とすれば、實に十萬時間を損じ、今假りに一人一日十時間勞働するとせば、一萬人の勞働力を徒費すると等しき勘定と成り、之を一箇年に積れば、實に三百六十萬人の勞働力を損ずる割合となるなり。故に、其五%又は六%の利子を投ずるも可ならずや。

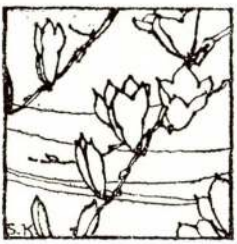
元來 Town Blanning 又は City Blanning は Selb Sustaining ならざるべからず。大阪市民の力を以てして一億圓の投資を爲すは、決して不可能に非ず。予は、Town Blanning は一の事業にして、投ずる資本は一の Investuent なりと云へり、斯の資本を如何にして集むるかは重大なる問題なり。而して、予は、利を得る者ありとする處の公正なる方法に據るべしと思惟す。東京市は、附加稅の如く一般行政費の如く成して其財源を得むとするが如きも、更に攻究を要すべしと信ず。惟ふに、一億の金の集め方、換言すれば、租稅の賦課方法に於て公平をさへ得ば、事業の遂行は決して困難ならざるなり。現に行ひつつある電車、水道の如く、夫れに藉りて利益を得る者より幾分を拂はする事は必要なり。斯の主義を執れる電車水道の如きは發達せるも、下水道事業は奈何。這は當然只のものなり。換言すれば 排水の爲に地價の騰貴を來すも、地主は一般の財源たるべく自己の負擔に非

ずと思ふが故に、日本には今立派なるもの在らざるなり。尿の問題にしても、幾千萬圓の經費を要す。故に下水道は當然市稅よりなすものとせば、幷は百年後結了することなるべし。

私の考ふる處に據れば、租稅と異る特別負擔に依る事、即ち、例へば五圓騰貴するとせば、二圓を負擔せしむるとせむ歟、事業は左して困難ならざるべし。America の西の Kansas City といふ市あり、千九百二年には、人口二十萬位の都市なるに、公園系統の立派なるを以て名あり。公園を連ぬるに Bark Rood を以てし Bark の數は四百八萬坪（Rood其） Bark-Rood は、百五十哩より七十哩は完全に鋪裝せられありて是は千九百年頃に着手されたる事業なり。其方法は、町を五箇の Bark に分ち、自分の區に出來る Bark には其區の者が負擔し、其結果、三千萬圓以上の經費を要せしも、市費の負擔は僅に二十萬圓に過ぎざりき。而して、幷は、公園の出來たる爲に地價の騰貴を來して其經費を負擔せるなり。又、曾て、New York の Leven 或賑な町を取擴げる事となりしが、是は頗る多額の經費を要し、其費額八百萬圓の中四百萬圓は兩側の地主に於て負擔せり。這は、苦痛なく最も公平なる方法なり。其結果として、負擔方法を異にせり。利益の多寡に仍りて不均一なる課稅をなせば比較的大事業を爲し得べし。

茲に附言せざるべからざるは、其方法の完全に行はれ難き一事なり。其事業に贊成するも、費用の点に關しては市自身に於て負擔すべし、地價の騰貴は自分の利する處にして自分の有なり。市民が斯の計畫の必要を自覺せば地價騰貴に依りて利する一部を提供せば事足るなり。都市計畫を財政の方面より見るも、之に對する市民の強き目覺を要す道路法其他に於て斯の分賦方法を規定せるも、其實行は極めて大切也。

（校閲を經ず、本文全責在記者）



火災保險業者より觀たる日本の建築

日本火災保險株式會社
調査部長　小澤增太郎

一

自分は元來、建築其物に對して、本當の素人である上に、都市政策の狀態等に就ても、全然智識を有つて居ないのであるが、仕事の必要上從來、日本の各都市に涉つて、屢々多少共建築に關する調査も爲し、研究もして見た。

それは勿論、單純なる商賣人、即ち火災保險業者の立場からの觀察ではあるが、到る處として、實は其都度寒心に禁ねなかつた數種の或る物を發見した次第である。

二

東京は殆んど全部が可燃性の建築物で、防火性を有つてゐる、約り耐火質は僅かに日本橋表通り及び丸の內の一部分に過ぎない。

とは云ふものゝ、東京其物が、都市として未だ過渡期にあると共に、建築物も、それを同樣な狀態で、最近耐火的の建物が、續々として出來て來るやうではあるけれ共、それと同時に、半永久的乃至は見てくれ許りの物も少なくはないので、火災に對する危險域を脫する處まで到達するのは、果して何時であるか、一寸想像もつき兼ねる狀態であると思つて居る。

三

外國――外國と云つても所謂主なる都市の表

通りだが、その建物は、一戸一戸に就て、全く獨立した危險負擔をして居つて、自分等の商賣から見ても、一戸一戸を引離して考へて、取扱ひをする事が出來るのだが、東京などは、下町の如き、殆んど全体が一箇の危險負擔をしてゐる有樣で、てんで標準に於て、一戸と一町内と云ふ具合の相違がある位に、不完全でもあり、危險でもある。

此建物なら、耐火質の關係乃至は消防設備の關係から、内から火を出しても、一戸限りで鎭火するし、外から來たんでは大丈夫だと云ふ樣な建物が、軒を並べて居る外國に比し、次から次と軒傳ひに、導火線を張る樣な日本の建築物殊に木造建の多い東京では、外國から來た保險業者などが、恐くなつて、ちよつと手を出せぬとの話を聞いたが最もだと思ふ。

此危險區域に一つ二つの不燃質の建物があつても、それは九牛の一毛で、火災に對する危險から云へば、殆んど何んにも成らぬ事になる。

四

日本橋表通りや丸の内の一部の不燃性建築物の事を申上げたが、日本橋と云つても、それはほんの表通りだけの話で、一寸裏口へ廻つて見れば、思ひ半に過ぐるものがあり、舞臺を見て道具部屋を見る感がある。

大抵は裏手に、木造の住宅とか、宿直室とか物置とかゝ出來てゐて、狹く汚く、頗る危險な狀態に成つて居る。其處に若しも、失火でもしたならば——と自分はよく立止つては斯うした有樣を眺めざるを得なかつたものだ。

しかし乍ら素々建築上の問題は、その國なり都市なりの、富の程度に比例して行くものであるから、表から裏から露路口迄も、決して心配の無い耐火性に爲すべしと云つた處で、其實行は却々困難ではあらふけれど、自分は一日も早く、一戸危險負擔位の程度に進歩する事を希望する者である。

五

一体日本の建築は、自分共素人の觀た處では名古屋を中心にして、東と西とに別れて、各々違つた樣式を有ち合つて居る樣であるが、關東地方は、土壁よりは板壁が多く、土壁の部分も極く薄いが、關西は、丁度これと反對に、土藏だとか、土塀だとか、主として厚い土壁を用ひたものが多い。

最近關東風の建築が、非常な勢で流れ込んでは居る樣であるが、先づ一は明るく派出に、一は堅實に陰鬱にと、好みが向いて來てゐた事は事實である。

最近の大阪は、非常に東京風に感化されて、大建築物の、稍理想的な物などは、寧ろ東京以上の物が澤山ある。

が從つて、徒らに樣式のみを眞似た見てくれ建築、山勘建築も大層多い樣子で、これらは火災防止の上から見れば、決して感心した現象では無いのである。

六

云ふ迄も無く、日本の建築は、此數年の間に於て、國自体が進歩したと同じく、非常に急足の進歩をしてゐるのは、自分達素人にも歴然と解る處だが、さりとて、進歩は進歩としても、從來の諸缺點に對つて、果して完全なる改善の域に到りつゝあるか否かと云ふ事は、自分の常に疑つて居る處である。

勿論、混沌たる過渡時代で、殆んど建築上の第一期とか、第一段とか云ふ事は出來ない時期ではあらふけれども、進歩したと云ふ事以外に次第に改善されつゝあるか如何かゝ問題であらふと思ふ。

自分は、樣式や數量やの發展進歩と云ふよりは、深く其内容に立入つて、火災其他の災害に對する防止方法が、如何なる點に迄構じられて居るかゞ、當面の注目すべく、研究すべきものではないかと思つて居る。

七

京都市は、經濟組織が、御承知の如く沈澱して居る上に、土地の風物事情が、或る耐火性建築を、餘りに多くを望まなくても宜しい樣でもあるが、少なくとも、東京と大阪だけ、殊に、東京日本橋通りの如きは、將來に於て、完全なる耐火工事を施したる建築のみにして欲しいと思つてゐる。

しかし乍ら、實際に斯うした方面の仕事に從つて居られる專門家は、夫々、より多く緊急にして必要なる事を有つてゐられるであちふけれど、都市計畫と云ひ、耐火計畫と云ひ、先づ、其內容分子たる各箇の建築を完全にするのが、其土臺を固めるのではあるまいかと考へられる

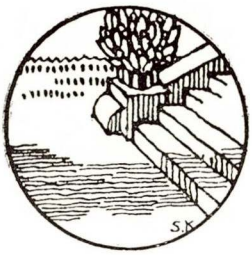
工場は工場地に、商店は市街地に、住宅は住宅地にと、理想的に分類して、都會を成立させて行く所謂一部の都市計畫は、頗る結構な事ではあるけれども、其實行は容易ならざる困難である許りでなく、實に前途の遼遠なる話で、自分はそれよりも一歩早く、各建築物の耐火性を充分にするの方法こそ、人類の幸福をより多くより早くに進める處の一方法であらふと信じて居る。

八

自分は總ての建築物に對して、極端に耐火性を要求する者ではあるけれども、先づ理論は別として、只一つの例外を求めたいのは、即ち吾人の住宅で都市計畫により、住宅地を設置されて、此處に集合するのも結構だが、これだけは耐火性とか何んとか云ふ打算論の外に超越して只管に住心地よく物床しく造りたいと思ふ。

住宅に對しては、自分達は長い間の習慣と記憶があるので、實際の利益とか問題とかよりは自分は永久に此習慣と記憶とを尊重して、耐火性の具備如何によらず、總てに『軟らか味』『温か味』の欲しい一人である。

——談。文責在筆者——



居構百選

會員　葛野壯一郎

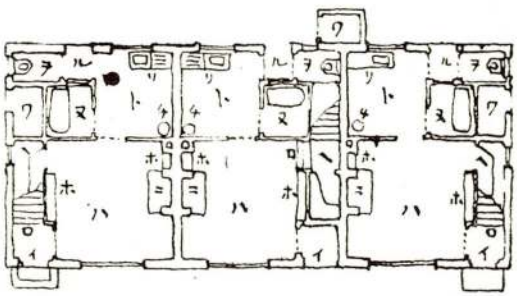
序言

百選と題したからとて必ずしも百まで續けるといふつもりでは有りません。たゞ多年手元に輯集した住宅間取の内から、最一般的平民的で是れはと思つたものをつぎ〳〵に、順序もなく並べて行くだけで、其れが五ッや六ッ位でお仕舞にならないといふだけの意味で有ります。私が是れはと思つたものが、また凡ての人に珍らしいといふ譯には行かない、五ッに一ッか十に一ッ、大方の注意を引けば之れでよろしいので有ります。説明は知れて居るだけ委しく仕度いと思つて居ります。讀者が我邦のものに比較して、概念を早く得らるゝために、大きさは凡て我坪數に換算し、室の大小も疊數で示し、工費は邦貨に換算して有ります。出所は凡て末尾に記して居りますから、必要ならば原書について委しく見て頂き度い。

第壹、三戸建勞働者向長屋

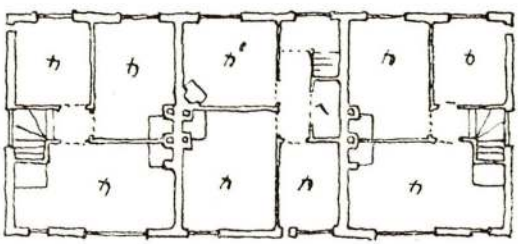
第壹は地方の勞働者向に建てられた三戸建の長屋で、位置は英國ワルグレーヴ、設計者はゴルドン、アッレン氏で有ります。一戸の建坪が約九坪、我疊敷に換算すると、階下の居間が約八疊敷、臺所が四疊半、二階寢室が六疊、六疊四疊半位に相當するので有ります。土地と建築費を節約するため、下屋とか附屬屋を設けず、すべてのものを一棟の内に包容する巧妙な配置

方は、頗る敬服す可きものでは有るが中にも特に注意すべきは、此種のものには珍らしく浴室を階下に置いて居る事で有ります。吾々から觀ると別に珍とするにも當らないが、浴室を寢室に附屬して常に二階に配置する歐米一般の居住習慣からすると、全く異例として特筆する價値が有るのみならず、吾々の習慣によく當てはまつて居るだけに、是を殆んど此儘我邦に、建てゝ觀ても大きな不便なしに住む事が出來るので有ります。事實英國で下層に浴室を置くといふ事は、此種の住宅に在つては、決して贅澤では無く寧ろ必要の設備だ例を擧げたので有ります。



イ、入口　ホ、戸棚
ロ、階段　ヘ、押入
ハ、居間・ト、台所
ニ、腰掛　チ、カマド

階下平面



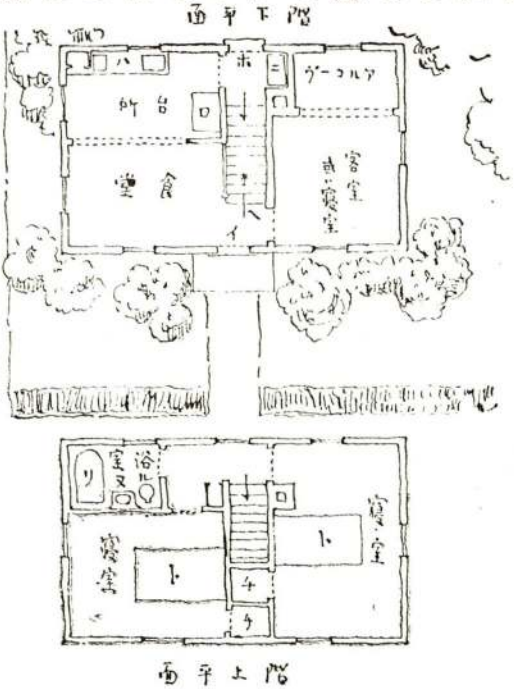
リ、流し　ヌ、浴室　ル、裏口
ヌ、浴室　カ、寢室　ヲ、便所

二階平面

第貳、二戸建勞働者向長屋、

壹と比較に便利な樣、同じ樣な米國の位置はマサチユーセ

ツツ州ロウェルで設計者はキルハム及びホプキンス兩氏で有ります。由來マサチユーセッツ州は米國に在つても率先して、下級殊に勞働者住宅問題に着目し、州營事業として直ちに必要の法規を制定し、州が定めた住宅建築委員の手によつて建築に着手したのが、此ロウェルに於ける住宅經營で有ります。工事に着手したのが千九百十七年の冬で、同十八年春には一部賣約をなし得るまでに進行したので有ります。一戸の建坪九坪强、第一の例と全く同じ大きさでは有るが、第一例の間口に對して奥行の長いに反して、是れは奥行よりは間口の方が擴くなつて居ります。第一例に比較すると著しく間取の具合が大まかで、其樣子も全然異つて居間のかわりに入口脇に少いさな米國流の客室（約四疊半）を置き、食堂と臺所は一室（約十疊敷）を以て兼用し、階上に寢室二箇及び浴槽便器手洗を備へて居ります。一戸の建築費約三千八百六



十四圓で、構造の大要は其建築委員の發表するところによると、大略次の如きもので有ります。

地下室、全部完備

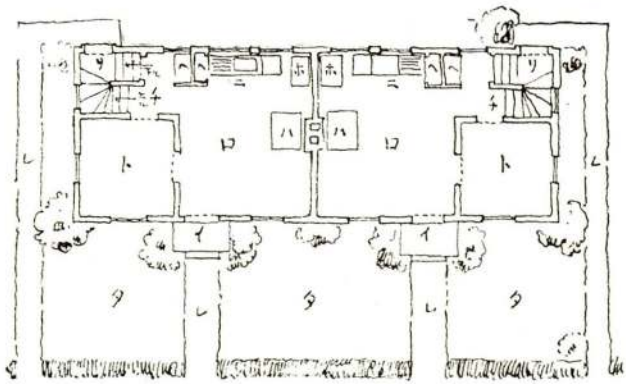
外壁、木骨、フエルト及び色付杉下見板張

窓、コンクリート床。

内部木摺漆喰塗。

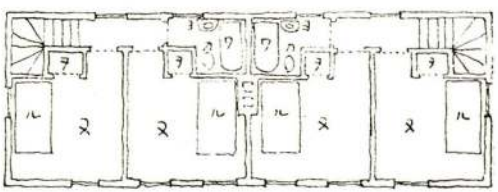
出來合品上下窓十二平方尺

扉、出來合品縦製、亞鉛鍍蝶番



イ、入口　ヘ、戸棚
ロ、台所兼食堂　ト、客室
ハ、カマド　チ、階段
ニ、流し　リ、裏口
ホ、卓子　ヌ、寝室

地下平面



ル、寝台　ヲ、前庭
ヲ、押入　レ、通路
ワ、浴槽
カ、便器
ヨ、手洗器

二階平面

ペンキ塗リムロツク取付。

床、松製油ぶき

外部仕上、サイブレス製白ペンキ塗。

内部仕上、松、色付け油ぶき、臺所浴室壁はペンキ塗其他は紙張

屋根、野地板フエルト敷、石盤葺。

鉛工、亞鉛鍍鐵製温水瀘灌据付、石盤製流し、セメント塗水溜

エナメル塗鐵製浴槽、及び手洗器、水洗式便器、シルコック、冷藏庫水抜き、瓦斯。

線　工、電燈工事一式。

勞働者向の長屋建として坪四百圓餘の建築費を投ずるといふ事は、我國情からすれば贅澤だなどとの批難も有るかも知れないが、凡べて右の樣な建物及附帶の設備を包含しての價格で有るから、是れを我が現在の建築費に比較すると非常に廉く出來て居るに一驚を喫するので有ります。尙ほ同建築委員の發表するところでは相當頭數の有る家族に對しては充分間に合ふだけ廣さで、庭園としての可なりの空地を附けても一戸四千二百圓から五千圓で需要に應じ得るのみならず、是を家賃に換算しても、月額三十圓から三十八圓位で優に經營して行けるといふ事で有ります。(アメリカン、アーキテクト一千九百十八年五月號)

第參　一戸建勞働者向住宅

第二と同じくロウエルに建築せられたもので有ります。設計者は是亦同樣、キルハム及びホプキンス兩氏で、樣式構造設備のすべては第二と同樣で有ります。總建坪十二坪弱、入口のすぐ右に約六疊敷に相當する客室或は寢室用の室が有り、約一疊半のアルコーヴが附いて居ります。食堂は約六疊半、臺所は約四疊半、平常一室として共用し必要に應じて仕切得る樣出來て居ります。臺所には必要の戸棚、流し、水溜、竈の設備をし裏入口脇には氷箱を置いて居ります。階上には約六疊と約八疊敷の寢室二室と浴室を設け、各寢室には相當大きさの押入が附屬して居ります建築費は四千七百二十圓即ち一坪に付き四百圓見當で有ります。單に貸與するのでは無くて、長期月賦で賣却の場合は、兎角長屋建よりは一戸建の方が一般に希望せらるゝといふ事は無理からぬ事で有ります。州建築委員は此點に留意してつとめて獨立家屋を長屋建と同じ樣な價格で建て上げる事に努めて居ると云ふ事で有ります。(前同)(未完)



子供本位の住宅

（上）

向井章

（一）

住宅の問題は、吾々の健康と重大なる關係を保つて居るためでも有らうが、何時でも衛生的方面からのみ觀察され研究されるやうである。併し衛生といふ事が吾々の全体でない以上、他の方面からも之れを觀察し研究する必要があらうと思はれるので、私は茲に少しばかり異つた方面——即ち心理的方面から住宅を觀察し研究して見たい。

事新らしく云ふまでもなく、經濟都市としての大阪が、吾々の住居に適しない事は、誰れもが一樣に認めて居る所であつて、家屋の餘りに密集して居る事、工場の餘りに多い事などが、吾々の健康に適しないのみでなく、地價の騰貴は家屋をして横に擴がつて行くことを阻止して次第に縦に擴がつて行く傾向を示し、三越のエレベーターが單なる裝飾で無くなつて行くと同時に、浪花亭、菱富などがムグラモチのやうに地下室へもぐり込んで行く始末で、紳士といふ紳士が郊外に居を構へるばかりでなく、月給生活者も——これは少々異なつた意味からではあるが——同じやうに田園へ逐ひやられて行く。その事象の善惡は姑らく別問題としても、蓋し經濟都市としての必然的な現象であつて、何事も定まる約束事、これあるが爲めに大阪は益々經濟的に膨脹して行くのである。

舊臘私は接續町村の衛生狀態を調査すべく西

成東成の兩郡に亘つて十一二ケ町村を歴訪視察したとき、その殆ど總てに於て逐年驚くべき人口の增加を示して居るにも拘らず、その經濟狀態に於てこれに伴ふほどの膨脹を來たして居らぬといふ奇なる事實に逢着して、某々町村長に就て其説明を求めた所、それは大阪市内の在籍者で、單に居所を町村に移す者が多く、即ち本籍者で無くて寄留者が著しく多くなつて行くために、現住人口に於て增大を見るが、而も課稅の大部分は大阪市内即ち本人の在籍地に於て徴收され、町村としては殆ど全く得る所がないためで、この現象は單に人間のみではなく交通機關たる電車に就ても其通りで、町村から市内に通勤若くは出動する者は何れも本社所在地に於て定期券若くは回數券を購入するために、町村所在の停留所に於ける收入は甚だ零細なもので從つてその停留所の收入を標準として課稅する町村としては、殆ど得る所なくして而も地上の少なからぬ面積をその線路のために奪ひ去られて居るのである。斯の如くして町村に於ける人口は累年增加しつゝあるにも拘らず、町村としての收入は必ずしも之れに伴ふて膨脹せぬのである。

大阪を逃出して行く者、乃至大阪から逐はれて行く者の如何に多きかは蓋し之れによつて想像する事が出來やう。試みに接續町村に於ける過去五ケ年間人口增加の模樣を示さば左の通りである。

接續町村現住人口調

町村名	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
豐崎町	二六、四七五	三〇、一六〇	三五、一三三	三九、二四二	四五、八九四
中津町	一七、九六一	一八、四三八	一九、三三三	二三、三〇五	二三、八五三
鷺洲町	二一、七八四	二四、〇五一	二四、九七六	三〇、〇三三	三五、七二八
稗島村	七、一四七	七、三三	七、四八五	八、四〇四	九、三三五
傳法町	八、六二九	九、一〇七	九、三八八	一〇、九四四	一〇、九四六
今宮町	一八、五九三	一八、八一七	二三、五八四	二四、五二九	二七、〇一七
津守村	三、九六九	四、六四	五、一八	五、四七〇	六、三五二
玉出町	九、三八七	一〇、三五四	一〇、五一四	一一、四三二	一二、四二四
粉濱村	七、四二一	七、五四三	八、〇一四	四、四五九	四、四九二
城北村	三、六八八	三、八六二	四、一五六	四、九三三	五、九〇八
榎並町	四、七三八	四、九七〇	五、二〇七	五、三六七	五、五三五

鯰江町	二、二三	二、五九	二三、九四	一四、四六一	一四、七九二	
城東村	四、七五五	七、七三	八、一〇七	九、七二一	一〇、七二四	
中本町	二、二七	二〇、九七一	三、九一三	三三、三九	二六、八七七	
鶴橋町	一五、二七	一六、四九三	二〇、二五五	三三、七一八	二七、五八	
生野村	三、三一八	三、九〇三	五、一六〇	五、七三三	五、一九五	
天王寺村	一六、三三七	一七、二五七	一八、四七九	二〇、五一五	三三、九八四	
住吉村	三、六八九	五、〇二一	五、二五二	五、三九	五、〇一〇	
墨江村	六、六二一	六、七五九	七、〇二九	八、〇七〇	八、五〇三	
安立町	三、八〇五	三、八三三	三、九七〇	四、三六九	四、四一一	
敷津村	一、七二四	一、六一三	一、六二三	二、一八八	二、三六五	

以上に數へた接續二十一ケ町村が必ずしも大阪市民の避難地といふ譯ではなくして、別に紳士の住宅としては濱寺あり雲雀か岡あり西の宮あり御影ありといふ有樣で、隨分遠隔な地まで擴がつて居るのであるが、併しそれは數字の上からいへば敢て必ずしも大なりとして數へるに足らぬものであるのと、阪神電鐵沿線西の宮以西の如きは、別に田園都市として特殊なる觀察研究を要すべきものあるがために、茲には姑らくこれを省き、單に接續町村を中心として私の研究を進めて行くことが穩當であらうと思ふ。

偖右に示した人口の增加は、決して生殖的增加では無くして、その大部分は大阪市内の經濟的戰爭に於て凱歌を奏した所謂大小成金か然らずんば生の壓迫から逐はれた敗殘者であつて、その郊外生活をなすに至つた理由として彼等の標榜せる所を聽くと、曰く衛生的、曰く經濟的即ち衛生と經濟とを外にしては全く何物もないのであるが、實際に於て接續町村は果して爾く衛生的であり經濟的であるかといふに、必ずしもそうでは無さゝうである。

試みに之れを衛生的方面から觀ると、大都會就中我大阪市内の如きは、生存競爭の激甚から神經衰弱に罹り易いとか、極度の疲勞と緊張を緩和すべく强烈なる刺戟を要求する結果、アルコホル中毒とか黴毒等に罹る者が多く、更に人口の密集と天空を染める煤煙等によつて不純にされた空氣を呼吸する事によつて、當然呼吸器病殊に結核病に罹り易いとか、更に交通の頻繁な關係から恐るべき傳染病の流行が甚しいといふ風に考へられて居り、而してそれ等は或點ま

では事實に近い想像ではあるが、併しかゝる事柄は實は大阪市内と接續町村とに於て、別段大した相違のあるものではない。勿論衛生的施設即ち上下水道であるとか、醫院病院の設備とか或は一般防疫的施設に於て大阪市内と接續町村とは非常な相違があるためでも有らうけれど、一般死亡者數乃至傳染病患死者數に就て彼此比較して見ると、如上の想像は全然裏切られて居て、接續町村必ずしも衛生的でないといふ事を知ることが出來る。即ち最近五ケ年間に於ける一般死亡者及傳染病患死者數を比率を以て示すと左の通りである。

市及接續町村死亡率比較調（各人口一千人ニ對ス割合）

市町村名	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
大阪市	一七、三	一七、三・一七、九	一八、〇	二三、〇	
豐崎町	三〇、七	二三、七	三一、八	三四、四	三九、二
中津町	二四、二	八、五	二二、四	一九、三	二三、六
鷺洲町	二七、五	一三、九	三六、八	三一、二	三三、八
稗島村	三〇、一	三二、九	三一、〇	二九、二	三九、五
傳法町	二八、四	二五、七	三〇、三	二三、七	四〇、四
今宮町	四一、二	四五、一	四四、〇	四四、三	五三、四
津守村	三二、三	三〇、八	二八、七	二八、九	四三、八
玉出町	二二、四	二七、〇	三〇、五	三五、三	三五、三
粉濱村	一五、六	二〇、八	三二、七	四四、二	六一、八
城北村	三〇、一	二五、四	三〇、八	二七、八	三六、四
榎並村	二三、二	三二、六	一五、二	二六、三	三一、三
鮫江町	一七、三	二一、七	三二、八	二八、一	二八、五
城東村	三一、六	二〇、六	二一、六	一七、七	二六、一
中本町	二六、三	三二、七	二八、八	四二、八	五四、五
鶴橋町	三四、八	三二、〇	三二、四	二九、六	三一、四
生野村	四四、〇	七四、三	五四、三	五〇、一	六一、〇
天王寺村	二一、一	一五、三	二五、八	二八、〇	三四、七
住吉村	二四、七	一六、五	二二、七	二五、九	三五、七
墨江村	三五、四	二三、七	三四、二	三〇、六	四二、三
安立町	二七、一	二二、四	三〇、七	三五、七	三五、六
敷津村	一八、五	二二、九	一八、六	二五、一	三七、〇

市及接續町村傳染病患死者率比較調（各人口一萬人ニ對スル割合）

市町村名	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
患者					
死者					

| | | |

入院し、开所で傳染病の決定を受ける者があつて、此等に對しては消毒若くは桃山病院へ收容等の關係上から、悉く大阪市内發生患者として取扱ひ患者の居住せる町村にあつては、單に關係消毒として其住宅を消毒し家族に對して機宜の處置を施すのみで、之れを發生患者數には加算せぬ事となつて居るから、勢ひ統計に現れた數字は實數よりも少ない譯である。

次に經濟的方面から觀ても、大阪市内と接續町村とは格段な差異がなく、日用品の如きは交通の便宜から、一度大阪市内に持込まれてから更に接續町村に分配されるといふ場合が多く、其の然らざるものも常に大阪相場の影響を受けて可なり高い値段を唱へて居り、殊に住宅の如きはその所有權が大阪人の手に移つて居るか若くは新たに大阪人の手にてよつて建築されたもので、偶ま土着の人の手によつて建築されたものがあると、其持主は利を見るに敏なること遙かに大阪人の上にありといふ連中なるがために、その家賃の如きは必ず大阪相場を目標として居り、甚しきに至つては大阪の家賃以上の高値を唱へて居る向も少くはない。併しこの現象は接續町村の全体を通じて居る譯ではなくして、傳法町の一部とか稗島村の一部とか其他多少交通の不便な地にあつては、大阪に比して確かに低廉なやうではあるが、それも畢竟需要供給の關係が然らしめたもので、若しそれ等の方面に移住者が多くなつたならば、その結果や推して知るべしである。

■ 公衆衛生施設の嚆矢

公共衛生の保全は、數世紀に連亘せる問題なるが、十四世紀に於て伊太利人が惡疫流行を防がんが爲に、交通遮斷策を行ひたるを始めとして、其他の各國も亦之に倣ひ、其後十九世紀の初葉に於ては、伊太利及獨逸兩國の各地方に衛生局の設立を見るに至れり。



汎米會館

會員　安井武雄

世界の耳目を聳動した國際勞働會議も今や其終りを告げて我國よりの派遣委員諸氏は現に歸國の途上にある、吾人は其委員諸氏が會議中に於ける行動の如何を問はず其勞を多とするもの一人である先に國際勞働會議が汎米會館に開催される事を聞いた時に自分は如何にも其選定に當を得た、當局者の計ひを愉快に感じた四五年前である渡米せる知友の彼國からの最初の音信として受取つたのが此汎米會館の繪葉書であつた、其後其記事を掲載した雜誌と之に關する小冊子と得て其建物の由來と樣子を知る事を得て以來北米に於ける自分の最も好きな建築の一つとなつたのである自分が最も好な建物の內で今回の會議が開かれると云ふ事が何となく喜しく感じた理由の一つである、又此建物が西大陸に於けるデモクラテイックの組合の會館である事は此度の會議には頗る適はしいので甚だ愉快に感じた第二の理由である、即ち此稿は此んなシンブルな理由で筆を取つたので唯此會館の建築の一面を紹會するに過ぎないのである。

抑も汎米會館は所謂汎米協會（パンアメリカンユニオン）(The Pan American Union) の會館でる今は其協會の內容や目的に關して說明するのが目的でないから夫れ等に關しては唯協會が公表せる一句を抄錄するに止めて置く。

"The PanAmerican Union is an organization and office maintained voluntarily by twenty-one American republics, controlled by a Goeing

board composed of the displomatic representatives in Washington of the other American nations and Secretary of State of the United States, administered by a Director General and Asaistant Director, chosen by this Board, and assisted by a staff of aditors, translators, statisticions, compilers, trade experts, librarians, clerks and stenographers, and devoted tothe developement and conservation of commerce, friendly intercouse, and good understanding among all American Republics"

斯様な目的と組織で成立した協會は其用に當てる爲めに、約百萬弗を支出して會館を新築したのである、而して其四分ノ三は主旨に賛同した、アンドリユウ、カアネギイ氏の寄附に依り殘餘は合衆國及び他の亞米利共和諸國が負擔する事になつたのである。

會館の設計意匠は懸賞募集の方法に依つて應募圖案七拾八通の内から審査の結果（審査委員

オウスチンダブルユーロオド氏

Austin W. Lord,

ヘンリイホルンボスタル氏

Henry Hornbostel,

故 チヤアレス、エフ、マツキム氏

The late Charles F. Mckim

アルバアトケルシイ（Albert Kelsey）及ポウル、ピイ、クレツト（Paul P. Cret）兩氏（合作）が當選の光榮を得たのである、アルバアトケルシイ氏は一八九六年ペンシルベンヤ大學の建築科のトラベリング、スコラアシツプを獲たる人又クレツト氏は一九〇三年巴里のエコルドウ、ボウ、アートを卒業し現にペンシルベニヤ大學の建築意匠の講座を擔當して居る此他左揭の諸氏は其意匠の各部を擔當して居る。

グツオン、ボルグラム氏（彫刻家）

GutzonBorglum

正面右側の北亞米利加を表象せる彫刻物、及浮彫

イシドル、コンチ氏（彫刻家）

Isidore Konti

正面左側の南亞米利加を表象せる彫刻物、及浮彫

正面入口三連迫持上部小壁の浮彫（二箇）

ソロンボルグラム氏

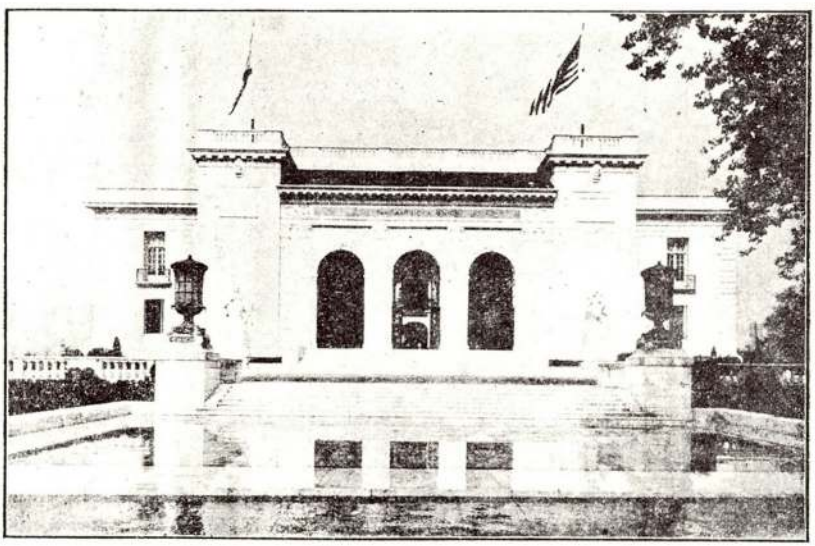
Solon Borglum
前記二氏作の浮彫の上部にある鷲及九鷲の浮彫の意匠及製作

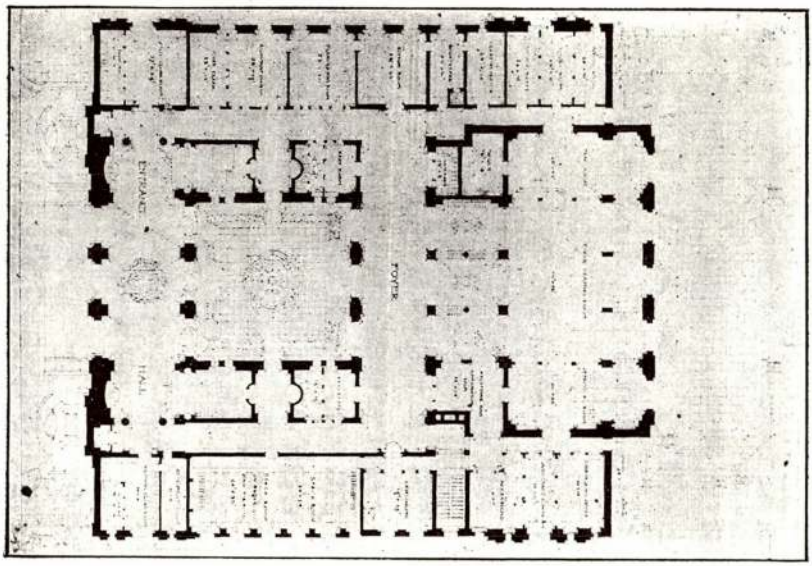
ハリー、ペイン、ホイトニー
Mrs. Harry Payne Whitney
中庭(Patio)之中央にある噴水池の意匠及製作

サレー、ゼエムス、フアルンハム
Mrs. Salley James Farnham
委員室小壁の意匠及製作

又之れが設計實施なる當て絶えず有力なる助言と批評を下して多大の盡をされたるは同協會會長バレット氏(Barret)を始めエリフユールート氏(Elihu Root)駐米ブラジル大使及び拉典亞(ラテイレア)米利加(メリカ)諸國の代表者諸氏で其他建築家ベナルド氏(Benard)(Architect of new Legislative palace in City of Mexico)も亦與て力があつた人である。

會館建築の企圖に就いては同會長バレット氏著の『汎米協會(パンアメリカスユニオン)』と言ふ冊子の中に幾多の面白い材料があるが、此特種の目的を有する會館の建築は一九〇八年五月汎米協會の宣言に基づいて居るのである、是より先一九〇六年のリオ





デ、ヂャネロの會議で決定された如くに協會會館は西大陸の共和政体に關する意見思想の交換報告の永久の中心であると同時に又コルンバスを記念する圖書館として適はしき建物である可く企圖されたので其の建物は活動的の事務所的建物であり又記念的建築であると共に或意味に於て全米共和政体の華盛頓に於けるホームでなければならないのであつた。

斯くて建物の位置は華盛頓西北區第拾七街とポトマク公園(Potomac Park)との隅角に撰定されて、茲にコウコラン美術館、ドゥター、オブ、アメリカン、レボリコション及び汎米會館は華盛頓に於ての重要建築物の一團而かも特色を有する一廓を形作たのである。

斯様な譯で會館は單に所謂公共的建築と言ふよりも寧ろ居住的建築の形式に企圖されたのある『茲に集まる各國の代表者諸氏が一度國を跨ぐ時には恰も已が家に歸へれるが如き感を起すならん、而して燦爛と照りはゆる幾千の銀燭は諸氏の歸來遲しと待ちわびつゝある、二拾一共

和政体の代表者諸氏にして此處に集まる時にや諸氏の心地や必ずや普通の會合に臨まれたる時の如からじ』とは當事者及設計者の言葉である然して此企圖と抱負に對する努力と細心の注意が意匠の各部を通て到る所に見られるのである此建物は會館本館と附屬館（パンアメリカンアテクツス）との二つから成立して居る今其の全体の配置を見るに片側に入道を設けた如何にもインバイテングな馬車廻しに接して嚴かに建つて居る二階建の本館が整然たる整形遊歩庭を挟んで大會室の後方にある附屬館と相對待して居る

本館は全部二階建で約百六拾呎の方形の内に各室が排列してある先づ全体を三ッの部分に大別して其左側の大部分を協會の事務室に、中央部を公衆の用に、右側に記念圖書館を配置して居る其配置は所謂公共的記念建築物の配置法に出立して居るが之に住居的色彩を加へる爲中央大玄關の後部に南歐諸國に見る特種の中庭約五十尺平方のスパニシュパシオ（Spanish Patio）を設けて居る、今參考の爲其主要なる各室の大を列擧すれば次の如きものである。

一　階　（平面參照）

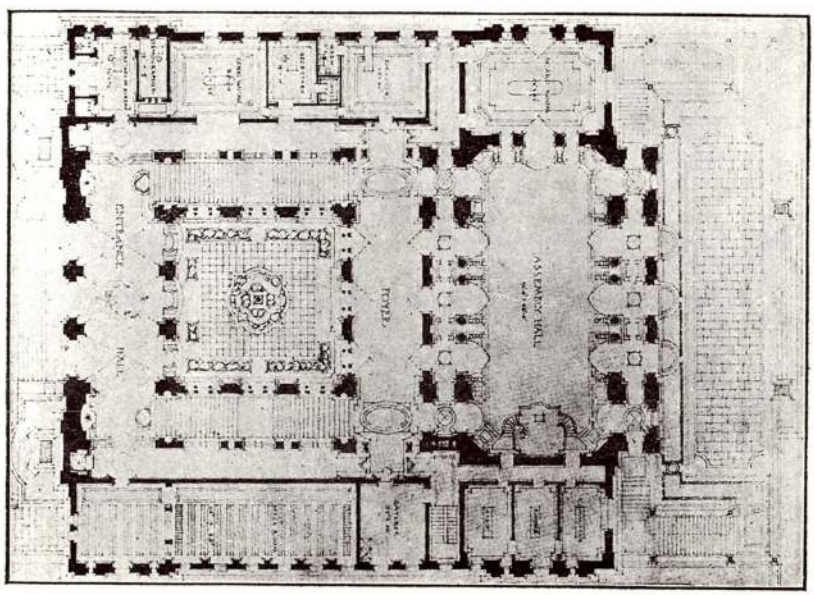
公衆閲覧讀書室	50′－0″×42′－0″
地　圖　室	20′－0″×42′－0″
新聞雜誌閲覧室	20′－0″×42′－0″
圖書館長室	23′－0″×14′－0″
副圖書館長室	23′－0″×10′－0″
豫　備　室	21′－0″×17′－0″
書出納係室	22′－0″×20′－0″
目　錄　室	18′－0″×23′－0″
書　庫	24′－0″×42′－0″
控　室	22′－0″×8′－0″
婦人外套室	22′－0″×16′－0″
讀書室	22′－0″×10′－0″
讀書室	〃
讀書室	〃
通信室	23′－0″×12′－0″
主簿室	20′－0″×11′－0″
著作室	23′－0″×22′－0″
飜譯室	23′－0″×20′－0″
書記室	23′－0″×18′－0″
主記室	23′－0″×12′－0″
男子外套置場（公衆用）	27′－0″×24′－0″

安全庫	16′—0″×12′—0″
外套置場	16′—0″×8′—0″
外ニ化粧室二箇各	15′—0″×19′—0″

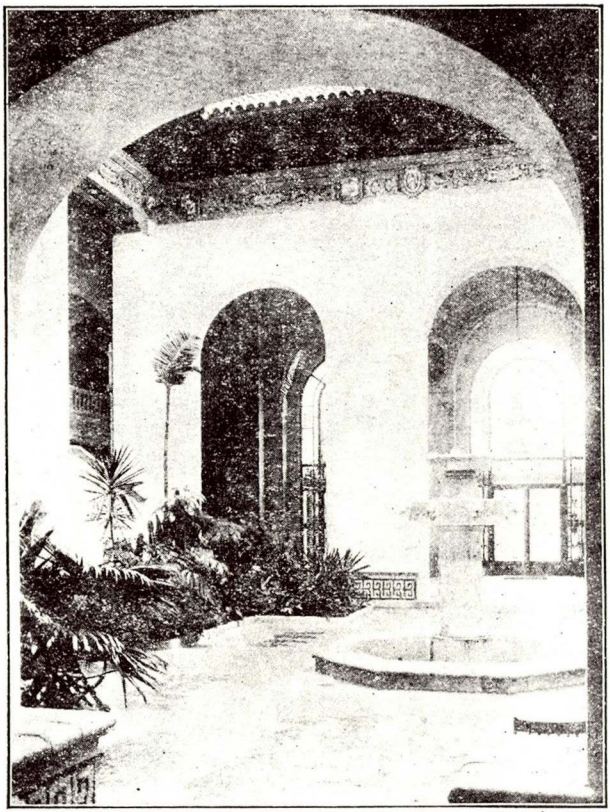
二階

大會室	42′—0″×66′—0″
委員室	23′—0″×15′—0″
同	〃
同	〃
配膳室	22′—0″×20′—0″
書庫	24′—0″×83′—0″
役員室	28′—0″×42′—0″
會長室	23′—0″×24′—0″
秘書室	19′—0″×14′—0″
一般控室	22′—0″×28′—0″
速記室	18′—0″×8′—0″
秘書局	24′—0″×14′—0″
外ニ胸像室	

此平面圖を見る時に吾人の目につくのは總に亘つて非常に開放的である事である言葉を替へて言へば如何にもデモクラテイクである、是れは此平面の最も特色とす可き所であると思ふ、一度正面の扉を排して内に入れば全部が開放し



てある、各室に至る總ての通路は所謂ロッヂャの形式をなして中庭に向て居る、中庭を奥に入れば是直に公衆閲覧室中庭を眺めつゝ玄關左右の大階段を登れば胸像室を經て直に大會室に至る、大會室の後方両端より石階を降れば直に後方の整形遊歩地に出る事が出來る繰返して言ふが如何にも、開放的で平民的である、衆人の用に供する建物は斯く有りたいと思ふ。外部は全部青縞を有する白大理石（ホワイトオヴヨウデヤマトブル）造で正面入口に接する階段は純白の大理石で築造してある樣式は温雅な南歐に見る復興式である此樣式を採たのは四圍の既設建築物との調和を取る爲と一つは亞米利加の二十一共和政体の國民は大抵分拉典人種であると言ふ事から此樣式が撰釋されたのである、又内部の取扱は大体に於て外部の夫れに準じて居るが其主旨とする所は新大陸に於ける各國古有の藝術を網羅せんと企て居る從て原始的な稚氣を帶た所が多いが外部の盛熟した復興式と少しも調和を欠いて居ない所は感賞に値すると思ふ。



此意匠を見ると先づ第一に全部を通じて南北兩亞米利加と言ふ二大部分に區劃し然る後汎米同盟を形作る諸國人の人種を表象する爲に英、西、葡、佛等諸國の藝術を加味し次で全米諸國の原始藝術の分子を挿入して一層意義を深からしめて居る、平面に於て然り樣式に序て然り裝飾に於て特に其然るを見るのである其二三を擧ぐれば(一)正面入口三連拍持兩側にあるバイロンを背にせる二箇の女身の大彫刻は南北兩亞米利加を表象せるもので共に慈母の愛に抱かれたる裸身の若者を彫刻して居る、右側は北米の表象として活氣に滿々している力強き若者は如何にも北方の撓まざる氣分を表して居る左側は血潮漲ぎりつゝも柔和な而して感情的な有樣は南方の天惠に浴せる樣を表して居る前者はGutzon Borglum 後者は Tsidore Kouti 氏の手に成つたものである(二)又バイロンの上部に有る薄肉彫(ローレリーフ)は上記兩氏の手に成れるもので共に南北亞米利加の歷史上最も著明なる物語を錄して居る即一つはウオシントンが獨立戰爭の終局に當り國民の推擧を辭して引退する挨拶の光景を他はサンマルチンが一八八二年南米諸國獨立の爲に義軍を率いアンデス山を踏破しグワヤキウイルにて南米の雄將ボリバールに會し譽導の任を辭する光景を描出してある又軒蛇腹上下部に當て動物彫刻家と有名なるソロンボルグラムの手になれる亞鷲(インクル)(北米の表象)及兀鷲(コンドル)(南米の表象)の扁額を附けて居る(三)正面入口の小壁 "International Union of theAmerican Republic" の扁額の兩側にはコンテイ作、高加索種、及び亞米利加、印度種などの兒童の浮彫を附して南北兩亞米利加を表象して居る、之等は唯正面の一例に過ぎないが斯くの如き手法は意匠の至る所に用ひられて居るので各部繰形の紋樣に至る迄も細心の注意を拂つて居るのが見られる例へばアヅテック及びメイヤンの意匠を正面及び中庭の腰のベルトオーナメント、又バイロンの蛇腹紋樣に "Salte del Ogna" の聖泉に於ける夫れを、階段の手摺には Chihnahua chathodral の夫れを玄關內部の裝飾をグワタルーペに於ける Gu-

adalupe "Capilla del pocited" より中庭に向へる軒先をバルセロナの宮殿に摸せる次ど拉典亞米利加古今の藝術を蒐集し盡さんとして居る殊にバシオ中央に於ける噴水塔の如きはメキシコアヅテック、サポラカン及メイヤンの頗る原始的の藝術を大膽に直寫して居るが周圍との調和を破ない所に苦心の跡が歷々とし表れて居る、西班牙風の頗るセンヂフな五彩の軒に限れた白堊の壁と柱の立列ぶロッヂヤの内緣濃き南國の樹木茂げるバシオは頗る雅趣を帶びた原始的の水塔から絶ゑず流水出づる玉泉を石竹色の八角形の大理石の池盤に湛へて居る此バシオはワオシントン樣な北米地方の氣候には常に開放して居る事が出來ないから氣候の劇しい季節には全部を硝子屋根にて蔽ひ得る裝置をして居るバシオは此設計者並に當局者が尤も得意として居るもの〻であるらしい。

要するに汎米會館は今回勞働開議が開催されたと云ふ點に於てのみならず建築其物が最近亞米利加の建築史を飾るに足るもの〻一つだらうと自分は思ふ、當時駐米英大使ブライス氏は "The Chapel of the well" "The Pan American Building seems to me to be one of the mostfinished and graceful and happily concieved and excuted building that has been elected anywhere within the lastthirty or forty years" と云うて居るが是れは決して素人の御世辭計りではない。

次に吾人は最近北米の建築界に南國風の色彩が濃厚になつたのを感ずる殊に西部諸州に於ける住居建築には甚だしく其風潮が見へる、而してよく南國の趣味を消化して北米の夫れと調和せしめた例は少ない其の點に於て此汎米會館は如何にも大膽に然かも巧に其手法を同化した最近の好建築であると思ふ、自分は汎米會館が總ての點に於て欠點のない建築とは思はないが近頃珍らしい心持よい建物であると思ふ儘に此機會に其一面を紹會したのである。



大阪に於ける劇場の變遷

會員　池田實

「一」　劇場と興行の種類

大阪に於ける劇場が、茲十數年間に如何に變遷し來つたかを少しく瞥見して見度いといふ考が起つたので、思付いた儘を書下すことゝした素より深き研究に基いたのではないことを一言御斷りして置く。

人生に於ける諸般の現象は、凡て極めて深き意義を有するものであるといふことを常に留意する必要がある。其れは宇宙に於ける凡總事物は宇宙を大觀すれば悉く有意義で、其處に全体としての顚律的調和が存在して居るのと同じことに歸する。人爲の事物も單に其のものとしての觀察と同時に人生全体としての立場から考慮する必要がある。只人爲の事物は利害の両面より研究して、其の正しき道に誘導するを要する場合が常に伴ふことを忘れてはならぬ。斯かる意味に於て此の記事が聊かにても參考の資となるならば幸榮とする所である。

劇は目と耳とに訴へる娯樂機關の一として、最も高尙にして又極めて複雜なる藝術として認められて居ることは有識者間に於ける定說である。娯樂其れ自身が人生に採つて大に意義のあるもので、決して輕々に看過すべきものではない。加ふるに思想情操の方面に於ける具体的敎訓又は誘惑の暗示を下すことも尠くない。其と

同時に觀客に依つて歡迎せらるゝ劇の種類等に鑑みて、時代思潮の一部即ち人心の傾向機微をトすることも出來る。

大阪に於ける大小劇場の總數は現時三十九であるが、其の內實際に劇を演じつゝあるものは僅に其の三分の一なる十三箇所に過ぎない、其れも場末の低級なる演劇場をも數へた總計である。他の三分の二は名は劇場であつても實は活動寫眞館である。（內四箇所は南地、新町、堀江の藝妓の演舞場で、二十二箇所が活動寫眞館である）活動寫眞館は實質上劇場に屬すべきものではなく、觀物場の種類に入るべきものであるが、活動寫眞館の大規模のものは時に所謂連鎖劇を加演せむとする關係即ち興行の種類に基く興行場の制限上劇場として表面存立して居る譯なのである。

右の數字の示す所は、初めは眞の劇場として建設せられたものが漸次活動寫眞館に變じたものと、當初から活動寫眞館として建設せられたものとの結果であるが、後者に屬するものは殊に近年のものに多く、比較的舊きものが前者に多いのである。今其の劇場名を左に揭げて見やう。

（一）演劇……十三

大劇場……浪花座、中　座、角　座、辨天座
八千代座、歌舞伎座

小劇場……文樂座、明治座、壽　座、戎　座
いろは座、朝日劇場、清華殿

（二）活動寫眞……二十二

大劇場……朝日座、天滿座、芦邊劇場、蓬萊宮

小劇場……繁樂座、勢廣座、玉造座、老松座、春日座、御靈倶樂部、福島座、大橋座、日本倶樂部、大阪座、常盤座、彌生座、第六愛進館、敷島倶樂部、高千代座、住吉館、第三大和館、玉造朝日座、

（三）特種……四

大劇場……南演舞場、北陽演舞場

小劇場……婦德會場、堀江演舞場

右の（二）の內で丶點を附したものが最初演劇興行をして居たのが後に活動寫眞館に變化したもので其の他のものは最初から活動寫眞館として建設せられたものに屬する。其の數は各十一

で丁度平分して居る。素より或劇場は一時活動寫眞に變化して再び演劇に復して居るのもある而して前揭のものが大阪に於ける活動寫眞館の全數ではなく、其の小規摸のものは觀物場として此の以外に澤山ある。

最初から活動寫眞館として建設せられた劇場は前記の御靈倶樂部が現存して居る內の最初のものであるが、實は明治四十五年一月十六日の南の大火で燒失した前代の小劇場芦邊倶樂部が明治四十三年九月に竣功したのが嚆矢であつた其に尋いて明治四十四年內に出來たのは前代の第六愛進館(南大火で燒失)御靈倶樂部、第一電氣館(南の大火で燒失)である。大橋座、日本倶樂部、惠美須館(廢止)などが明治四十五年に新世界の一部を形成した。

一時劇場の數が多くなつた割合に俳優團の數が比較的少なかつた關係上俳優の勢力が旺盛で興行主が弱つた時代もあつたが、其も一時の夢と過去り、漸時活動寫眞の隆盛を來した結果は眞の演劇場の減少は却て俳優團の過剩を招き、加ふるに松竹會社の勢力に統一せられて低級な俳優の奥行場は活動寫眞に於ける影寫芝居のこはいろ使に舞ひ下つたのも尠くない。

昔から芝居は女の見るものと定まつて居るが大劇場の晝間開場は土曜日曜祭日等の休日以外は殊に女が觀客の大部分を占めて居る。それに近來商家に於ける男子の執務狀態も殆んど官公吏の如く役人的に變化し來つた爲め男子の觀客を減じて一層其の傾向を增長した。又せち辛くなつた時代の趨勢は、晝から晚まで呑氣らしく芝居見物でもあるまいと云ふ思想も加はつて、晝夜二回開演とも成つて來た、近き將來に於ては晝間興行は休日以外には消滅する時期に到達するであらう。

輓近の物價騰貴、生活難の聲は喧しいものであるが、一度劇場を覗いて見たならば、何處にそんな風が吹くのかと驚かるゝ許りの大入滿員の盛況を呈して居る。併し尙仔細に觀察すると其の盛況を來すものは、觀劇料のうんと高いものとずつと低いものとが其れなので、中位のも

のは到底今日に於ては失敗を免がれないといふ現象を來して居る。此處にも明に現時に於ける中產階級が最も生活難に苦しめられつゝあることを示すものである。中產階級は眞にハンモツク生活であるといふて宜からう。

最近浪花座に於ける『藤十郎の戀』は連日最も大多數の觀客を吸收し大喝采を博した大評判の劇である、あれが果してそれ程優秀な好劇であつたらうか、今は其の批評を省くが吾人は此處にも人心の傾向を卜することが出來る。

「二」劇場の數

現行大阪府令劇場取締規則は明治三十年十月の制定に係るもので早くも二十餘年前のものに屬して居る。但し明治三十三年十二月に一部改正せられ而して其後只一度大正二年十二月に其の一部即ち大小劇場の定數の制限のみが改正せられて、元大劇場十二箇所小劇場三十箇所計四十二箇所であつたのが、今は大劇場十五箇所小劇場三十五箇所計五十箇所に定められて居る。

今明治十八年以後に於ける毎年末の劇場數を表示すれば左の通りである。

年次	劇場數		年次	
明治十八年	一一	三〇	全	廿五年
全 十九年	一一	三〇	全	廿六年
全 二十年	一一	三〇	全	廿七年
全 廿一年	一一	二八	全	廿八年
全 廿二年	一一	二八	全	廿九年
全 廿三年	九	二九	全	四十年
全 廿四年	一〇	二六	全	四一年
全 廿五年	一〇	三三	全	四二年
全 廿六年	一〇	三八	全	四三年
全 廿七年	一〇	四一	全	四四年
全 廿八年	一〇	三九	大正	元年
全 廿九年	一〇	四二	全	二年
全 三十年	一一	四四	全	三年
全 卅一年	一八	四二	全	四年
全 卅二年	二〇	四二	全	五年
全 卅三年	二〇	三九	全	六年
全 卅四年	二二	三九	全	七年
			全	八年

右の表を一見すると約三十年間に約四倍の數に增加して居る。而して現行規則の發布せられた翌年の明治三十一年末には七箇所即ち六割強

を増し、三十四年末には二倍となり、翌三十五年には約三倍となつたが其の内の一部は在來の寄席の規模の大なるものが劇場として特に許可を得たのにも基因して居る。

明治三十六年には繁榮座、三十七年には勢廣座の各一座が増したが、廢止したものや浪花座の燒失などの爲め總數には變化はなかつた。三十九年には明樂座の燒失と琴平座の廢止で二座を減少し、四十年には明樂座の再築と一座の廢止で變化なく四十一年には末廣座玉造座の新設と金澤座の燒失で差引き一座を増した。四十二年には改良座が燒失し、尚北の大火で福井座及老松座を失ひ、結局三座を減少した。此の年は三十五年以後に於ける最少の時期で三十座が二十六座となつた。

明治四十三年には、帝國座、芦邊倶樂部、堂島會津座(今の春日座)の新設、北劇場(今の老松座)浪花座の再築、稻荷文樂の改築、婦德會場の特許などで七座を増し、翌四十四年には、歌舞伎座、第六愛進館、御靈倶樂部、福島座、第一電氣館、近松座の新設と南演舞場の再築とで七座を加へ、第二播重席其他一座の廢止で、結局五座を増して三十八劇場となつた。

大正元年に入りては、大正館(今の大橋座)日本倶樂部、いろは座、朝日劇場、大阪座の新設と、常盤座、彌生座、第六愛進館、芦邊倶樂部(今の芦邊劇場)敷島倶樂部の再築、惠美須館の變更で十一箇所を加へたが、其の年の一月十六日には南の大火で、芦邊倶樂部、第六愛進館、第一電氣館、常盤座、彌生座其他を失ひ、稻荷文樂座其他の廢止で差引き三座を増して四十一劇場となつた。

大正二年には玉造朝日座の新設と第一高千代館(今の高千代座)の變更と、岡の座、朝日座、(九條)其他の廢止で結局二箇所を減じた。

大正三年には堀江演舞場、蓬萊宮の新設と住吉館の變更で三座を増し、同四年には北陽演舞場の新設で一座を増し、同五年には淸華殿、第三大和館の二座を増し、堀江演舞場の燒失と明樂座、帝國座、堂島座の廢止で結局二劇場を減

じ、同六年には變化なく、同七年には堀江演舞場、玉造朝日座の再築と、末廣座、惠美須館、近松座、堀江座の廢止で差引三座を減じ、同八年には變更は無かつた。

尙一度右の表を通覽すると大正元年から昨八年末迄の劇場數は約四十箇所である。最初劇場の定數を四十二と制限せられた、明治三十年には其の現在數十一であつたから、制限數は現在數の約四倍の標準で規定せられたのであつた。其が十五年を經た大正元年には略ぼ其の制限數に達し、大正二年には小劇場こそ尙餘數があつたが大劇場は十二箇所に達して制限數に滿つるに至つた。其處で其年の末に大劇場の定數十二が十五に改正せられて、斯くして出來たのが大劇場蓬萊宮である。小劇場も其れに伴ふて定數三十が三十五に改められた。其後大正五年に堂島座、帝國座、同七年に堀江座の三大劇場が廢止して以前の制限でも尙餘裕のある樣に減じた小劇場も一時三十の定數に滿んとしたことがあつたが、燒失や廢止で數に於て大に餘地のあることゝなつた。今大正八年末の定數と現在數とを表示すると左の通である。

	定數	現在數	特種	小計
大劇場	一五	一〇	二	一二
小劇場	三五	二五	二	二七
合計	五〇	三五	四	三九

（未完）

公衆劇の三特色

吾等は總て現在よりも一層善良なる生活、一層高尙なる生活へ改進せんとの向上心を有つてゐる。有つてゐない迄も此種の想像に耽らうとの願望だけは具へてゐる。是は人間本來の資質である。而して此向上心を涵養し刺戟して生活の改善を圖るに與つて最も力あるものは、藝術就中最も動的な劇であるに拘はらず、奥行師の之を演ずるや專ら私利私慾の滿足を目的とし、此の尊き本能的願望を滿足せしめず國家も社會も之を怪しともしなかつた。賢明なる近代の民衆は——從來の單なる觀客的地位に甘ぜず、進むで其創作にも參與し——全社會の爲と云ふ一大目的の下に一致協力して樂まんとするのである。されば公衆劇は一般民衆の協力、閑暇の善用、娯樂による高尙な想像の養成を以て其三特色とする。



米國建築視察談（一）

會員　光安梶之助

はしがき

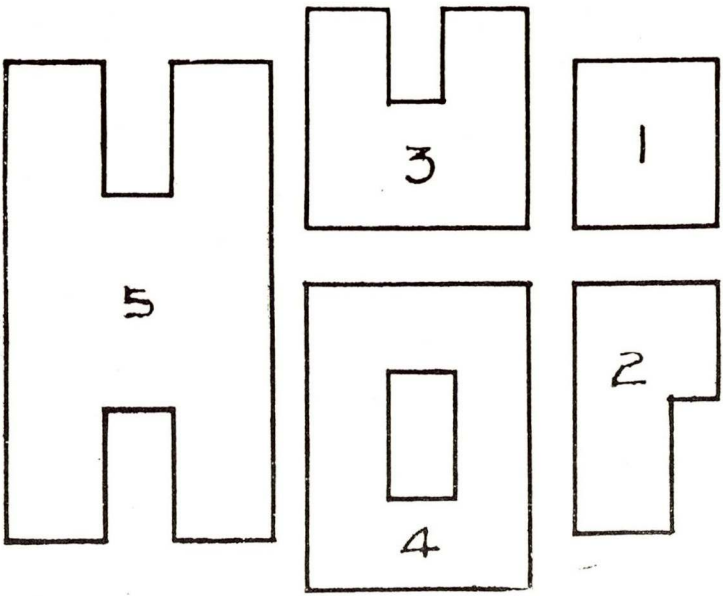
昨年十月末より本年六月初に至る、七ケ月間、米國各地を視察致しましたのですが、米大陸の多方面に渉る建築視察談はもとより爲し得ざる事でありまして、茲に事務所建築の或部分を少し許り、御話申上げたいと思ひますが、米國は歐羅巴に比し、日本との交通が便利であり往來が頻繁ですから、不斷新歸朝者の報告や視察談により、猶ほ又、新聞雜誌等によりまして、あたらしい事珍しい事が、澤山紹介されていますので、私が御話致します事は、格別耳新らしい事でないかも知れませんが、暫く御清聽を煩します

（講演に代ゆ）

一プラン

ニューヨークやシカゴのダウンタウン即ち、ビジネスセクションに於ける事務所建築のプランは千差萬別色々でありますが茲に第壹圖の樣にブロックプラン五つをかゝげました此のうちの1の矩形は最も多いプランですが、比較的新しい高層建築として、ニューヨーク市のバンカーストラストが其の例であります、3は同市のウルウオースビルデイング、4はシカゴ市のフォルストナショナルバンク、5はニューヨーク市のイクイタブルビルデイングであります。

申すまでもない事でありますが、以上のプランは周圍の情況、建物の大さ、及び其の高さ、等により取捨決定せらるゝものでありまして、一概に彼れ此れと云ふ事の出來ないのは勿論であります。

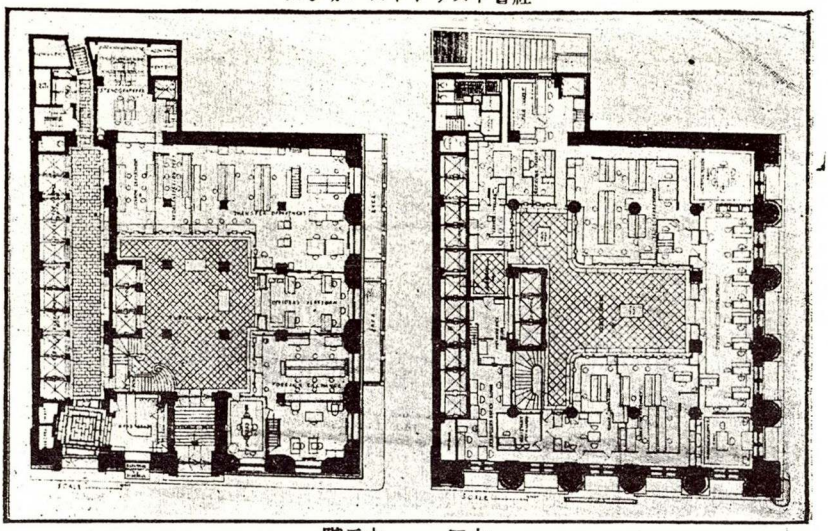


第一圖

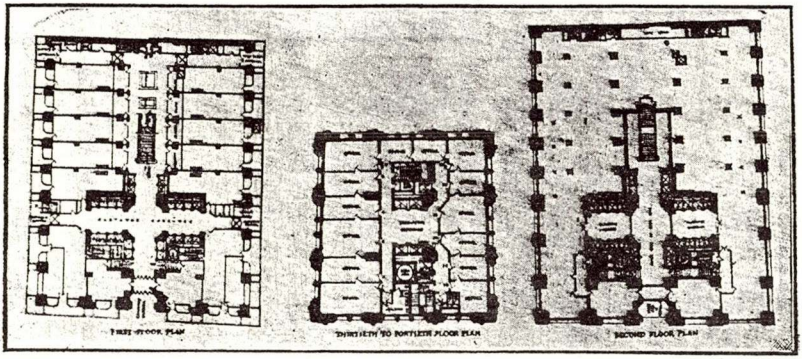
米國の事務所建築のプランニングに就きましてキヤスギルバート先生の說明の大要を御話致しますことが最も便利だと思ひます、ギルバート先生は御承知の通り彼の有名なるウルウオースビルデイングの設計者でありまして、餘談に渉る樣ですが、此のウルウオースビルデイングが其の高さに於て現今世界第一であるのみならず、其の輪煥の美なる點に於ても高層建築中の白眉だと思はれます、非世俗的樣式として考へらるゝガシックスタイルであることにつきて議論があるかと思はれますが、建物の用途を離れてたゞ單に建築のみを注視致しますとき矗々天に冲する彼の建物に對し其の樣式が最も相應しく感せられます、ガシックスタイルを以てする高層建築は他にも澤山ありますが私が視ました範圍では、此のウルウオースビルデイングに比すべきトールビルデイングは外かにありません實にニューヨーク市ダゥンタゥンに叢立つ許多の高層建築界に君臨して居る感があります。

第二圖はギルバート先生がプランニングの說

イクイタブルビルディング　（其一）
メンカーストラスト會社

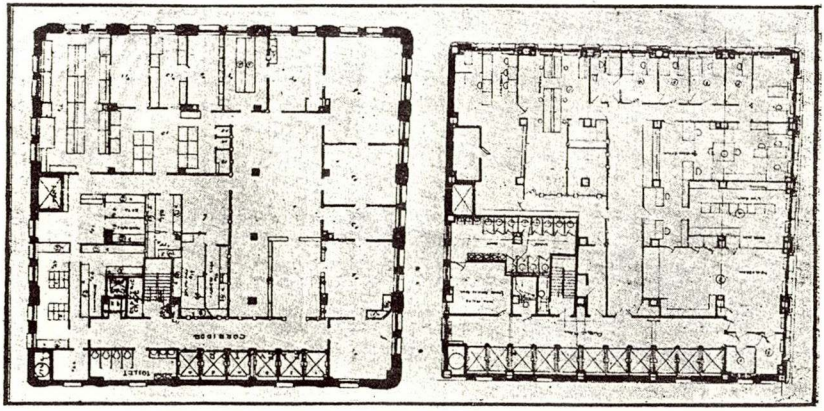


四十階　十五階

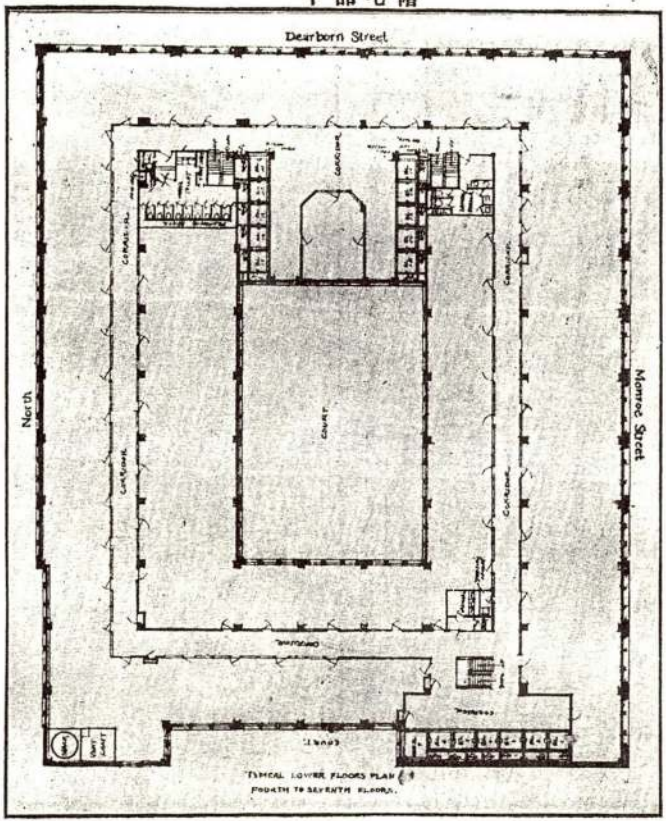


一階　二階

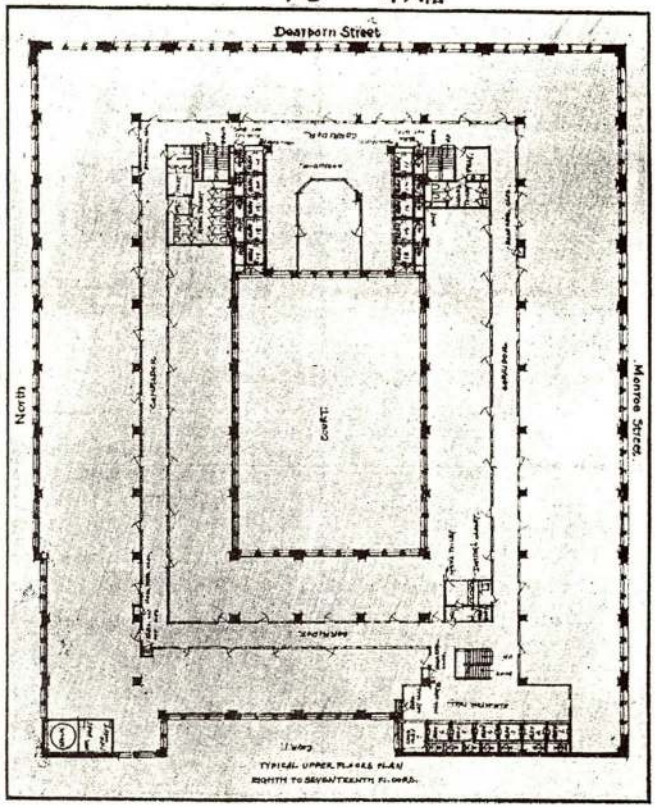
十一階　十六階



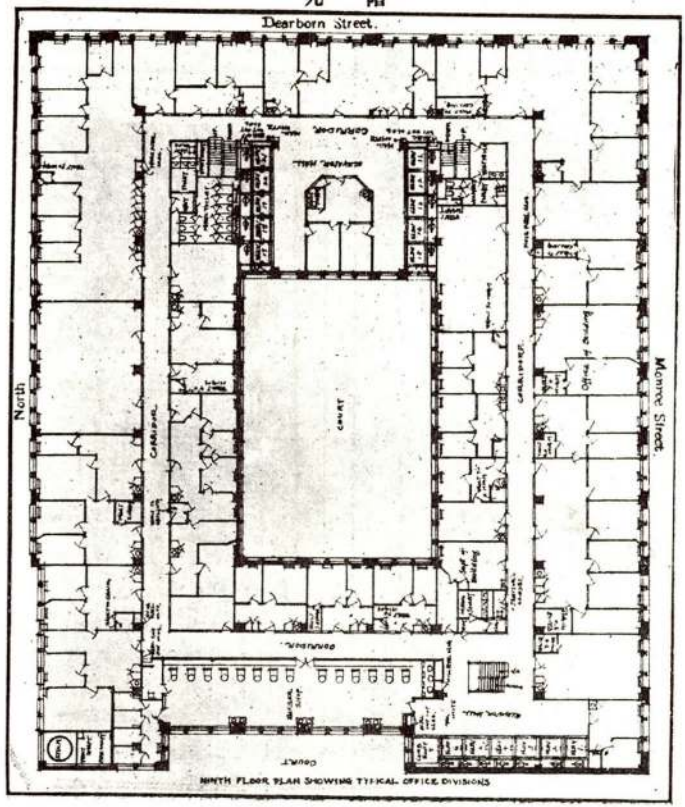
下部七階

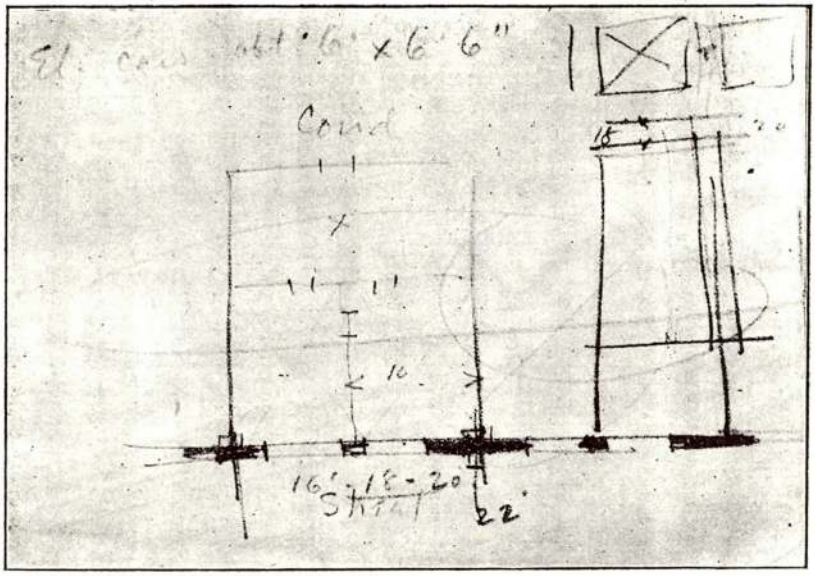

Dearborn Street
North
Monroe Street
COURT
TYPICAL LOWER FLOORS PLAN
FOURTH TO SEVENTH FLOORS.

十七　十八階

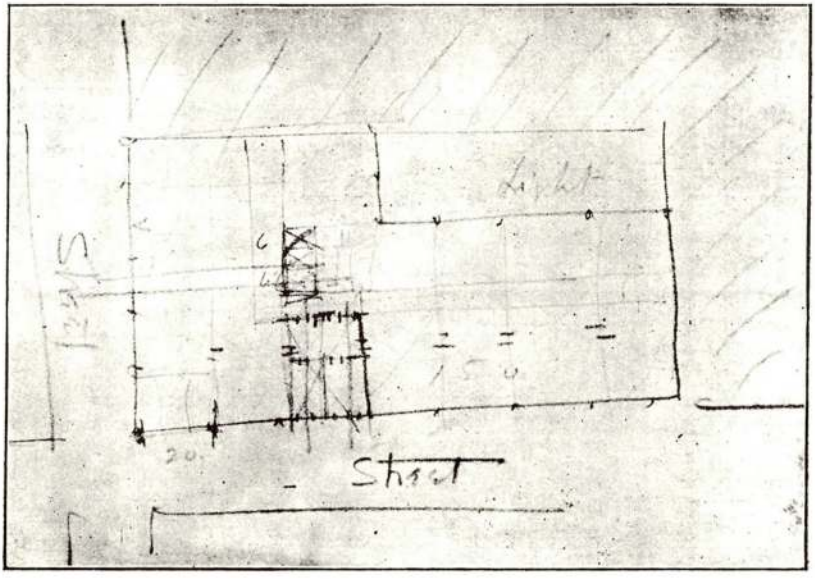

Dearborn Street
North
Monroe Street
COURT
TYPICAL UPPER FLOORS PLAN
EIGHTH TO SEVENTEENTH FLOORS.

九　階


Dearborn Street.
North
Monroe Street
NINTH FLOOR PLAN SHOWING TYPICAL OFFICE DIVISIONS



（圖　二　第）

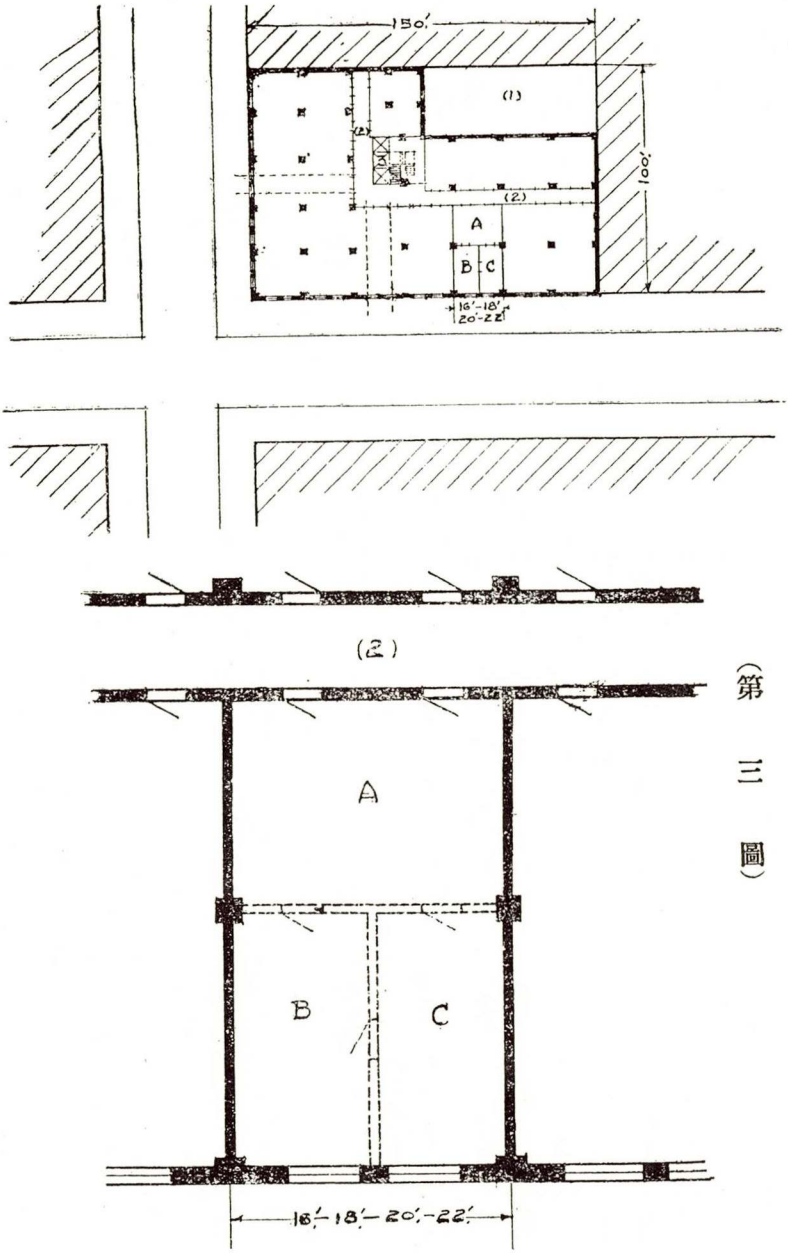


明に當りスケツチされたものですが、此のスケツチには一筆たりとも加筆致したくありませんので、此所で御話致します便利上第三圖の通り稍々スケールに合せたものを製圖致しました、キルパート先生の說明を御話致しますに方り私が極少しばかり註解を加へました處がありますから念の爲め御斷り致しておきます。

說明の爲め假定せられました敷地は十字街路の一角でありまして、百尺に百五十尺でありまず。二面は表向ですがあと二面は何れも隣家に接して居りますので、(1)の處にライトコートを取りましてアングル形のプランに致します、圖は地階即はち第一階も二階以上もゴツチヤになつていますから其の御積りで御覽を願ひますゴツチヤになつていると申します點は、二階もしくは三階以上のテイピカルプランがスケツチされていますのですが、之れに街路との出入口が線點で示してあります、之れは地階丈けに關するのであります。

第一に垂直交通路であるエレヴェーターの位置ですが、高層建築でエレヴェーターサーヴィスは最も重要なるものでありまして、恰も人体に於ける心臟の如き働きを爲すものでありますから、之れを設くる位置は細心なる注意工夫を要します、敷地周圍の狀況を考へなるべく暗い處の無い樣に設計せられますでせうがそれでもなほいくらか暗い場所ができる場合がありますから、然云ふ場所で同時に街路との出入に最も便利な場所をエレヴェーター設置の場所として擇びます。

奥の方にエレヴェーターを置いた爲めに、エレヴェーターを降りて出口を考へて見たり往來から這入つて來ましてエレヴェーターを見附けねばならぬなどは、甚だ不便ですから直ぐ眼に着く場所であることが必要であります、それで圖の如く(3)の所にエレヴェーターを二箇設けます、直ぐその横手に階段を置きまして此所から表への出入廊下二つを設けます、序ですが便所なども値打の少ない暗い所に押込められますそしてエレヴェーターの數が十か二十もあり



（第三圖）

ます場合は別ですが五つや六つ位の數ならば、之れを數箇所に分けないで一箇所に集中致します方が便利であります、しかし建物の面積が廣くて高さがまあり高くない場合などは又別に考へばなりません。

エレヴェーターに就きましては他日機會がありましたら又別に御話することに致します。

柱は十六尺乃至二十二尺間位の間隔に竪てるのが經濟でありますから百五十尺の方の表を七小間に致しまして百尺の方を五小間に分けますそして圖の樣に室内に遠慮なく獨立柱を配置致します、偖う云ふことに致しますと大きなガーダーやトラスなどを架渡す必要が無いばかりでなく基礎工事がラクであります、と云ふ譯は、建物の重量が建坪の全面へ分布されるからであります、地盤の良い處は別ですがさうでない都市では建物の重量が集中せらるゝ時、殊に側廻に集中せらるゝ時抔基礎工事の爲め或る高さの建築不能の場合が生じます、然るに之れを建坪全体にまんべんなく分布致しました場合は、之れを集中せるものに較べましていくらか高いものを建築し得ることになります。

高いものを建てるばかりが能でもありませんが、建物の高さをどうするかの問題は、美術的建築であることを主とする場合は別としましてプロフィットを考へに入れる實用向きの事務所建築では、其の建物が占有する土地の價によつて建物の階數が割出さるゝのでありますから成るべく高いものを建てたいことになります。

日本の大都市の地盤は割合に軟弱なやうですが地價の高い商業區域が軟弱な場合など八九階位のものを建てるにも相當の工夫を要することゝ思ひます、かゝる場合重量を分布することが此の困難を緩和する方法の一つであります。

廊下がライトコートに片寄つて設けられてありますのは、表側は採光が比較的十分でありますから部屋の奥行を多く致しまして隣接家屋の關係で光線の這入具合が不十分なるライトコート側は奥行を少なくしてあります譯です、此の關係は唯今申しましたやうなことの他に東西南

北の方向にも交渉さるべきは勿論であります。

廊下や階段室や便所などで光線の這入らない所は電燈を點けねばなりませんが、亞米利加の事務所は室内の壁も天井も白色もしくば白色に近い色ですし、廊下の腰は白色大理石、側窓の下部即はち膳板の高さが低く上部は殆んど天井近くまで達して居りまして窓巾も可なり廣いですからグラスエリアが多くなります、そして、ライトコートの壁は大概白くしてあります、それに廊下入口の戸は腰硝子戸であり尚ほ此の入口の間に高窓を設けてあります時など室の奥行が非常に深くない限り割合に明くござります。

室を小さく仕切りまして使用致します場合の爲め約そ二十尺間位に竪てられました此の柱間に二連窓を設けまして柱毎に側壁より廊下の隔壁に達する間仕切壁を設け得られますが、此の一室を更に小さく仕切りたいときは、第三圖9に點線で現はしました如くに間仕切壁を設け得るやう窓の中柱即ち方壁を稍々大きく拵へておきます、之等の間仕切壁は、他日隣室を併合する場合や模様替などの時の爲めに改廢を自由に爲し得るやう構造して置く必要があります、隨て此の壁には上部の床などの荷を負擔させることは出來ません、そして之れに使用致します材料は、目方が輕くて、耐火で、音響を傳へないで、も一つ床の面積を塞ぐことがなるべく尠ないものを必要と致します、ハロータイルの如きがそれであります。

廊下よりの入口を二つ設けますのは、側窓の方竪よりの間仕切壁をずつと廊下の隔壁まで延ばしました時に必要になります、もし一方しか使はない時は不用の方を閉鎖して置けばよいのです。

此の一區劃中の三つの室は、普通A室がステノグラファBCの一方が店主とか支配人とかで他の一つが事務員などの執務致します部屋であります、業務によりまして色々違ひますが、A室には見本棚やキャタログがあつたりファイアリングボックスや事務用の雜品棚などが置てあります。

大体斯う云ふやうなことでありまして、之れが亜米利加の事務所建築のプランニングのキーであると思ひます以上の事柄で事務所のプランを見ますれば大概解釋ができるやうであります

階數は數十階を有し建物の高さも隨分高いのがありますが、地階即はち第一階は別ですが階の高さ言換れば或る階の床面より次階の床面までの高さは割合に低うムりまして、先づ十一尺から十二尺位までゝあります、階の高さの餘り高からざるは建築工費に甚大なる影響を與へます、曾に建築費が安いと云ふことのみならず、常住不斷のエレヴェーターの運轉、各室の換氣冬時の暖房等に要する經常費が節約されます、それから階段により昇降致します人々の體力の消耗を輕減し得ることは申すまでもなきことであります。

地階は銀行などは營業室に使つて居ますが、大概の建物は外廻をショーウキンドーに致して居ります、二階以上は、事務所、商館ですが、最上階に近き階を倶樂部や食堂乃至レストラントに使つて居るのが間々有ます、事務所と同じ建物内に倶樂部やレストラントがあるといふことは一寸變なやうですが、階を異に致しませば殆んど建物を異に致していますと大差はありませぬゆゑ障りになりません。

最上階はエレヴェーター機室や換氣室、物置などに使はれていることが多うムりまして給水用タンクなども置てあるところがあります。

地下室はニューヨークやシカゴなどでは大概二層位でありますが三層位のもよくあるやうであります、バンカーストラストは四層になつて居ます、之れを食堂、理髪所、エンヂンルーム、ボイラールーム、物置、などに充てゝいますが銀行ではよくセーフやセーフデポヂットヴォールトに使はれています。

次にライトコートの下の方は第一圖の2よりうに至る四つの何れも地階や二階位までは空地ではありませんで、硝子屋根を設けまして此の部分も地階や二階になつています、ですから地階や二階は敷地全部が建物で塞がれている譯であります。

既でに御承知であるかと思ひますが、御參考の爲めバンカーストラスト、ウルウオース、イクイタブルとシカゴのフオル、ストナショナルバンクの平面圖を御目にかけます。（未　完）



都市『有機體』觀

江村郊邨

▲我都市計劃法の實施されし以來、斯法施行地として最先に指定せられたる處の所謂六大都市は、爾來夫れ夫れ其計劃に向つて歩を捗めつゝある折柄、大阪市は一億有餘の市帑を擲つて、比較的一大規模の都市計劃を遂行すべく、既に其計劃の發表されたることは人も識る通りである。而して、自余の都市に於ても、漸次其計劃の發表さるゝことであらうと想ふ。斯くて、我都市の改善は、我邦自躰の機能的發展として將來に待望すべき重要な事業たることは絮說するまでもない事である。

▲而して、都市の改造は、都市其ものに對する見地奈何に依りて、其意義に多少の逕庭を來すことゝ想ふ。換言すれば、都市をして、單に文化の發源地と思惟し、又は、產業的中樞地域とのみ觀じ、或は、單に多衆を包容する一境地とのみ解するに於て、所謂都市計劃なるものは、單に一地域に於ける住民の幸福を將來する處の局部的改善事業と謂ふより外に、大した意義がないことゝなる。

▲蓋し、都市改良は何處までも改良なる事實であつて、其處に特段なる意義を看出すべき必要なき樣ではあるが、必ずしも幵うでない。都市夫れ自躰を一箇の獨立せる團體と觀ずるのと、單に地境的一集團と解するのとは、都市の能動的發達の上に大なる差異がある。即ち、都市に

は、都市自體の生命と、勿論國家其ものゝ目的に背馳せざる目的を有することが、近世都市の通義である。隨つて、都市は其獨立せる目的に從つて發達向上を遂げ、之を內觀的に解すれば事實に於ては都市構成分子たる都市民の新陳代謝は恒に絕えざるも、其絕えざる裡に始終一都市として渝らざる全體の幸福を庶幾するが其目的でなければならぬ。

▲近世の國家は、國家內の或團體に、殆むど小國家に等しき或程度の權能を附與して、其獨立向上の途を得せしむることを通義とする、是は云ふ迄もなく、彼の地方自治團體なるものである。而して、都市は多くの場合斯の自治體としての存在を有するが故に、都市を殊更ら獨立體と觀ずる事の寧ろ無用の業ざなるに似たるが如きも、今日の都市發達の上より觀れば、所謂一都市とは、必ずしも自治團體としての地域と範圍を等ふすることなく、恰も、我大阪市を大大阪（グレート）市としての一都市と觀る場合に於て、其境域內に包容されたる接續町村即ち大大阪都市膨脹部分の主要地域を占むるものは、他自治團體の一行政區域を包含すると等しく、而も斯場合一都市としては、之等を包括したる一集團としての事實上の結合を指すのが相當である。されば斯の都市を一獨立體として即ち獨立せる生命と目的とを有する斯の都市は、之を一つの人格と觀じて一法制上の人格に似ず一從來、屢々、一箇の有機體なりと說かれてゐる。

▲惟ふに、斯の有機體說は國法學者が、國家を一つの人格視する說の中に於て用ひられある熟語であると共に、社會を一箇の體制として解する哲學觀に於ても唱へられたる熟語、又は或場合の比喩である。例へばヘツケルやスペンサーの如き夫れである。都市が多くの場合に於て地方自治體たる獨立の存在目的を有つて、其活動の比較的廣き自由と權力を有する上よりして國家と殆むど距りなき實體を有せるより觀れば、國家を有機體と說く學者の說は、聽て都市を有機體なりと觀ることの必ずしも不當ならざるが如く惟はる。

▲而して、有機體とは、舊くは、希臘の賢哲プラトーが云へる如くに、『國家は人類と同一の精神作用を有し』『其組織に於て人類に近き程善良なる國家なり』との說に等しく、都市も亦一個體として、獨立生命と目的と作用を有し、而も、人類が其活動の機能組織を有するが如くに都市夫れ自身も其目的を遂行すべき機能組織を有するとの見解である。今日の國法學者に於ては、斯の有機體說を一つの巧妙なる比喩と做す者多く、國家夫れ自身が眞に有機體としての實在を有せるや否や、蓋し疑問ならざるを得ざると同時に、是を都市自体に援用するの妥當なるや否やも疑問である。

▲併し乍ら、或國法學者は、有機體なる語を以て、所說は、自然科學上の語を引用したるに過ぎないものと做し、而して斯の語を國家ー隨つては都市自治体に適用するの當否を檢索するに生物學者が生物を說明する處の原則を援用してゐる。之に據れば、(一)生物は不斷に生活的精華に依りて指導せらるゝこと(二)生物は超自然的絶大なる能力者即ち人格的造物主の製作物であると認識してゐる。而して、今日の進歩せる科學より有機體を解するに、(一)外界の物質を自己に攝收して自營養をなす事、(二)全體の物質を收縮して自ら運動をなす事、(三)自己分裂即ち自己物質の一部を自體より分離して繁殖する事、(四)生あり死ある事、斯の四條件を具備し、其生活機能の活動を遂ぐるが爲に、自個體に或程度の組織立てる機關を有するに於て、初めて一箇の有機體なりと做してゐる。

▲之を都市に觀む歟、恰も國家に實在的の法人格を認むるが如く、都市其ものを實在的の有機體なりとせば、其組織體を有する限り、都市夫れ自体として絶へず生活的の精神に依りて指導せらるゝことは疑ひもなき事なるも、恰も超自然的絶大能力者に依りて生物が發生せると等しく、都市の形成は果して何に因つたのであらうか、若も、之を都市組成分子たる吾々人格者の結合に依りて生じたりとせば、都市有機體說は畢竟一箇の比喩に過ぎざる事となる。更に夫れ

前述の四條件を肯定するに於ては、都市は所詮有機體に似通へりと云ふに外ならぬ。

▲併し乍ら、都市を一箇の社會として觀む歟、進化論者スペンサー氏は有機體と社會組織とに於て四箇の一致点ある事を述べ、(A)有機體と社會組織は、共に單細胞の如き微小なる集合體より漸次膨大して、終に最初よりも十數萬倍と成るにあり、(B)兩者は其初めに簡單なる組織より、其發達中不斷に複雜なる度を增して來る(C)兩者共其初に方りて組織分子間には殆むど何等結合的關係なきものが、漸次に其關係に進み、各分子の生存及運動は他の分子の生存及運動に藉りて可能と成り(D)恰も個體—有機體—が其組織分子たる細胞は絶へず發生及死滅あるに拘らず、其有機體は一個として恒に生存を有するが如くに、社會の生命は、其社會を構成する各個人の夫れとは獨立にして、各個人の不斷の生死に拘はらず、社會は夫れ等よりも長命なりとの趣旨な事を說いてゐる。

▲されど、スペンサー氏は之と共に四箇の其不一致点を擧げてゐる。けれども、今日國法學者が國家を有機體視するの誤れる事を指摘せる反面に於ては、スペンサー氏の如き、其社會組織に於て有機物に寧ろ類似點の益々密かなる事を發見するならむと說いてゐる。都市を、其形體と活動の可能性よりして殆ど小國家に等しく觀じ其組織に於て一社會たるの關係等に徵さば、都市を有機體なりと做すことの果して比喩か實在か、蓋し、强ち過去の思想として排すべからざると同時に、頗る興味ある研究問題ではあるまいか。

▲近代文明の似而非黃金に
▲高い代價を拂ふ時代來らむ

日本人の本質の中には、子供らしさや、精神的並びに道義的健全や、又自足の諸性質が在るが、しかし今日の日本人に於ては、之等の諸性質は借り來られたる樣々種々の轉關せるものによつて、社會的並に精神的生活の凡ゆる領域を通じて窒息してゐる。——近代文明のきらきら光る似而非黃金は、彼等に能く似合はない、しかし彼等は何時かは夫れに對して高い代價を拂ふことになるかも知れない！(ケーベル博士)



都市と社會施設

米國に於ける簡易食堂

會員　日高胖

我邦と米國とは、國民の生活程度を異にし、從つて、食物の種類、材料、調理等自ら差異あるに由り、我邦現在の程度に於て、參考となるべき部分は僅少であるが、何れも給仕人の勞力を節し、失費を輕減するに意を用ひつゝある點は、採つて多少參考となることゝ想ふ。

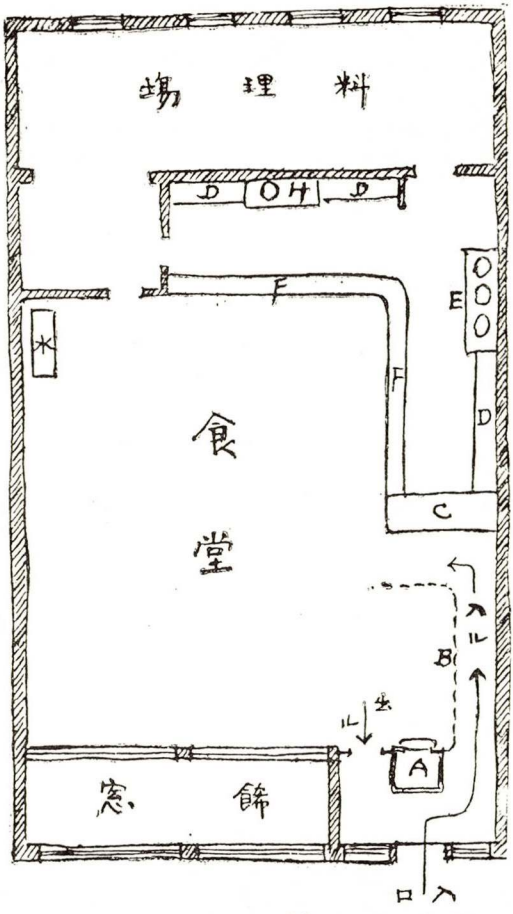
簡易食堂の種類は可成り多數であるが、之を大別して、凡三種類と做すことが出來得る。第一は「カッエテリア」と稱せらるゝものであつて其室の配置は、多く第一圖に示す如きものである。即ち、入口より室内に這入れば、低き棚(B)がある。斯の棚に沿ふて奥に行かば、突當りに臺(C)があつて、多くの盆や「ナイフ」や「フォク」抔が備へ附けてある。來食者は是を自身に一つ宛持つて、食堂に這入れば、「カウンター」(F)があつて、其上と其向側の棚(D)の上に調理されたる種々の食物が皿に盛て並べてある。是等は、多く冷肉又は煮た菜物の類で、温き食物は「ストープ」(E)の上に温められつゝ四五種を備へて在る、「カウンター」の内側には、一二

人の給仕人が居て、温き食物は客の注文に依り一々皿に盛つて出し、冷たき食物は各自好む物を自身に取りて盆に載せ、給仕人の呉る「チエツク」を受取り、食堂内の或「シート」を占領して食事を濟せる。

「ナプキン」は紙製であつて、別に設けられた棚の上に備へてある。食事中に用ゐる飲料は普通の水であつて、水道の水を濾過器で濾て用ゐるのが普通である。「コップ」や「ミルク」の如き飲料は、(H)の所で客の注文に依り各「コップ」に盛て出す而して、「チエック」は、幅壹寸長サ、貳寸位の紙片に、五仙より一弗乃至一弗五十仙位迄の金高が印刷されてあり、各人の食したる金高に應じて、給仕人が其金高の箇所へ鋏を入れて渡し、其客は食堂を出づるときに之を、「キャシアー」(A)に渡して金を拂ふのである。

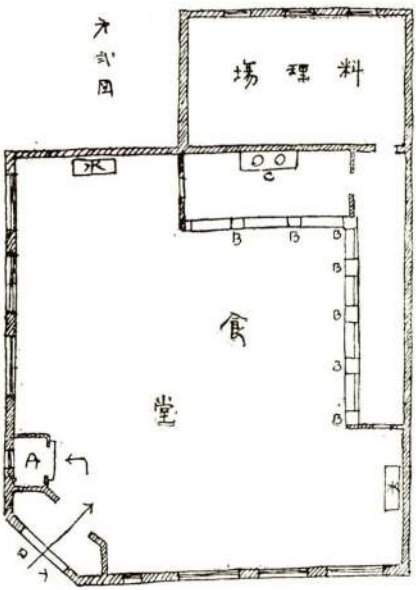
客の使用濟な食器類を片附けて卓子の掃除を爲す者は別に一二人之に掛つてゐる。食器類は

第一圖



料理場内に設け在る熱湯又は蒸汽の消毒機を通過せしめて、後再び使用されるようになつてゐる。

以上は、「カッエテリア」の事であるが、第二は「オートマット」と稱するもので、其配置は、此處に挿入せる第二圖に示す通りである。此處



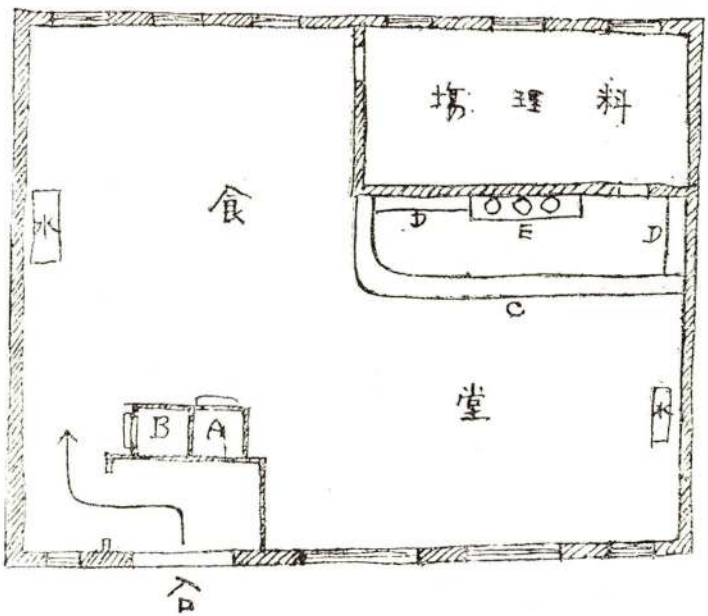
第二圖

にては、其供給する凡ての食物の價は五仙を單位と成し、皆其倍數となつてゐる。料理は總て皿又は鉢に盛り、巾及奥行七八寸成四五寸位な大きさの硝子張の箱で、前の方に片開きの蓋を附し、縦に五六箇重りたるものを二列として各所に配置されてあり、圖中は即ち夫れである。而して、夫れ等の價格は一々其上部に記載され仝一な價格のものを纏めて配列されてある。今仮りに自分の欲する物が五仙の價なりとすれば其箱の横に在る孔に五仙の白銅貨壹箇を入れて「ハンドル」を廻轉すれば、蓋は自動的に開きて其中の物を取出し得ると共に、取出したる後は自然に蓋が閉る仕掛に成つてゐる。十仙の價の物ならば白銅二箇を、十五仙の物ならば三箇を入るれば、前と同樣に蓋を開き得るのである。若も他の貨幣を白銅に替へる必要あるときは、(A)に「キャシアー」が居て、客の望に從ひ幾等でも兩替を爲て呉る。客が取出して空になつた箱へは、後部より給仕人が差入れて其食物を補充して行く。「コッフ非ー」は、「コップ」だけを箱に入れて在るから、他の物と同樣に之を取出して(C)の場所へ持行けば、之に給仕人が注いで呉る。斯くして、各自其欲する處の物を採つて卓子の上に運び、備へ付けの場所より「ナィ

フ」と「フォーク」を持ち來りて食事を攝るのである。

終りに、第三種のものは、特殊な名稱なく、室内の配置は此處に挿入せる第三圖の通りで、等一のものと大差はないが而して、食物は、價格を附して皿又は鉢に盛り、之を棚の上に列べあるのゝ中より、客は隨意に撰擇して夫れを採り、食事を濟ませたる後、出入口の脇に在る切符渡場(A)に到つて自己の食したる全部の代價を云はゝ夫れ

第三圖



に相當する切符を渡さるに依り更に之を「キャシアー」(B)に渡して代價を支拂ふのである。要するに斯の場合は第一の場合の給仕人が一々切符に鋏を入れる勞を節約したるに過ぎないのである。併し、愧し乍ら、我邦の如き公德心の發達が不充分な國民に對しては、今日の場合到底實行し難い許でなく凡ての場合を通じて食器具の紛失等も免れ得られないと思ふ



資料

吉黒鐵道沿線の森林概況

會員　谷民藏

▲森林として東洋無二の資源
▲伐木概要
▲牡丹江の流域
▲間島地方
▲東清鐵道修繕
▲吉黒地方の森林地積と材積

□森林として東洋無二の資源

東亞大陸の東端に於ける吉林省及黒龍江より西伯利亞鐵道沿線を包擁する地方畧地圖を繙くも世界列強の重要視する所以を首肯することが出來る。昨夏吉黒鐵道沿線の森林と鑛山を擔保とする日支借款條約が同地方民の反感を招き吉林省當局者を惱すの係爭を惹起せしは未だ世人の記憶に新なる處ならん。併し該地方民を以て目前の利慾にのみ憧憬する細窮民族となすは早計なるべく、其大半が決して然るにあらず、古語に支那人の觀察を收視と云へり。即ち虚心平

氣に物を觀る概括的の心にして局部的に視界の狹隘なるは寧ろ我國民性の通弊とも云ふ島國根性とも云ふべき乎、回顧すれば日露戰爭の當初より米國や露西亞或は獨逸によりてこの富源に對する斧鉞の端を拓かれ邦人は大なる刺戟を受けて漸く該地方の價値を知り、且我國が歷史的或は地理的に又た經濟的に此地方との關係淺からざるを諒解し昨春に至り我當局者及某資本家の交涉する處となり、或は海外木材調査會なるものをも組織し、其の一部より踏査を始め該地方森林が人跡未到にして斧鉞の味を知らざる原始的森林にて如何にも尨大にして、又其蓄積の豐富なることに驚嘆したのである、末項記載の數字によりてその偉大なるを了知するを得ん。

次而擴汎なる地積と山勢を觀るに、大陸的の一語を以て全般を覆ふべし。吾人嘗て日露の役に、大連の阜頭に上陸し、北方に疾驅する一晝夜、車窓に送迎する山野幾百里、四方の展望は只禿山赭峯の光景轉た荒涼の感を誘ひぬ、而かも夕陽悠々と沒し野犬の吠聲驢馬の嘶聲亡國の調を傳へ、黃塵の路四百三十哩を蹴て漸くに長春に近く。一望展回すれば、海拔幾千尺白頭山を東南に、摩天嶺、黃花松甸子の連嶺相並び溪川その間を盤旋迂回して北するは松花江に注ぎ南するは鴨綠江となる。連嶺南に走つて英額嶺となり、東方日本海に至るの間、穆稜老松老爺土門の數嶺と共に圖們江を抱き、北方牡丹江の源をなす。更に北方東老嶺岑庫嶺を數へ來つて而かも山あれば必ず林ありて而も鬱蒼たる處女森林なり。今此の地積を我本國に比較すれば大約七割强に概當すべく其內約五百萬町歩は濶葉樹林三百五十萬町歩は擇伐後の針濶混淆林にして千古斧鉞の原始的針濶混淆林が實に二百七十五萬町歩ありといふ以上の林地に繁茂する樹木は針濶兩葉にて五十九億餘萬石の巨積に達す。

盛京省に於ける安圖撫松の兩縣に於ける總面積は約百三十萬町歩中にも原始的森林は三十二萬町歩ありて針濶兩葉の樹種を合計せば六十萬石に及び其樹種の內容を見るに『ゴースン』（果松）即ち朝鮮五葉の一種に屬し直徑三尺乃至四

尺樹高七八十尺乃至一百尺枝下五十尺に及ぶもの不齊、樹質は我國の赤松類よりは稍劣等にして彼の鴨綠江に於ける『サースン』杉松即ち樅の種屬なり尙ほ黃花松（ホワンスン）は落葉樹にて我國の五葉に類似するも品質は稍異なる處ありしかも强靱能く我國樅の中間にありて需用の範圍廣汎なり本木は單純林多くして大徑は一尺五六寸乃至二尺位にして三尺以上の大樹は蓋し少量なり樹高は果松と相伯仲するものにて枝下五十尺乃至六十餘尺に及ぶ魚鱗松（ユエリンス）は我國の唐檜に類似した製紙の原料に需用甚だ盛なり。

更に松花江流域には廣汎なる森林ありて其面積は約三百萬町歩針葉樹の蓄積五億萬石濶葉樹は七億二千萬石に達し實に十二億二千餘萬石の巨額に上る需用は概ね針葉樹を以て建築材に其他は製紙或は燐寸の軸木等の原料に何れも重寶のものとす其割合は五と三にして他は雜用に供するものなり。

▲伐木概要

該地方は淸露兩國人の經營するもの多く其作業狀態も自ら異なる處あるも兩者共機械動力即ち科學の進步捗々しからず寧ろ我國の伐材事業に及ばざる事遙かに遠しと云ふべし然れども之に從事する作業人組織は我國と異なる處なし即ち把頭あり大把頭、家把頭、山把頭等に區別し山把頭は現場の人夫等を指揮監督し家把頭は所謂山の會計なり大把頭は我國の山師にして資本主より出資を仰ぎ家把頭に提供するものなり彼れ等の生活は更に低級にして一ケ月間の收得は僅かに五六圓乃至十圓の間にありて伐木事業の經常費は甚しく輕減するものなり運材法は曩に斧頭、鋸頭より斧手鋸手の伐木せしものを把頭の指揮を受け橇に依り或は木材の一端に鐵輪を取嵌め牛馬に依り曳き出し河川に投し管流又は筏流を爲すべきものにして何れも腕力的作業なれば殆ど天然的の流下に宛つる爲め如何なる大森林と雖も河江の兩側二三哩に止るべし。

伐木造材は我國と等しく其寸法に依つて呼稱を異にす一例を擧ぐれば長條とは末口八寸乃至一尺三寸過梁とは末口一尺五寸乃至一尺八寸大

過梁とは末口一尺八寸以上長さは何れも二十五尺乃至三十二尺位なり。

筏流すべき筏の組立方、造材の長さは大体二十五尺以上にて根末交互に配列し其一端に穴を穿ち木片を貫通し楔込栓打ち松五六本乃至は二十四五本を結束し三束乃至五束を連結して一箇の筏と爲すものなり、緩流には連結十數箇に及び町餘の長きを爲し鴨綠江に於けるが如く筏上に家屋を建て家鷄の飼育を爲す者もあり。

▲牡丹江の流域

牡丹江は其源泉を牡丹嶺に起し東北に流れ寧古塔に出づ此地は元清朝の興りし處として有名なる主都なり本江は實に北流し三姓に至り松花江に併流すセ河(エーホー)は三姓の隣地東清鐵道の一驛牡丹江の右岸には露西亞の兵營ありて停車場の設置を見る堅牢なる鐵橋あり交通も運輸には至便至らざるなし、此の流域に於ける森林は大約六十萬町歩材積針濶雨葉にして各二億萬石を有す建築其他構造用材としては約四十パーセント製紙或は燐寸等の原料とも稱すべきは約六十パーセントの見込なり本流域には鏡泊湖の北端に一大瀑布ありて筏の流下困難なる爲め斧鉞を入れず原生林の蓊鬱蒼たるものあり近時は松花江流域に近き部所に於ては峰嶺を越して松花江へ轉搬し黄花松甸子張廣才嶺の東方に於ける森林の一部に輸出す、此附近の面積を見るも大約十七萬餘町歩あり針葉樹は七千三百萬石濶葉樹五千二百萬石の蓄積せるを見る此地區には落葉松の純林多くゴースン杉(サースン)松等の種類最も豊富なるものあり、殊に本沿線は吉會鐵道の豫定線にて張廣才嶺を越て額木索に出で會寧に達するの沿線なり、實に張廣才嶺東麓の森林及び黄花松甸子の森林の木材に管流若くば筏流に依りて容易に三岔口に出で鐵道に依る事とて將來頗る有望なる土地なりと云ふべきなり。

更に鏡泊湖に注ぐに張河の流域には我王寺製紙會社の原料採集の計畫ありと聞く之れが森林の面積は十二萬五千町歩ありて針葉樹約五千五百萬石濶葉樹約四千萬石を數へ中にも唐檜並に樅の種屬を以て占領せり山勢稜なる爲め伐木事

業には頗る容易の者なり、更に南湖頭の森林は其地積十一萬五千餘町歩、針葉樹の材積は四千五百萬石濶葉樹の材積は三千四百餘萬石等は何れも王寺製紙の着目せる原生林なりと聞く。

▲間島地方

森林としては持筆する價値なしとするも順序として概要を摘錄せんとす、本島は鮮人多數入り込み大いに開拓を圖り長白山系の支脈英額嶺の連峰に亘り右は朝鮮營林廠の官行伐木を爲すべき地にして圖們江に流下するものありて一般には平原の地積大多數を爲す、森林面積は僅かに十萬町針濶両葉の樹木を合して約六千萬石ありしも材質甚だ粗惡なるも蓄積稍豐富なれば吉會線の開通を見る曉（アカツキ）には相當の價値あるものと思惟するものなり。

▲東清鐵道沿線

東清鐵道の沿線は其の昔清國政府が露西亞をして森林鐵道の布設を爲さしめたりと云ふ其當時露國政府は東亞の開拓を企畫し支那政府の依頼を奇貨として其の欲する儘に鐵道線路の布設を爲したり當時該地方は人跡未到の所謂原始的大森林にして斧伐の味を知らず線道布設に於ても其實測の容易ならざると同時に臨機の措置に出たるものなりと果して然らば斯る極端なる線路の迂回蚯蚓路の如くせるも其の當時の歴史を語るに餘あり故に該地方の往古は樹海と唱へ居りしも過言に非ざるべき乎以來露西亞政府は彼の東清鐵道に任意支線を布設し或は之れを延長して伐木事業に暴威を奮い廣汎なる平原林は今や殆ど其の跡を斷たり昨今に於ては露支両國人の出資を以て所々に伐木事業を爲すものありと雖も山勢急峻の土地は未だ鬱蒼たる原生林も尠からず今鐵道沿線區域の山林地積を見るに二百四十三萬餘町歩其中針葉樹の材積二億七十餘萬石濶葉樹六億五千餘にして九億二千五百萬石の蓄積ありて建築土木用材として過半を占め他は濶葉樹材の燐寸軸木類に二十パーセント鐵砲臺木或は車軸、機械器具等に適するもの其過半數に及ぶ。

次に海林は東清鐵道の沿線にて最良材を伐出

するを見たり之れ等は素より細密なる調査を遂げたるにあらざるも針葉樹の純林にして地積三千町歩に及ぶものあり更に三姓地方には未だ本邦人の踏査せしものなきも鬱蒼たる密林眼界の及ばざるものあり。

造材としては東清沿線より伐採するもの概ね角材にして其の一邊は一尺二寸長さは二十一尺乃至二十五尺等需用家の注文に依れば任意適當なる方法に造材するものなり

運材方法としては滊車輸送は何國にても異なる處なく運河の便あるものは何れも緩流なるが故に前述せし松花江管流筏流と異ならず但し該地方は寒帶地なれば冬期以降四月の交に至る間は伐木の外休止するものなり

今左に吉林省並に黑龍江西伯利亞鐵道沿線に蓄積樹木の概況を左に記載して參考に資せんとす。

吉黑地方の森林地積と材積概要

A

樹種別	土地面積	蓄積	蓄積小計
盛京省北部（安國縣、撫松縣）土地面積	一八、〇〇〇、〇〇〇町歩		
吉林省江ノ流域ヲ除ク土地面積	四、九一三、〇〇〇町歩		
小計	五、〇九三、〇〇〇町歩		
擇伐針濶混淆林	三、四五〇、〇〇〇	三、八五〇、〇〇〇	
自然針濶混淆林	三一〇、〇〇〇	二、六六〇、〇〇〇	
未立木地	四一〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	二、九八〇、〇〇〇
小計	一、二六〇、〇〇〇	二七〇、五三〇、〇〇〇	二六、三三三、〇〇〇
針葉樹	二七三、七五〇、〇〇〇石	一、八八八、〇〇〇、〇〇〇石	二、一六一、七五〇、〇〇〇石
濶葉樹	二八四、五九〇、〇三〇	三、四八三、〇〇〇、〇〇〇	三、七六七、五九〇、〇〇〇
小計	五五八、三四〇、〇〇〇	五、三七一、〇〇〇、〇〇〇	五、九二九、三一〇、〇〇〇

B

林地	松花江流域	牡丹江流域	土地面積小計
土地面積	三、二五〇、四六〇町歩	六三五、〇〇〇町歩	三、九二五、四六〇町歩
森林（針濶両葉樹）			
樹種別	蓄積	蓄積	蓄積小計
針葉樹	六七七、七六六、〇〇〇石	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇石	八七七、七六六、〇〇〇石
濶葉樹	八四七、三五五、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇四七、三五五、〇〇〇
小計	一、五三三、一四一、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、九三三、一四一、〇〇〇

C　間島地方　東清鐵道沿線

針葉樹	三、三五八、九六八、〇〇〇石	三、七四四、九六八、〇〇〇石
濶葉樹	五、五二一、八五〇、〇〇〇	五、五六九、三四〇、〇〇〇
合計	八、八七〇、八四八、〇〇〇	九、三四、三〇八、〇〇〇

以上は北滿州の一部と之れに接續する地帶の新規調査に係るものにして日露戰役當時より着々之れが調査進捗せられ既に朝鮮總督府の管理に屬せし彼の鴨綠江並に豆滿江流域の材積も本

表製作上茲に再錄統計せば實に可驚數字を示すべし今參考迄に、北朝鮮並に北滿州一圓の地帶に抱擁する森林の面積と木材の蓄積とを合算すべし。

林地	土地面積	土地積面	土地面積小計	
森林(針濶両葉)	九八、四〇〇	町歩 二一、七五五、〇〇〇	町歩 二、八五三、四〇〇	町歩
樹種別	蓄積	蓄積	蓄積小計	
針葉樹	二五、七八〇、〇〇〇	石 二九三、六二一、〇〇〇	石 三一九、四〇二、〇〇〇	石
濶葉樹	三五、五九〇、〇〇〇	六六一、三一五、〇〇〇	六九六、九〇五、〇〇〇	
小計	六一、三七〇、〇〇〇	九五四、九九七、〇〇〇	一、〇一六、三六七、〇〇〇	

以上吉黒両森林(A・B・C・)の合計

林地	土地面積	土地面積	小計	土地面積合計
森林(針濶両葉)	一八、七〇一、八六〇	町歩 二、〇四〇、〇〇〇	町歩 二〇、四一、九六〇	町歩
樹種別	蓄積小計	蓄積小計	蓄積合計	
D 鴨綠江流域		豆滿江流域	(再錄)	
林地	土地面積	土地面積	土地面積小計	
森林地	二、〇四〇、〇〇〇	町歩 二、〇四〇、〇〇〇	町歩 四、〇八〇、〇〇〇	町歩
樹種別	蓄積小計		蓄積合計	
針葉樹	二九五、六四〇、〇〇〇	石	一〇〇、三三〇、〇〇〇	石 三九五、九七〇、〇〇〇
濶葉樹	四一、七六〇、〇〇〇		一五、七三〇、〇〇〇	五七、四九〇、〇〇〇
小計	三三七、四〇〇、〇〇〇		一一六、〇六〇、〇〇〇	四五三、四六〇、〇〇〇

以上總合計

ABCDの土地面積

二千三百十九萬一千八百六十町歩

同上針葉樹

四十一億五千〇九十三萬八千石

濶葉樹 五十六億二千六百八十三萬石

此總合計 九十七億七千七百七十六萬八千石

(本編は次號に續く筈なるも、筆者の事故に由り或は一旦休載するかも圖られず。)

◉T抹の田園都市

又多數の農舍は電話を有し、而も今日吾人の有する不完全なる器械とは異り、其距離の遠近に拘はらず對話者の音聲は、極めて明瞭に聽取し得らるゝ完全のものなるべく、又之に要する經費は今日我田舍に於ける料金の一小部分にて事足るべし。又現今、解決に苦める住宅問題も共同建築組合の助力によりて、健康に適すべき良好なる多くの住宅の建築により解決せらる。



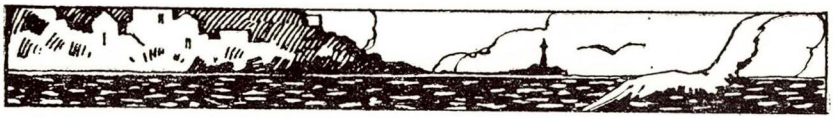


女流の生活觀

◉今一入目醒ねばなりませぬ

平佐純氏夫人　平佐その子

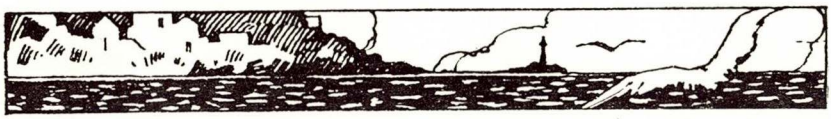
今の生活のうちで、最も改造の急務を要するものは男子の交際上の宴會だらうと思ひます、金錢の不經濟時間の不經濟、衛生上の害、精神的の害と、あらゆる惡い點を備へて居りますのが、此宴會でございます。此害も、其及ぼすことよりは、得る利益の方が多いといふこともあれば格別ですが、今のやうな有樣では害にこそなれ、其得るところは、一切空では全くつまらないと思ひます斯ういふ惡風習は、一刻も早く改造をして、もつと清潔な、そして時間の經濟になるものにしましたなら、社會の爲めにも家庭の爲めにも、又其個人個人の爲めにも、どんなにか幸福でありませう。近頃は、大分斯ういふ點に注意を要するやうになりました故か、以前のやうな、不規律な會はなるべく避けるやうな傾向になりましたことは、寔に喜ばしいことだと思ひます。さういふ會の不要なことは誰しも感じて居りましても特に其廢止運動をした譯でもないのですが、自然にさうなつたといふのは人間の力ではどうすることも出來ない『時の』勢力でございます。此時勢の力は異狀な勢ひで以つて、刻一刻と進んで來て、凡てのものを、其力で改造をせずには置きません。私共女も、此力の爲めに、深い眠りから呼び覺まされました。『うかうかしては居られない』生活の向上を圖る爲めには、眞劍にならなければならないといふ考へが、暴風のやうに押し寄せて來ました。今迄は、人任せにして居た事柄でも、自分で手にかけなければ氣が濟まない程實際的な考へを有つやうになりました。さて自身が實際に其任に當つて見ますと、今更のやうに私共の家庭生活の繁雜なことに愕きます。屋内の掃



除から屋外の掃除、洗濯裁縫、料理と、毎日朝から晩迄同じことに要する、時間と勞力とは、莫大なものでございます。此多くの時間と勞力とを出來るだけせつやくをし度いと思ひまして、私は生活の形式を代へて見ました。

普通どこの家庭でも、毎日朝は御飯を炊いてお汁を拵らへてといふのが、年百年中繰り返されることでありますが、これでは餘りに變化がなくて且つ多くの手數を要します。これをもつと簡易にし度いと思ひまして、朝はお茶漬けにしましたら、大變に都合がよいと云つて、女中達も喜びますので、今度はこれをも一歩進めて、朝はパンにしましたところが、尚一增時間の餘裕が出來ました御飯ですと、お米を洗つたり炊いたりそれを又お鉢にうつしてお釜を洗つてお汁を拵らへて實を考へていれて、それからいろいろなことをして兎に角お膳に坐つて御飯をたべるまでに、少なくも二時間はかゝります御飯が濟んでから後片付けをして又次ぎの支度をしてと、同じことをくり返して居なければなりません。それを朝の部だけパンにしましても、時間と勞力との經濟は非常なものであります。はじめは私共だけさうして居りましたが、だんだん女中達にも其よいことが判つてそれを眞似るやうになりました。其爲めばかりとも申されませんが、人手も大して多くを要しなくなりました爲めに、人手を少なくしましたが、其爲めに用事が差つかへるといふこともありません。朝は暖い御飯でなければいけないといふやうなことは、今迄の習慣上さう思ふので是非さうしなければ、健康が保てないといふのではないのですから、こんなことは改造をした方がよいと思ひます。三度三度同じ食事をするよりは、一度位は變つたものにした方が、變化があつてよいと思ひます。

今迄は日本では、比較的、人間の勞力といふものが安價でありましたが故か、女中等も餘りにだらしなく使ひ過ぎた傾きがあります。それが爲めに、肝腎の主婦が怠けて居て、坐食をして居たので、兎角健康が勝れず、おまけに何をするにも氣無精で快活な點が缺けて居りました。娘時代は非常に壯健な人も結婚をすると身柄が弱くなるといふのは、主婦になるとどうしても運動が足らないからだと思ひます。新時代の主婦は、何よりも、健全な身體と、明るいそして、快活な精神とを養ふ必要があります。それには、今迄のやうに、自分は長火鉢の前に坐り込んで居て横のものをたてにもしないやうな調子ではいけません。主婦が先きに立つて、襷がけをして働くのです。私も、今迄は、兎角無精をして居りました爲めに、生活其ものに對しても大して興味もなく、其日其日を、まるで夢のやうに暮して來ましたが、一度目覺めて見ますと、今迄の生活の無意味であつたこと、經濟上からも非常に不利益であつたことが、痛



切に感じられます。

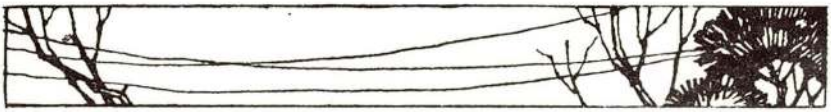
自分で働くやうになりますと、只坐つて居る時と違つて、絹物を着ておひきずりでは居られません。汚れても惜しくない程度のものを着なければなりませぬ。從つて着類なども質素になります。働いて運動が足りますから粗食にも堪にうるやうになります故、坐食をして居る時のやうに食物の選り好みなどをしないことになります。斯うなりますと、勢ひ、經濟上にも相違が生じて來ます從來は、お召を着て居たものが銘仙に代つても大分違ひます。それをも一段下げて木綿にしますと、非常な差が生じます。食物にしたところがおさしみでなければいけないとか、消化のよいものでなければいけないと云つて居るのと、カロリーが充分で口にあつたものでさへあれば何でもよいといふのでは大分違ひます。今迄三人も四人もの女中を要して居たのが、二人で濟むことになりますと、他の二人は他へ行つて有益に使はれませう。大勢の主婦が結束をしてかやうな生活をすることになりましたなら、天上知らずに騰る物價もいくらか調節をすることが出來ませうし、女中難も少なくなりませう。主婦が活動をするやうになりますと其一家の空氣が活きいきと活氣を呈して參ります。自用車でなければ世間体が悪いやうに思つて居たのも、どんどん電車を利用するやうになり大きな包みを下げて市場から歸る事にも、一種の心よい誇りをさへ覺ゆるのでございます。私は、物價騰貴に依つて得た、此尊い賜物を久永に喪うまいと努力をして居ります。

□夕　陽

夕陽にこがね
　きらめくハドソンの
河のさゝ波
　灯影ゆらめく

（ニューヨークリバーサイドにて）

光安生





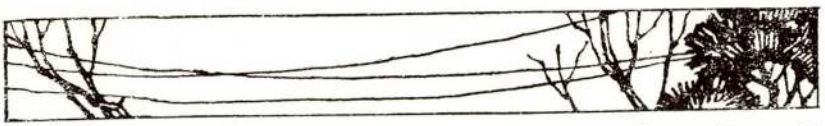
漫錄

四宜草堂漫筆(二)

會員 佐藤四郎

——伎樂と劇と劇場と——

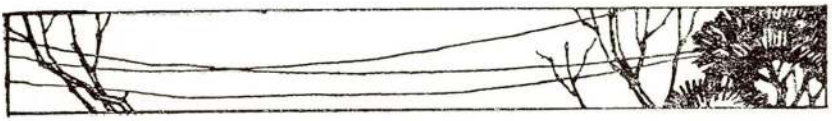
東大寺の大佛開眼供養式にはいつも盛大なる伎樂が演奏された、齋衡二年五月五日の曉方、劇震の爲に佛頭が地に落ちたのを越えて六年貞觀三年三月十四日に之を修補した時の供養記はかなり委しく當時の有樣を物語つて居る、それによると大佛殿の前庭に方八丈の木造の舞臺が出來て四面に額を掛け周圍に高欄を廻らして居る、舞臺の上の東西には八株の寶樹を植え玉幡をかけ禮盤を据ゑる、之をかこんで左右に三宇づつの幄舍があり步廊には千僧の床が設けられた、式がすみ讀經が終ると種々の樂人が南門から參入して殿前を二度廻りながら分かれて左右に立つ、最初のは美くしい大歌女舞と大御儛、次ぎは勇ましい久米舞と楯伏舞、次ぎは女漢踏歌で、それがすむと唐古樂、唐散樂、林邑樂、高麗樂と云ふたやうな外來の舞樂である、此の外來の舞樂の



中でも林邑樂の如きは唐衣唐裳と云ふて頗る異國風な裝束を施し、大なる假面を用ゐ殊に其の菩薩などは繪畫や彫刻に見ると同じやうに莊嚴な彩色扮裝を凝らしたらしく考へられる、此の林邑樂と相伴ふて奏せらるゝものに吳樂がある、等しく西域の樂にて、それ等から即ち後世の猿樂が生まれ、田樂が起つたのである。

平安時代初期以前の伎樂は其の遺物であるところの伎樂面等より想像しても極めて鷹揚な古雅なもので、之に伴ふ音樂でも舞踏でも專ら幻想による繪畫的場面を形づくるに勉めた者らしく思はれる、更に之を鎌倉時代の納曾利面等に比較すると、文明の進歩につれて後世の藝術が徒らに現實味を帶び寫生風に近づき、無理解な技巧と不徹底な約束とに囚はれて居るのであつたかがわかる、夫れ等が一轉して現代に見るやうな象徴的な能狂言となつたのも面白いではあるまいか。

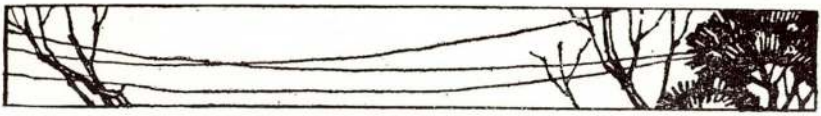
我が國に於ける劇は出雲大社の巫女阿國が黑き絹の法衣を着し眞紅の紐にて鉦を襟にかけ、それを叩きながら踊れる一種の念佛踊に起因して居ると云ふけれども、私はそれを天平期の伎樂にまで遡らせてよからうと信ずる、試に思へ、春の日の麗かにさす處、梵唄と鉦鼓との雄渾なる旋律の裡に寂光淨土の曼陀羅繪を見るが如き菩薩や天人や伽陵頻迦や、夢のやうに舞ふ袖に袂に雪のやうにはら〳〵と花がこぼれる、見れば劇でなくて何んであらうぞ、そして又希臘劇がディオニサス祭典の折の抒情的バントマイムに始まれりと云ふが如く、劇的勤作の成立の起因が宗教的信仰に據つた事は天平期の伎樂に於ても同樣である、それが次第に宗教的色彩を失ひ漸く劇的要素を具備して時代の思潮と生活とを反映するやうになつたのは蓋し三味線を生命とせる音樂



と密接なる關係を生じ所謂芝居なる一種の夢幻的な靄に包擁せらるゝ歌舞伎劇となつてからであらう、しかも其の歌舞伎劇は又專ら型と科白との所緣によりて單純なる情調を喚起しやうとする方向にのみ發達したので極めて狹い意味の劇となつた事は爭はれない。

そうだ、歌舞伎劇はまことに狹い劇である、淨瑠璃を背景とし型と科白とを表現の機關として單純なる種々相に幾多の情調を語らんとするのであるから、殊更に或る感情を抽出して之を誇張し擴大し其の強度によりて之を演ずる俳優の潛在的色調を髣髴せしめねばならぬのである、然しながら現代の人生はしかく單純なるものではない、莊嚴なる宗教の殿堂が科學の鐵槌によりて無殘にも破壞せられたる今日、懷疑と煩悶とを齎らしたる世相は深刻な思想と複雜なる情緒とを以て現代に迫つて來たのである此の渦を卷くやうな科學萬能の人生を痛切に再現し嚴しき實在の壓迫をうけて殆ど餘裕なき迄に緊張せる生活をそのまゝに反映するのには、彼の文人畫的なる歌舞伎劇にては如何にしても力が足らぬ、そこで新らしく何等かの計畫が試みられねばならぬ事となつた、時宛もよし、十九世紀末佛蘭西に起つて歐米に瀰漫したる文藝上の自然主義の巨浪が澎湃として我國の藝術界を襲ひ高く飛ぶ潮の花をあらゆるものゝ上に投げ散らしたので茲に始めて種々なる新らしき試みは實行されたのである、即ち一つの線によりて強く語らんとする歌舞伎劇に對してむしろ數多くの線によりて數多くを語らんとする劇が演出された在來の歌舞、伎劇によりて現代を語らんと勉むるのは全く徒勞に過ぎないと思はれたからである。

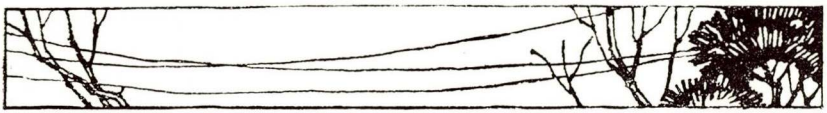
果してそうであらうか、よしんばそれは煩瑣なる桎梏や非理なる因習に拘束せられて居るにせよ、其の根抵を固く至純なる感



情の上に膠着せしめて居る以上は單に其の型のみを忠實に踏襲して見せても其處に永遠の生命が湧くではないか。

繰返して云ふが歌舞伎劇は文人畵的芝居である、抽出したる或種の感情を出來るだけ誇張し其の線の太さによりて描かざる色調を漂渺たらしむるものである、即ち型と科白とによりて觀客の情調に共鳴を求むるが爲に舞臺面の變化は常に觀客に美學上の快感を與へる繪畵的のものである。加ふるに其の舞臺は横に長く縦に淺く高さに低き爲に俳優の動作がともすれば平面的に落入り易く不知不識の間に錦畵的なる舞臺面を構成し來つたのである、科白も次第に現實の社會と離れて音樂的のものとなりたる『めりはり』と稱する一種の形式を構成するやうになつた、劇が繪畵的となり音樂的となればなるほど現實を超越して幻夢的のものとなる事は勿論である、そして又其の夢幻的になつたと云ふ事が科學を謳歌する現代を語るのに最も不適當であると考へられた要點である。

數多くの線によりて數多くを語らんとする傾向は敢て新らしい劇ばかりでなく、それと全く反對の地位に立たねばならぬ筈の歌舞伎劇に於てすら遠慮なしに試みられた細かい藝だと云ふのが無暗と珍重されて來た、血の滴るやうな現代生活の一片を切り取りてそれをまざ〳〵と舞臺の上に載せたのがわけもなく大向ふの喝采を博した、されば夫れ等の劇にありては音樂も繪畵も情調も更にたいした問題ではない、却つて俳優の動作や言語や又は劇の展開などが如何に多く現實に彩られていかに巧みに現實を物語るかと云ふ事が極めて要重視されるのである、即ち現代生活のそのまゝの再現である、寫實である、我等の日常接觸して居る世相を再び目前に強調せしむるのである



然し、私は其の乾燥無味なのと威壓的なのとに堪へない、至る處矛盾に充ちたる現代の社會組織は汽笛を鳴らし煤烟を吐き出しながら日一日と民衆の生活を脅威し壓迫し來るが爲に、現代の世相と云ふものは淺ましきまでに血と涙と嗔恚と忿怒と不平と傲慢とにかき亂されて居る。終日營々として其の湧き返へるやうな渦巻の中で矛盾の悲哀と鬪爭の慘苦とを味ふて居る者が更に又劇の世界に於て同じやうな或は又一層強められたる世相に當面して、疲かれながらも青く鋭く光つた神經を刺戟し戰慄せしむると云ふ事は私の堪へない處である。

是に於てか私はあの夢幻的な劇を思ふのである、一つの太い線によつて人生の或るものを髣髴せしめやうとする象徴的な歌舞伎劇を憧憬するのである、劇の世界からは出來るだけ現實を取り去りたい、あるがまゝの社會組織により意識的にも無意識的にも強制せらるゝ恐るべ現實は之を現實として當面するのみにて既に充分である、更に其の再現を欲しないのである、求むる處の劇の世界は能ふかぎり象徴的のものでありたい。

天平の伎樂は曼陀羅繪に於けると等しく何等の陰影をも附隨せしめなかつたらうけれども力強い太い線によりて幻想の世界を物語る立派な象徴劇であつた、生ま〳〵しい現實を抽出し來り一種の威壓的な態度を以て問題の解決を迫るやうな寫生劇ではなかつたのである、鎌倉時代の假面の徒らに淺薄なる現實に即して感情の空虚な誇張に過ぎなかつたのを見ると、此の時代の劇的動作のいかにも表面的であつて空しく運動神經を疲勞せしむるが如きものであつたかを思はしむるが、天平の伎樂面が普通人の顔の約四倍位な尨然たる大さを有しながらも白熱したる感情の或物を端的に型式化し



たる處に無限の藝術的價値を見せて居るのに考へても其の伎樂はいかに象徴的な氣分に富んで居たかは想像するのに困難でないであらう。

此の伎樂に源を發した猿樂は室町時代に於て一轉して象徴的な能樂となつた、能樂の歌詞とも云ふべき謠曲は音律學上むしろ低級なる間拍子の樂に過ぎざるも猶且つ國民の間に一大勢力を有して居るのは何の爲であらうか、其の章句の艶麗莊重なる之を口にすれば言に金玉の響がするのにも依るのであらうが、私は却つて能樂の古典的な象徴的な雰圍氣が現代人の胸奥の琴線に共鳴する處が多いからであるまいかと思ふ。

現代の生活はあまりに科學の壓迫をうけて困憊して居る、即ち連續せる白日である間斷なき疾驅である、此の時に方りて誰れか靜かなる月明の夜をしのびおだやかなる休息を思はざる者があらうか、斯くて茲に浪漫的な思想が湧き象徴的な傾向を喜ぶやうになるのは蓋し自然の數であらう。

斯の見地に立ちて私は歌舞伎劇を憧憬するのである、文人畫的象徴劇を愛好するのである。從つて又明治年間に歡迎せられた所謂默阿彌物と稱するものゝ如きは歌舞伎劇の邪道として之を排斥したい。

曾つて葛野工學士は市民の精神教育の機關として市民劇場の設立を高唱せられた、私は其の市民劇場の一部として我が國に生れたる鄉土藝術として歌舞伎劇の爲の特殊の劇場の設立を希望するものである、と云へば其の劇場は現在都鄙至る處に存在して居るではないかと云ふ聲が擧がるであらう然し私の望む處は帝劇でない、歌舞伎座でない、南座でない、浪花座でない、思ふに夫れ等は總て過去の歌舞伎劇場である、營業主が利害を打算して建築したる營業本位の劇場である、脚本も俳優も夥しく犧牲にせられたる劇場である、其處に如何にして純眞なる藝術が生れて來るであらうか。

（つゞく）



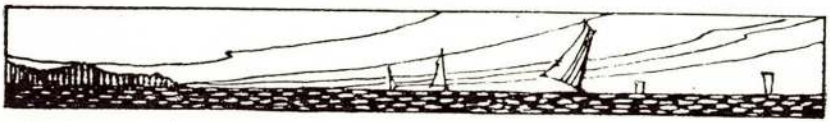


訪れの記

□□『家相見』君と僕□□

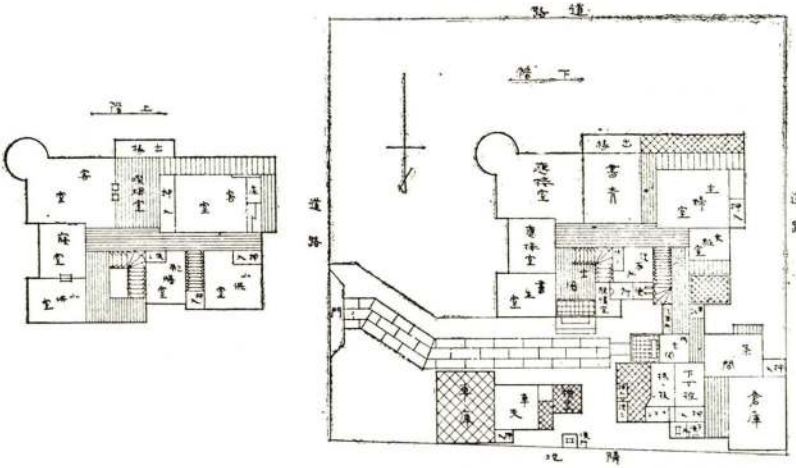
K S

天涯放浪の遍土は、其頂ける三度笠に誌して曰く、『十界無二東西一焉有二南北一哉』と。昔は、コロンブスのお爺さん、印度洋航路の探險に、端しなくも、太洋の眞只中で、アメリカといふ大土塊を目付け出した其前迄、世界は偏平だ、イヤ、眞ッ四角だのと、當時の物識りが互に赤目を剝き合つた頃ならば『焉有二南北一哉』の哲學觀も聊か怪しいものだが、地球は圓い、宙宇は四角が、六角か、八角か、乃至は圓いか、遠の科學者も、無極無邊際靡哥不可思議で通用する現代にては、方位抔といふ事も、所詮は手鞠の飾り絲のような地球の經緯度線位なもので、鵺ではないが、極南の尻つ毛は極北の頭まで、極東の裏口は、極西の入口といふ理窟にもなる譯、誰やらが言つたように、哲學者と云ふ人間は、無闇に『原則』とか『方法』とかいふ重も荷を揹へて己のが首にぶら下げ、自ら背負へない、此の重も荷に苦むのだと云つたように、一体、人間といふものは、無闇と自己の周圍へ彼樣に種々な想像線の埒を結ふて、自ら圍りの中へ這入りたがるべく出來てゐるのではあるまいか。若もソウであるならば、『家相見』君は斯の埒の巧妙な、そして餘程科學に超越氣味のある一種の建築家であらう。奈何な罕世の大建築家が近代科學の粋を蒐めて淋漓たる苦心の極に成つた



大設計案でも『家相見』君の一瞥には一と耐りもなく毀き毀されるのだから、偉らからざらむとするも豈に失れ得べけむやである。斯の偉い先生達の高見を聽きて、其金科玉條たる家相上の原則？でも承つたならば、家相杯と蔑視し氣味の得て近代科學が攪ぜッ返した私共のあたまに、成る程と斯の不心得振りを匡正出來得むかと、記者は、建築に關する迷信傳說を調査攻究する我協會第五部委員會から『目て參れ』の簡命を幸ひに、此處に挿入の設計圖を携へて二三の斯道大家？に鑑定を請ふことゝした。

先づ、取り敢へず門を叩いたのが、大阪を西に去る幾十哩の或る繁華な市街に門戸を張つてゐるTといふ家相家であつた。―ちよつと斷つて置くが、此處に挿入した設計圖は決して假裝でもムテンでもなく、眞實く大阪上町邊の或お醫者の設計案で、眞正正銘なものである。―記者は刺を通じて、案内さる儘に其事務室



に入つてちよつと面喰つたのは、如何にも其事務室の堂々たることであつた。八疊許の室には絨緞代りに華やかな花莚を敷き、入口より右手に多くの簿册や文房具を齊然と列べたデスクが四脚に、對角に備へた姿見も灑洒な新しい氣分を湛へ、壁の一隅へ取付けた電話機からコードを取つた卓上電話機の備付けに、先づ奈何にもビジネス氣分を現はしたのは少くとも周代以來幾世紀の傳統たる古苔蒸す家相商賣も遺に文明の氣分に浸つたものだなアと肯かせた。室の一隅に、褪色朱成せる織物にて覆ひしターフルを前にして、悠然と安樂椅子の赤地の小蒲團に身を埋めたる此家の主公即



ち僕の所謂『家相見』君は、打ち視たる處、四十格好な豐頰美髯のゼンツルマンタイプな男、大島紬の羽織と仙臺平の袴に、お約束の通り鼻梁には金緣の眼鏡輝き、短かく苅り込んだ鼻下の八字髯と、はいがつた頭髮の分け具合に、成る程是では事務室の近代的なるに相應はしいと記者は何時の間にか『家相』抔といふ古典的な氣分は喪せて、何んだか辯護士のオフイスにでも來てゐるかのような氣分に襲はれ氣味であつた。

併し、熟ら〳〵物に惟ろ……じやアない物に懷ろ具合を顧るに、此の調子では到底三圓や五圓の鑑定料で追つ付きそうもない、扨て『先生お禮は？』『ハイ、イヤ何ちよつと鑑定しただけの事ですから五十圓で宜しい』と來たときは、僕なるもの一大恐慌たらざるを得むやである。仍で鑑定料の緣日商ひでもあるまいから記者は如かず其値段から決めて掛る事に所存の臍を固めた。

『どうも御多用中恐入りますが、此度斯ういふ設計で家を建てようと思ふて居りますので、先生の御鑑定を願ひ度ふて參りましたが……』

『ハア〳〵左樣で……何御商賣なさいます？』

『私自身ではないのでムいますが、商賣は醫師なのです』

『ハア〳〵夫れは〳〵。わたくしの名前は什うしてお知りになりました？』

記者は心中聊かハツと思ふた、が、抜らぬ顏で『エイ夫れは確か……何んとか云ふ方でした、つい思出しませぬが、其方から聞いて參りました』

『ハアーそうでムいますか、鑑定にも種々ムいましてれ、わたくしの方では夫れ〳〵規定を決めて居りますが……』

記者はこゝなんめりと透さず、

『一体御鑑定料はどういふお極めなのでしようか』

彼れは徐ろに、『規定書』と誌した印刷物を取り出し乍ら、

『大体を申上げますと、皆な坪數の割で頂戴して居りますが、單に圖面の上で說明するだけでしたら坪一圓の割で、鑑定說明書を付けますと坪二圓五十錢頂戴致すことにして居ります』

記者は何喰はぬ顏で『ハア〳〵』と肯きつゝも、物に圖面の建坪を胸算して、既に問題は決せり矣と思ふた、建坪七十幾坪、坪一圓にしても約八十圓、若し夫れ坪二圓五十錢に至りては、正に二百圓の鑑定料ならざるを得んやだ。

彼れは件の規定書を記者の面前に展開し乍ら、

『當方では斯ういふ規定になつて居りますが、鑑定料の如きも或は他より聊か多額のように思はれますけれども、『家』といふものは一旦建築致しましたが最後に至りまして幾等氣に入らぬとて、又家相が何かの事に影響するからとてソヽ容易に取り代へる事の出來得るものじやムいませんからなア、多額な建築費を投ずる割から致し



ましても、又一生涯許でなく其家の在らん限りの關係から致しましても、鑑定料の二百や三百ほんとうに廉いもので厶いすよ。』

奈何にもゴ最もな理論だ。――彼れは吸ひ差しの敷島の灰をちよつと指先きで拂つて、

『先日も或る富豪から住宅の設計を賴まれまして、種々に研究致しました結果、家相上から申分のない家で、而も豫定より二坪減じる事が出來ました。其建築像算は別と致しまして、假りに坪五百圓としますれば忽ち一千圓といふものを節約が出來たのでム います。是だけでも鑑定料抔は餘り問題でもないでしよう?』

斯う云ひ切つて、彼れは、記者の『感服』を何處かの隅からでも目付け出さんかのように、凝つと記者の顏を見詰めた。そして、彼れは最後の止めでも刺すかのように

『人間一生の事ですもの?、』

と打つ遣るように結局を擲げ付けて安樂椅子にどんと身を埋めた。

『……』

『……』

彼れは再び身を延ばしてターフルの縁りに右の臂を支へ、『どうだ! 亡者共感心したかッ』と云はん許の顏付きで、左手に敷島の袋をいじり乍ら

『この間も面白い事があつたのですよ、わたしがれ、或富豪の邸宅を鑑定しました處が、其後になつて高野の坊さんが夫れを鑑定したのでム いますが、わたしの鑑定と異ふといふので、わたしは其坊さんと議論しまして、結局わたしの方がよかつたのです』

心なしか、勝ち誇つたような、又何んだか、高野と縁のある法螺のような眼を睜つて記者の顏に見入つた。

『ハアそうですか、それは面白かつたですなア』

記者のお座成りな挨拶も何んだか高價なものを買はされたような氣がした。そして、記者は窃に思ふた。奈何にも『鑑定料の二百や三百で、世の幸福といふものが買はれたなら、此奴一番あの社會政策抔といふような宇遠な事は廢して、先づ、家相鑑定思想を高調して、普及せしめた方が、何んぼか捷徑な政策かしらと思ふた。併し、斯麼政策の事よりは記者は差當り此の場の結末を付けねばならぬのが何よりも當面の問題である。仍で、

『イヤ色々とお說を承つて奈何にもゴ尤なように存じますが、一應立ち帰りまして相談の上更めてお願する事に致しましよう』

と慇懃に頭を下げた。彼れは奈何にも應揚に肯きつゝ

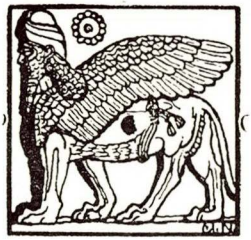
『では御都合で何時なりとも……何れ實地も見せて頂きますが、今度お越しの節前以て其設計圖を郵送して貰ひ度うム います、多少研究して置かればなりませぬから……』

『承知致しました何れ其内に……』

といふものゝ、記者の問題は既に決してゐる、衷心聊かお氣毒にも思ふたが、態ろに辭しつゝ表に出たら、折柄冬空らの晴やかなる大陽の光は斜に、深秋の長閑けき氣分が大路に漲つてゐた。記者は思ふた』

『世の中は奈何にも廣いものだなア

(追記。次號には大阪に於ける或る家相見君と僕の珍問答と鑑定を掲ぐることゝする。)



□折にふれて

おほらけく生命の清水たゝへける
　靈には宿る影も亂れず。
御旨こそ靜けき靈にあきらけく
　影やうつさめつゆも亂れず。
あの刹那この現實にもめでたかる
　聖き恵みの流れ汲む身に。
或時は靜けき水にかこまるゝ
　家にものなど讀み居たく思ふ。
水際に立てる人あり我生命
　何處にゆくと見つむるがごと。
ゆく水のゆるき流れをひた〳〵に
　立ちて歌へば心和みぬ。
うら〳〵と障子に午後の陽の日指し
　沈思の我を虻なきて過ぐ。
夕陽や鈴の音きよし並木道
　葉をすれずれに牛車ゆく。
岸近き蘆間に群るゝ濱千鳥
　我聞かまほし海の心を。
湯に浸り硝子に字など書き居れば
　幼き我にぞと歸りゆく。
秋雨や夾竹桃のかげになく
　鳩の濡れ羽も今日は寂しき。
病院の悲しき夜をばそとぬけて
　歌の故郷に慈父と語るも。

〔苑藻〕

たみこ



時報

大阪市都市計畫（一）

第一章　高速交通機關
第二章　鐵道及軌道
第三章　郊外地の開發
第四章　市內道路
第五章　舊市の路幅整理
第六章　路面の鋪裝
第七章　河川及運河
第八章　築港の擴張

會員故山本治兵衛君小傳

會員京都帝國大學技師從四位勳四等山本治兵衛君遂ニ逝去サレタ十月十五日大阪ヘ出張歸宅ノ其夜發病臥床一週日仝月廿四日永眠サレタノデアル平常ノ健康ニ徵シテ恢復サルヽ事ト信ジ自身モ亦確信サレテ居タ事ト思フ其レ故遺言モナカツタ遺書モナイ樣デアル醫者ノ言ニヨレバ急激ノ病氣デハナク數年來ノ痼疾デアツテ病名ハ縮萎腎年六十六歲

君ハ山本治良兵衛氏ノ嗣子安政元年三月東京京橋區鈴木町ニ生レ家系ハ世々舊幕諸大名邸宅ノ設計及營繕ヲ業トシ名聲ガアツタト云フ事デアル君モ初メ父祖ノ業ヲ承ケタルモ後職ヲ擲ツテ東京府吏員ニナラレタ其時ハ明治十一年ノ事デアル以來

東京府本鄉脚氣病院
仝　癲狂院
仝小笠原島廳々舍及附屬官舍

ノ工事ニ從事シ明治十八年工部省ヘ轉ジ工部六等屬ト成リ附屬ノ建築工事ニ從事明治二十年文部省ヘ轉勤會計局勤務次デ東京美術學校技手兼書記及文部屬ヲ拜命後官制改正ノ結果文部技手ニ任命サル其間ニ於ケル主ナル工事ハ

東京帝國大學圖書館
仝　博物學教室



仝　醫院及病舍增築
京都第三高等學校（創立）
仝　醫學部（創立）
熊本第五高等學校（創立）
仝　醫學部（創立）

明治三十六年六月京都帝國大學ヘ出張仝七月文部技師ニ四十年京都帝國大學技師ニ任セラル附來關係セラレタル工事ハ

京都第三高等學校（移轉）
京都高等工藝學校（創立）
大阪高等工業學校（創立）
神戸高等商業學校（創立）
岡山第六高等學校（創立）
仝　醫學專門學校（創立）
廣島高等師範學校（創立）
福岡醫科大學（增築）
鹿兒島高等中學造士館（增築）
鹿兒島縣大島及沖繩縣石垣島測候所（創立）
金澤第四高等學校及同醫學專門學校（增築）
京都帝國大學各分科大學及病院等

此外囑托セラレタルモノハ

大阪滋賀富山ノ各赤十字社支部病院ガ其主ナルモノデアル

明治四十五年累進シテ高等官三等大正三年正五位ニ大正五年勳四等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラル

大正八年十月廿三日一級俸下賜仝廿四日卒去仝日從四位ニ追陞セラル

天柱院殿要津道梁大居士ハ君ノ戒名デ東京四谷筰寺ノ祖先ノ塋域ハ君ノ永遠ノ住居デアル。

第一章　高速交通機關

(前略)現在の大阪市に見るに其近郊交通機關にして準高速の資格を具し若くは將來に之が改善の素地あるものとてしは鐵道官線以外西に阪神線あり北に阪神急行線あり東に京阪線、大阪電氣軌道線あり南に南海鐵道本支線並に高野鐵道線あり以て近くは尼崎、寶塚、池田、箕面、吹田、枚方、生駒、住吉、堺より遠くは神戸、京都、奈良、和歌山、長野及橋本に達するを得べく又別に尼崎、神戸、吹田、京都等に至る各特許未成線あり更に續々新規の出願線ありて略大阪市を中心とせる隣接重要地區との連絡に遺憾なきのみならず依つて市と三十分乃至一時間の範圍にある郊外住宅地區の發展を助長するに足る然も是等をして若し能く市内各方面との連絡上飽迄郊外高速交通機關の機能を活現せしめんが爲には必ずや更に進んで是等諸線と市の中心地區及び市内樞要地點との連絡を能ふ限り高速度ならしめざる可からず即ち之が爲めには市の内外各方面よりする凡ての高速交通設備を擧げて悉く市の中心地區に集合せしむるの利なるに如かざること頗る明白なりと雖も然も此の如きは獨り地下式路線の採用と相俟ちて始めて其の利を云ふべきものにして本市の如く地盤の低濕と地質の軟弱と及び大小河川の縱横との爲に極度に地下線の實行を難らしめ勢ひ高架線の採用を餘儀なからしむべき場合には當らず蓋し數多の高架線をして一地點に集中せしむるの結果は到る所に市街の分裂と道路系統の紛糾と路面電車線の錯綜とを來し爲めに貴重なる中心地區の整美を根本的に破壞し大都の品位を毀損せしむるの不利遂に忍ぶ可からざればなり故に本市としては寧ろ北に梅田、南に難波、湊町の各驛を始め成るべく現在郊外線の各終端驛を連ねて以て市の中心地區との間に恰當なる環狀聯絡を完うすべき高架式循環路線を描き之を幹線として爾餘の要樞へは別に支線を分派し且つ將來の郊外線をして齊しく其接續を容易ならしむるに如かんや

乃ち茲に我大阪市の高速交通設備解決の實際問題として右の要求に適合する環狀高架路線を如何に選定すべきかを稽ふるに方りては先づ第一に本市の東方を劃せる

國有城東線を高架式

に改め同時に高速電車併用を圖るの急務たる所以を提唱せざる能はず

城東線の高架化並に電化は本市東郊の發展上無論其全線に亘りて之が遂行の要あるのみならず天王寺驛に之を關西本線と結び更に西に同線を電化して將來市の南郊に於ける廣大なる新住宅地域との高速連絡に便し以て湊町驛に達せしめざる可からず或は近く南海鐵道線國有の實あらんには寧ろ之を難波驛に結びて同時に堺市乃至濱寺との高速連絡を統一するの更に可なるに如かずと雖もそは兎もあれ北に大阪驛を發して東し南し以て難波驛若くは湊町驛に達する區間は必ずや之を擧げて速に平地式鐵道の不便を撤し必要上別に貨車用高架線を城東線に添設して其全線に於ける一切の踏切道を滅し依つて現在交通上の不便を除かざるべからざるや論なし夫れ既に斯る地理的利便のあるあり即ち之を辿りて大阪驛より難波若は湊町驛に到達せる件の高速路線をして再び大阪驛に歸着せしむべき他の一半の解決を如何許は言ふ迄もなく之を北に市の中心地帶に導き行々路面電車との接續を保ちて大阪驛に達し以て一の環狀路線を完成せしむるの外なしと雖も此環狀路線たる其南北に比して餘りに東西の間隔に乏しき長楕圓形を描くべきが故に之を市の高速幹線として見んには頗る其價値の減却さるべき虞あり然もそを遠く西方に展開せしめんは市内三大河川横斷の不經濟と水運上の支障とに加へて市の中心地區を逸するの不利寧ろ其甚しきに堪へずされば此缺陷を補はんが爲には止むなく別途に件の長楕圓形を両斷して

東西に一路線

の追加を策せざる可からず即ち城東線玉造驛

附近より分岐して西に上本町六丁目に出で生國魂神社の南を下寺町一丁目に下り日本橋筋三丁目を經て難波驛に合し以て前記の路線と連結する一循環路線を描いて之を幹線とし他の南方迂回線は寧ろ一大支線として專ら東南両郊の連絡並に開發に任せしむべきなり

湊町驛を北して大阪驛に達する南北路線の選定に就ては之を用地の經濟よりすれば新に開設すべき御堂筋の中央大街路（第四章參照）に就きこを縦走せしむるに如かずと雖も然も市の將來に取りて交通上商業上將た美觀上最高級の使命を荷はしむべく特に鉅額の經費を投じて築造すべき新街路を以てして高架鐵道の縦斷に委し永遠に其品位を傷つけ其價値を損せしむるが如きは能く忍ぶべきに非ず或は特に此部分をして淺地下式たらしめんとするも河川の介在によりて著しく其區域の局限さるべきは固より中之島附近の公館地區をして却て其利に與る能はざらしむるのみか地下と高架との接續地點として長距離に亘る交通上の不便且不體裁を現出せしむるに堪へんや然かも深地下式を以て河川を横ぎらんは到底地質の許す處に非ざるが故に結局用地上多少の不經濟はありとも湊町驛以北の高架線は別途に之を選ぶの外なし然も更に之を稽ふるに北に大阪驛と南に難波驛とを連ぬる區間は是れ本市交通の最大幹線にして高速路線利用の將來よりすれば到底複線軌道の架設のみを以て足るべきに非ず早晩複々線の必要を惹起すべきは勿論之を都市交通上の理想に照して市の中心地區より各郊外線への直通を是認せんには宜敷當初よりして複々線架設の計に出ざるを得ず然らば則ち彼の御堂筋線の如き固より問題とする迄もなく地理上將た用地上難波驛を發する高架路線は當然之を西横堀河上に導き該河を挟んで

其水面に一大長橋

を連ね市の中心地帶と近く相並行して一直線に大阪驛に歸着せしむるを以て最も策の得たるものとすべし

本市の高速交通設備としては右の循環幹線並

に既記の南方迂廻線以外市の西部要樞との連絡上別に若干の支線を具備するの要あり就中難波驛より難波を横貫して高野鐵道との連絡を保ち三軒家を經て築港大道路の南に出て是と平行し埠頭に達する築港支線の如きは特に速成の必要あるのみならず之を曩の玉造難波線と直通せしむるに於ては自から本市東西の高速幹線を形成して南北幹線と相俟ち能く縱横に市の高速機能を發揮せしむるに足らん其他新千歲町方面櫻島町方面の如きも亦將來必至の發展に伴ひ其地理的關係に照して早晩各支線の分派を豫期せざる能はず

高速鐵道の構造並に電氣方式等の如何に關しては其研究を他日に讓りて可なるも然も茲に注意すべきは現在郊外線の軌隔に廣狹二樣の別あり即ち鐵道官線を始め南海本線並に高野線の三呎六吋式なるに對し他の諸線は何れも四呎八吋半式なるを以て市內高速循環線との連絡上豫め相當の考慮を要すること是なり蓋し是等郊外線は現に本市に對して一日十萬人內外の出入に便するのみならず將來市域の擴張と郊外住宅地區の發展につれて倍其利用の激增すべきに方り其多數乘客をして日夕市の中心地區への往來に一々乘換の面倒を要し高速直通の利便に依る能はざらしむるが如きは以て完全に高速機關の價値を發揮する所以に非ず必ずや市の內外に於ける高速路線は相互の連絡上其軌隔を統一すべく更に之を四呎八吋半の廣軌式に一定するを以て當然と爲さん從つて市內高速循環線の一部を爲すべき城東線並に關西本線の如きも亦宜敷當初よりして廣軌式電車運轉の方針に出づべく萬止むを得ずんば則ち當分廣狹併用の計を講ずべきならん

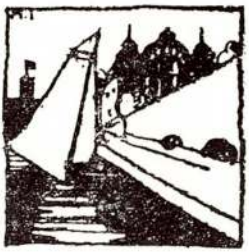
更に注意すべきは大阪驛と及之に接近し現に阪神並に阪神急行線の終端驛を並在するのみならず將來市の北郊よりする新線の亦齊しく此附近に向ひ其起點を集中すべき形勢なること是なり此の如きは一面市內高速機關の施設と相俟ち此處に市の一大交通中心點を構ふる所以にして頗る其利便を認むべしと雖も然も斯く相互に接近

せる各驛をすて夫々高速連絡の利便を享けしめんは其運轉上固より不可能なると同時に又乘客をして此間一々乘換の不便を嘗めしむるに忍びずされば之に處すべき最善の方策としては是等各驛の出入を始め近郊よりする官線鐵道の上下並に市内高速線の交通を併せて之を一驛内に統一整理し得べき

高架式共同停留場

を設備するの外あらんや恰も可し近く大阪驛改築の擧あらんとす乃ち此機會に於て新大阪驛の一部に之が理想的施設を整へ以て永遠に近郊交通の利便を完たからしめんこと洵に本市交通政策上の一大要件たり

惟ふに都市の體裁よりすれば市内高速交通機關として高架式よりも地下式の遙に優れると甚だ明瞭なりと雖も然も一般に其工費の二三倍すべきに加へて本市の如き地勢と地質とを以てせんには更に其幾倍すべきかを知らす殊に地下線と云ふと雖も之を本市の如く河川縱横の低地下に敷設せんには線路内不斷の陰濕却て其累を爲し往々にして危險なる傳染病菌の繁殖並に傳播の禍因たること容易に之を想像するを得べく既に海外に其の實例の乏しからざるあり但し本計畫たる其の根抵に於て城東線の高架化並に關西本線に亘る電化を期待し且新大阪驛に於ける高速共同停留場の設備を要望するのみならず難波若くは湊町驛と大阪驛とを連絡する他の一半の路線の如きも獨り本市内のみの交通を便するに止まらずして遠距離に亘る一般通過旅客の利を爲す所以たるに視ば之が實行に關する必然的歸決は勢ひ國家をして統一的に其全體の施設經營に任せしむるにあらんも若路面電車との共通經濟の點に重きを置かんには本市は自ら進んで其建設に任すは萬止むを得ずんば即ち相當條件の下に之を民營に委するも亦可ならんか要は其實現を一日だも速ならしめて即今憂慮すべき交通上の缺陷を救ひ大都市發展の機勢と順應せしむるにありそは兎まれ茲には前記路線の選定が本市として到底動かし難き所以のものたるを主張すると同時に之を根據として進んで他の交通運輸系統の整理を策せんと欲す若し夫れ本問題の解決にして別途の方針に出づるあらんか以下述ぶる所の一切の計畫を擧げて自ら其立案の基礎を搖がさるべきこと之を言ふを俟たず（つゞく）



會報

會誌

▲我誌は豫告の通り本號より改題致しました、そして、内容も多少革新致した積であります、が勿論是で足れりとする譯ではありませぬ、是より號を重ねて完全なものに致し度いと存じます。

▲就ては、會員各位が忌憚なき批評なり注意なり要求なりを當會に寄せて頂きますならば、事情容す限り御意見に肯く積りでありますから、此の邊は特に希望する次第であります。

圖書

（交換）

建築雜誌　第三三輯第三九四號（建築學會）
建築世界　第十三卷　第一二號（建築世界社）
住宅　第四卷　第一二號（關西園藝協會）
工業之大日本　第十七卷　第一二號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第五輯　第一二號（日本鋼鐵協會）
建築新報　第一卷　第八號（建築新報社）
通俗衛生　第二二六號（大阪衛生會）
電氣協會雜誌　第三七六號（電氣協會）
木材新聞　（其社）
建築業協會々報　（其會）
建築評論　第一卷　第八號（建築評論社）
ガーデン　第五號（關西園藝協會）
藏前建築　第六號（東京高工建築科）
木材新聞　ペイント商報

會合

口第二十九回例會

▲日時　大正八年十一月二十二日午後六時——九時

▲會場　大阪商品陳列所階上

▲出席者　岸、島田、片岡、瀨戸（文）、須川、光安、青田、伊藤（幸）、永野、山脇、谷、宗、長田、池村、葛野、置盡、池田（讓）小笠原、原科、伊藤（正）、呼子、今林、日高、舟橋

本多、櫛藤、小林(悉)、岡本、新海、鈴木、清水、山崎、江村

▲議　事　(一)雑誌改題に就て、豫め其候補名を發表したる上投票の結果『建築ト社會』とすること多數なりき(二)第七部委員會の從來研究決議せる事項に就て附議をなし、瀬戸委員長第七部委員會の經過を報告す、其多少の修正を爲して、原案通可決せり。

□第五部委員會

▲日　時　大正八年十一月日午後六時―九時半

▲會　場　中央電氣倶樂部

▲出席者　前田、八尾、葛野、野村、池田、置鹽、波江、柳下、江村

▲議　事　(一)家相術と現社會の關係に就て意見を交換し、先づ豫め家屋設計圖を調製し、之を持參して二三家相家の意見を徴する事とし、其家相家としての候補者四名を選定す(二)永瀬委員に囑せし家相に關する研究材料とすべき圖書目錄の送附方を照會する事等を協

□第一部委員會

▲日　時　大正八年十一月廿六日午後五時半―九時

▲會　場　中央電氣倶樂部

▲出席者　片岡、前田、瀬戸(文)、光安、宮本、淺井、片山、新海、島田、岸江村

▲議　事　『市街地建築物法施行法案』に就て、前回に引續き第二章より討議を始め『第一節一般構造』迄全部議了す。

□理　事　會

▲日　時　大正八年十二月五日午後五時半―十時

▲會　場　大阪倶樂部

▲出席者　片岡、設樂、宗、松本、江村(編補)

▲議　事　(一)十一月の理事會に於て決議せる細則變更其他の件(既發表)を通信決議と爲す事(二)雑誌改題に伴ふ表紙圖案選擇(三)大阪住宅經營株式會社より依囑に係る改良住宅設計懸賞募集及審査を引受くること、並に其方法等に就て議決す。

□第七部委員會

▲日　時　大正八年十二月八日午後六時―九時

▲會　場　中央電氣倶樂部

▲出席者　瀬戸(文)、谷、大原、新海、小林(悉)、池谷、小谷

▲議　事　前回に引續き用材の寸法品位等に就て附議し尚小屋組の寸法、二階梁寸法を計算上に定めて、各委員に豫め通知したる後討議する事(一)次回開會を大正九年一月第三月曜日に於てする事に決す。

□第三部委員會

▲日　時　大正八年十二月九日午後六時―九時

▲會　場　日本建築協會事務所

▲出席者　牛村、木子、山本(鑑)伊藤(正)矢島、安立、池田(宮)、小谷

▲議　事　大阪住宅經營株式會よりの囑託に係る改良住宅設計懸賞募集案に就て協議をなし確定案を得たり。

□第三十回例會

▲日　時　大正八年十二月十七日午後六時―九時半

▲會　場　大阪商品陳列所

▲出席者　舟橋、葛野、池田(實)宗、片山、吉木、新海、浦、瀨戸(文)、竹中岡部、矢島、上野、渡部、佐藤(四)、濱田、永野、境、吉田、谷口、生野、平井、島田、呼子、谷本、黒木、古川、田中(綱)森土居原、河合、原田、谷、伊藤、(正)橘本

▲議　事　例に依りて主記より座長を指名し、片山萬治君座長席に着き簡單に挨拶あり、拍手起る(一)前回議決の通り當例會に於て役員中半數改選を爲すべきに就き、先づ投票方法の連記式を單記式に爲すことを諮り之に決す(二)次いで今回野村、日高、松本各理事任期滿了に就き改選すべき事を宣し、投票の結果左の三君新に當選さる

池田實、葛野壯一郎、吉井長七

(三)次いで理事會に於て決議せる通り會費增額及建築事務所案竝に請負業者案内の各廣告料金引上げに就て討議せしが、二三の異議あり、仍て更に收支豫算等の案を具して提議の事となる

會員消息

□住所移轉

左の通り住所を移轉されたり

(會　員)山脇友三郎君
大阪府豐能郡岡町幸通一丁目

(同　)西田議太郎君
大阪府東成郡榎並町野江南之町

(同　)阪井　米吉君
大阪市北區中之島四丁目一番屋敷

(同　)能村　知二君
兵庫縣武庫郡大社村森貝三七六番地

(普　贊)奥田金次郎君
大阪市北區西野田龜甲南町一〇三番地

(同　)小林鎌太郎君
東京府豐多摩郡西大久保三九番地

(同　)二宮　義彦君
東京市日本橋區本革屋町二丁目五番地長野事務所内

(同　)瀨上　友吉君
名古屋市東區新出來町一丁目七番地瀧興曾次郎方

編輯室より

□豫告の通り本號より外觀内容とも更新致したのでムいますが、扨て出來てみれば今一段と編輯振りの足らない處あるに忸怩たらざるを得ませぬ

□併し本號より紙數をすつと減じましたので、折角の玉稿を次號に廻しましたのが澤山ムいます

□次號からは今一段碎ける積りでありますから、漸を追ふて完備する積りでムいます

□波江悌夫氏が渡米出發の挨拶に代へ原稿が來ましたのですが、折柄締切後でしたから、次號より載することゝ致しました

ブダペスト建築條令

（上）



ブタペスト建築條令（上）

第一編　總則

規定

第一條　何等ノ建築ニアリテモ千八百七十年法令第十號ニ定メタル規定線及ビ水準ヲ適用スベキモノトス

第二條　右規定ニ抵觸セル建築地ニアリテハ管轄廳ハ先ツ該規定ニ關聯セル問題ヲ解決シタル上建築ノ認可ヲ與フルコトヲ得

第三條　建築地ニ抵觸セル規定ノ變更ヲ管轄廳ニ於テ討議中ナル場合又ハ建築原因ガ未ダ規定總案中ニ掲ゲザル範圍ノ場合ニアリテモ管轄廳ハ一ケ年以上其建築ノ認可ヲ放置スルコトヲ得ズ

建築區域

第四條　本都市ガ管轄セル地方ハ一般ノ市制ニ顧ミ現行建築規則ニ基ケル設計案ニ示シタル如ク之ヲ四箇ノ建築區域トナス

第一建築區域

第五條　第一區ガ包括スル所左ノ如シ

1 **ドナウ**ノ左岸ニシテ一面ハ**ドナウ**河ヨリ他方面ハ「**レオポルド**」**テレジエンエリサベート**、**ヨゼフ**及**フランツエンス**町區域内ヨリ圍マレタル地域並ニ此等區域ノ兩側面

此地建築上ノ關係ヨリ前記區域外ニシテ左岸ノ市區ヨリ半徑ヲ畫ケル至要通路ノ部分該通路ノ兩側建家ノ正面殊ニ**ケオエーニヒ**小路（射的場ニ至ルマデノ間）**ケレペス**街（**ロツテンビル**小路ノ河口ニ至ルマデ）ハ之ヲ右第一項ノ地域トナス**ウンガルン**王國中央停車場前面ノ地全部**アレナ**街ニ至ルマデノ「**ツエメール**」街**バロツス**小路（**カルワリーンブラツ**ニ至ルマデノ**ツエメール**」街**バロツス**小路（**カルワリーンブラツ**ニ至ルマデヲ包含ス）並ニ**オルケ**街ニ至ルマデノ**ユルレオエ**街モ亦之ニ準ズ

2 **ドナウ**右岸ノ地即チ要塞カイゼルバードヨリ「**ブルツクバード**」マデノ「**ドナウ**」堤第二區ニ編入セラルベキ「**ジーヒムンド**」小路ノ一部此外**ハウブトケツテンブリユツケン**及**デブレンタイ**小路兩側ノ地大公**アルブレヒト**街**マルガレツト**、クリスチーン及**アツチラ**」區域及ビ之等街路並ニ區域ノ線中ニ編

入セラルベキ場所ニアル土地

第二建築區域

第六條 第二區ノ包括スル所左ノ如シ

1 左岸ニテハ**ドナウ**河岸ヨリ出デ第五區内ノ「**ウンガルン**」第一アルコール精製株式會社營業所ノ南側ニ設計セル街路ニ沿ヒ**ツィツ**街ヲ横斷シ「**アレナ**」街**ソンヂ**小路ニ至リ此處ヨリ「**バヤ**」小路**ナギ**、**ヤーノス**小路ニ至リ該小路ヲ經テ上ニ「**ワルドツアイレ**」射的場**ダムヤニツヒ**小路ニ達シ此處ヨリ**アレナ**街ニ沿ヒ中央墓地ノ北側ニ至リ其ヨリ**ヤニクス**小路ヲ經テ**フリードホーフ**街マデ戻リ**スタインブルフ**街ニ沿ヒテ現今ノ「**マウト**」ニ至リ夫ヨリ「**ウジネーブリゲツト**」ヲ除キ**タンシス**小路及**エルレオエ**街ヲ經テ**バーンダンム**ニ至リ同所ニ沿ヒテ**ドナウ**河ニ至ル線ニ建スル市外地但**レホポルド**、**テレジエン**、**ユリサベート**、**ヨゼフ**及**フランツ**區域ヲ除ク次ニ**スタインブルツフ**ノ一部ニシテ王國**ワンガルン**鐵道**ハトワーネル**及**セグレーデル**線ト「**フエヘールテルウイヤドクト**」即チ「**ヤスベレーニエール**」街ノ両側ヨリ「**バーニヤ**」小路ノ八千四百六十號C建築地ニ至ルマデト此處ヨリ西方ニ向テ設計セル街路ヨリ**ハロム**街ノ通路ヲ經テ**カペル**道ニ至リ夫ヨリ直下シテ下鐵道小路ニ設計中ノ小路ヲ以テ限レル地並ニ**カペル**道及「**カペルレンブラツ**」ハ右ノ建築地域ニ屬スルモノトス

2 右岸ニテハ第一建築區域外ニシテ**ジーグムンド**小路ヨリ出デ下**マイエル**小路巳ニ延長ヲ了シタル會堂小路「**マルギツト**、**チワタル**、**ピンポー**、**オスロツプ**、**レツト**小路線及**レツトガツセ**小路ヲ「**レテク**」小路マデ延長シタル線次ニ「**レテク**」「**ワロスマヨル**」「**ケツクゴリヲ**」「**エニエジ**」「**アルコタス**」「**セールス**」「**アワール**」「**メーサーロス**」「**リスニヤイ**」「**ナツプ**」小路（但其接觸點**ゲルレルテギー**小路ニ至ルマデ）夫ヨリ**ケオエール**、「**ポルゴニー**」及**ビアルバヘギー**小路ヲ限レル地域並ニ**ブルツクパードヨリ**下部ニテ一方ハ**ドナウ**河岸ヨリ一方「**フエヘールフアーレル**」街及「**ケーレンフオエルド**」ニテ**フランツ**區域ヲ結ブベキ區域ヨリ限ラルヽ地域

右ノ外第三管區ニアリテハ「**カイゼルバード**」ヨリ起リテ**フイラトール**防波堤**フオエレオエスワーレル**。**ウイーンセーブフオエルギー**、**ユーレオエミー**及**ジーグムンド**小路ニ沿フテ限ラル、地域亦此ニ屬ス

第三 建築區域

第七條 第三建築地域ヲナスモノハ所謂別莊地ナリ而シテ其包括スル所左ノ如シ

1 左岸ニテハ王國**ウシガルン**鐵道ノ維納線並ニ**ヘルミン**街道此地ヨリ更ニ**セメレル**、及**キユールセーハイツアール**街ニ依リ限ラル、地域次ニ**アレナ**街ヨリ起リテ「**ソンヂダツセ**」夫ヨリ**ナギヤーノス**小路ニ至ル間ノバヤ小路夫ヨリ「**フエルゼエルデオエーゾル**」ニ至ル地「**フエルゼエルデゾル**」射的場「**ダムヤニツヒ**」小路及**ビアレナ**街ヲ以テ境界トセル地域並ニ**アレナ**街**セメル**街**ヘルミン**街及**ビステフアン**街ヨリ圍マル地域

2 右岸ニテハ「**セムレー**」出「**レーツマ**

ール」「ウエールハロム」「テーレクフエス」「バザレート、ニヱーク、ペトネハーチレート」「バートルヘギー」「グールスレス」「ポソニーヘギー」「ウ井ランニヨース」「クートフエルギー」「イステンヘギー」小「シワーベン山「オルバンヘギー」「マルトンヘギー」「サスヘギー」並ニ之等ノ間ニ存在セル低地但シ設計ヲ了セル外方區域及ビ將サニ着手セラルベキ**シワーベンベルヒ**堀割ニ沿ヒ設計シタル道路線ヨリ北方ニ於ケル**ネメトフエルギー**ノ部分ヲ除ク次ニ**ゾンネン**山及**ブロツク**山ハ本區域ニ編入スベキモノトス但小**ブロツク**山ハ**ブロツク**山ニ對スル境界線ガ南線隧道上ヲ通ズル街路ヲ作ルヲ以テ之ヲ除ク

次ニ「**エリサベツト**」溫泉附近ニアリテ四箇ノ大道ヨリ限ラレタル地域並ニ「**ケーエルベレクホツテル**」ノ一部ニシテ一方ハ第九七九五、九七九六及九四七四號地間ノ**ブデールスホツテル**ヨリ都市ノ領域ニ來リ第九七〇一號地ニテ該領域ヨリ離ルヽ溝渠ノ南岸ヲ以テ界トナシ一方ニ於テハ「**ブダフオーケル**」「**デーテーニーエル**」及ビ「**ブデールスホツテル**」境界トナルベキ地域

第四　建築區域

第八條　以上三區域ニ屬セザル地ヲ以テ第四建築域トナス

第二編　建築地ノ要件

第一及第二建築區域內

第九條　第一及第二建築地域ニアリテハ建築地ノ道路ニ向フ正面ノ長サ並ニ其中幅ハ少ナクトモ一三、二七米(70)奥行ハ一八、九六(10)ヲ有セザルベカラズ

隅角地

第十條　第一及第二建築地域內ノ隅角地ニアリテハ一方前面ノ長サハ少ナクトモ二二、七六米(12)他方前面ノ長サモ亦少クトモ一八、九六米(10)ヲ有セザルベカラズ

第三區域內

第十一條　第三建築區域內ニアリテハ建築地ノ道路正面ハ少ナクトモ二二、七六米(12)ヲ有セザルベカラズ而シ此區域ノ建築地ニシテ左岸區ニアルモノハ少ナクトモ六〇〇〇。□右岸ニアルモノハ千。□ノ面積ノ存在ヲ証セザルベカラズ

第十二條　乃至第十四條ハ右ノ例外ヲ規定ス

三百。□

第十二條　左岸區ニアリテハ建築地ハ一八九六米(10)ノ左記最少限道路正面ニ於テモ少クモ三百。□ヲ存セザルベカラズ

1次ノ線ヲ以テ界トナセル地域「**ソンヂ**」小路(**アレナ**小路ヨリ起ル)夫ヨリバヤ小路(**ナギヤーノス**小路ニ至ル)此小路ニ沿ヒ上「**ワルドツアイレ**」射的場**ダムヤニツヒ**小路及ビ「**アレナ**」小路ニ至ルマデ

2**アレナ**小路**セメレル**街及**ステフアニー**街ノ南方ニ於テ之等ノ街路ト平行セル第一小路及**ステフワアン**街間ニ存在セル地域

3**セメレル**街ノ両側**セグレード**鐵道線ニハ　ノ地

三　百。□

第十三條　右岸區ニアリテハ左記建築地

ハ第十二條ノ要件ヲ具備セザルベカラズ

1 **ナッブヘギー**附近

2 **レーツマール**附近

3 一方ハ「**トセンビタス**」小路ヨリ他方面ハ第五七三八、五七三九、五七四一五七五二、五七五四、五七五五、五七五六、五七五七及五七五八號建築地ノ北西面線及「**レーツマール**」ヲ以テ限レル「**テレクベス**」(**ロックスヘギー**)ノ一部

4 **ハルスケース**ノ上部**ケツクゴリオ**小路ニ起リ「**ワロスマヨル**」小路ト「**アブト式**」線ニ至ルマデ平行セル**ホツテル**」道ト「**ワロスマヨル**小路トノ間ニ存在セル小**シワーベン**山ノ一部

5 **フエヘールフアーリ**街**オロム**及**サンス**小路上ニ存在セル**ブロツク**山腹ノ建築地

六百。□

第十四條 右岸區ニアリテハ左記建築地ハ正面幅ハ少クトモ二二、七六米(12)建坪ハ少クトモ六〇〇。□ノ存在ヲ証セザルベラカズ

I 十三條ノ規定關係ナキ「ブロック」山ノ一部

2 **エリサベス**鹽泉ヲ圍メル四道内ノ地

3 セムレヘギー附近

第四 建築區域内

第十五條 第四區域ニアリテ建築地ハ最少限前面幅一八、九六米(10)面積三〇〇。□ヲ要ス

違背

第十六條 第九條乃至十五條ニ規定セル建築面積ノ相ガ本令ニ違背スルカ又記載漏レノ場合ニアリテハ管轄廳ハ一々之ヲ判決スベシ

併合登記

第十七條 連絡シテ全体ヲナセル建物ガ二箇以上ノ建築地ニ建造セラル、場合ニアリテハ之等ノ地ハ併合登記ヲ經ルヲ要ス

第三編 建築認可

何ガ爲メニ認可ハ必要ナルヤ

第十八條 左記目的ニ付キテハ建築認可ヲ受クベシ

1 新 築

2 增 築

3 階層ノ建增

4 修繕的改築

5 構造ニ關スル各種ノ工事

6 圍壁ノ建設

7 モートル、汽鑵、移動若クハ音響ヲ伴フベキ運轉機ノ使用

8 建家打毀ハシ

9 他各種ノ建築工事但第十九條ニ揭ゲタルモノヲ除ク

認可以前ニアリテハ何人タリトモ工事ヲ開始スルコトヲ得ズ

認可ヲ要セザル件

第十九條 左ノ場合ニアリテハ認可ヲ受クルヲ要セズ

1 足場ヲ要セザル漆喰塗ノ修繕

2 足場ヲ要セザル塗工事但第百七十條ノ禁止事項ニ注意スベシ

3 床ノ造作

4 窓戸ノ修繕又ハ最階上若クハ隣家ノ境界線ニアラザル界壁及防火壁ニ於テ窓戸ノ取付ケ

5 煙筒ノ修繕

6 耐火材料ヲ以テ建築セル屋屋ノ修繕

7 室内ニ於ケル煖爐ノ据付ケ及移轉並ニ火爐其他營業上ノ目的ニ供セザル竈ノ設置但之ガ爲メ以前ノ防火竈屋ニ變更ヲ來シタルトキハ此限リニアラズ
8 建物内又ハ庭上舖石ノ修繕
9 仕切壁戸ノ取付ケ又ハ閉塞
10 小路戸ヲ閉塞若クハ該戸ヲ窓ニ變更スル場合但此場合ニアリテハ戸ハ建物内ノ出入ニ供セザルヲ要ス
11 屋根ノ葺替但第一及第二建築區域ニアリテハ防火材料ヲ使用スルヲ要ス
12 界壁及圍壁修ノ繕

水道及瓦斯管

第二十條 建物内ニ水道及ビ瓦斯管ヲ敷設スルニ付キテハ（本件別段ノ規定ナキ限リ）從來ノ慣習法ニ從フ

請　願

第二十一條 認可申請書ハ建築主又ハ其代理自署ノ上之ヲ市廳ニ差出スベキモノトス
貸借人ニアリテハ持主ノ承諾書ヲ添付スベシ

第二十二條 請求書ニハ左ノ件々ヲ記載スベシ
1 建築地ノ土地臺帳ノ號數管轄區小路及小路番號
2 設計工事ノ種類ノ名稱及其仕樣書
3 設計者及實施ニ付キ責任ヲ有スル專門家ノ姓名及住所
4 隣人ノ姓名及住所

願書附屬書

第二十三條 新築增築又ハ層樓增設ノ場合ニアリテハ願書ニ左記ノ添付ヲ要ス
1 建物周圍位置又ビ土地ノ狀況ヲ檢スルニ必要ナル圖面但此圖面ニハ建築地ニ現在セル舊建物取毀ハシテナスベキ建物隣地及ビ其上ニ存立セル境界家屋界庭隣地持主ノ名義小路ノ名稱及ビ建築地ノ土地臺帳番號ヲ記入スベシ
市設土木局ハ當事者ノ請願ニ依リ規定ノ手數料ヲ收メテ右ニ關スル書面ヲ調製ノ上之ヲ下附シ又圖面ニハ檢定ヲ標記スベシ
2 完全ナル前面圖但同種ノ前面數多アル場合ニアリテハ前面圖一枚ヲ以テ足レリトス
3 高サ天井ノ構造壁ノ厚サ屋根、構造軒蛇腹、軒飾並ニ出窓ノ構造等言セバ建物ノ各部ヨリ特ニ突出セル平面圖及切斷圖溝渠及下水ノ圖面但此圖面ニアリテハ屋内溝渠ガ小路溝渠ニ注入スベキ點ノ高サヲ表示スベシ
4 大面積ヲ有スル特別ナル木造、鐵製及石造ノ構造物ニアリテハ各構成部ノ特點ヲ記セル詳細圖及專門的抵抗及耐力計算表ヲ提出スベシ

第二十四條 改築又ハ變更並ニ庭内ニ於テ小屋ヲ築造セントスル場合ニアリテハ其狀況ヲ詳記スルノ外殊ニ改築ノ場合ニアリテハ建物ノ原狀ヲ示セル平面圖及切斷圖ノ他ニ設計工事ヲ確カニ檢定セシムルニ足ルベキ詳細圖ヲ添付スベシ

第二十五條 機械　モートル　汽鑵及運機轉ノ設置ノ場合ニ於テハ設置ニ關スル詳細圖並ニ其明細書ヲ添付スベシ

取毀ハシ請求決了

第二十六條 取毀ハシノ場合ニアリテハ取毀ハシヲナスベキ建物ノ全圖ヲ請求書ニ添付スベシ
取毀ハシ請求事件ハ十日以内ニ決定セラルベシ

第二十七條　第十八條5、6及9項ノ場合ニアリテハ設計工事ノ檢定ニ供スベキ圖面及ビ必要ニ應ジ其明細書ヲ願書ニ添付スベシ

添付圖面ノ要件

第二十八條　建築地内部ノ狀況圖(1/1000)ニハ(1/720)ニシテ建築地外部ノ圖(1/120)ニハ(1/1440)ノ尺度ヲ以テ調製スベシ地繪圖橫斷面及ビ正面圖ハ少クモ(1/100)ノ尺度トナスベシ然レドモ構造ヲ判定セシムルノ用ニ供スベキ細密圖ニアリテハ其尺度ヲ少クトモ1/50トナスベシ

第二十九條　各圖面ニハ名稱ト高、廣、及縱ノ寸法ヲ記スベシ又平面圖ニアリテハ各局部ヲ悉ク記入スベキモノトス

第三十條　圖上新築スベキ部分ハ、赤色ニ現存セル部ハ灰色取毀ハシ部ハ黃色鐵部ハ青、石造部ハ紅藍色(リラ)ニ(セメント)壁ハ赤褐色ニ之ヲ塗ルベシ

第三十一條　圖面及附屬書類ハ靱學紙又ハ謄寫布ヲ用ヒテ幅二十一珊知、長三十四珊知ノ面内ニ之ヲ收ムベシ普通ノ謄寫用紙又ハ藁紙上ニ記載シタル圖面ハ之ヲ採用セズ

第三十二條　前記要件(單ニ外形及裝飾物ノ尺度ト雖モ)ヲ具備セザル圖面ハ詮議ヲ要セズ職權上之ヲ却下ス

請求事件ノ處理

第二十三條　願書圖面及ビ明細書ヲ提出シタルトキハ市設土木局ハ實地ノ位置ニ付キ專門的審査ヲナスベシ重大ナラザル不備欠点ハ土木局ヨリ召喚ノ上直サニ之ガ取消シ又ハ訂正ヲ命セラルヽコトアルベシ

第三十四條　圖面ガ條規ニ反セザル場合ニアリテハ土木局ハ意見ヲ附シテ建築委員會ニ之ヲ提出スベシ同會ハ認可ニ關シ(又ハ實地見分ノ上)申請ヲナスモノトス

第三十五條　市廳ハ委員會ノ認可申請ニ基キ詮議ヲ行フ以前ニ於テ左ノ場合ヲ參酌スベシ

1本件ハ公設物、製造場、蒸汽機關車汽罐、モートル、又ハ運轉機ノ設置若クハ道路前面線上ニ建造セラルベキ新築ナルヤ又別莊及ビ前庭付家屋ヲ含ミ居ルモノナルヤ否

2增築若クハ改築ガ本令ニ反セル地ニ設計サルヽヤ否ヤ

3市建築委員會及市長間ニ意見ヲ異ニシ居ルヤ否ヤ

4市長ガ或關係ノ爲メ現行規定ト相異ナレル命令ヲ施スヲ必要ト思考シタル場合ハ市建築協議員ニ向テ圖面及書類ヲ送致シ同會ノ査定ニ基キ願書ヲ處分スルモノトス

第三十六條　市長ガ或原因ノ爲メ第三十五條ニ揭ゲタル市立建築協議會ノ査定ニ滿足セザル場合ニアリテハ「ウンガルン」王國内務大臣ハ其異議ニ付キ判決スベシ

之ガ目的ヲ達センガ爲市長ハ八日以内ニ該事件書類ヲ建築協議會ニ廻送シ同會ハ内務省ニ向テ直チニ發送スルモノトス

第三十七條　市長ハ前條以外ノ場合ニアリテ市立建築協議員ノ意見ヲ徵スルヲナク建築委員ノ意見ヲ聽キテ査定ヲナストキハ遲クモ八日間ニ市立建築協議員ニ向テ其旨通告スベシ

第三十八條　如何ナル場合ヲ問ハズ認可

請求者、設計者ニ並ニ責任技師ハ認可ノ通知ヲ受クベキモノトス

防火距離

第三十九條　千八百八十一年條令第十六號十八條ノ鐵道線路又ハ停車場ヨリノ距離六十米以内ニ建築ヲ設計シタル場合ニアリテハ市長ニ本令第三十三條及第三十四條ノ手續ヲ了シ第一審ノ回答ヲ得ンガ爲メ願書ニ相當意見ヲ附シ管理委員會タル市立建築協議員ニ之ヲ廻付スベシ

第四十條　第三十九條規定工事ノ認可事件ニアリテハ市立建築委員ハ先ヅ關係者ヲ召喚シタル上相當ノ管理的巡察ヲ遂ゲ其結果ニ依テ認否ヲ決定ス

右決定書送達ノ日ヨリ起算シ十五日以内ニアリテハ建築主並ニ關係鐵道營業者ハ**ウンガルン**王國商務大臣ニ向テ抗告スルノ權ヲ有ス

第四十一條　第十八條ニ揭ゲタル工事ニ關スル建築署ノ認可書ハ受領後即時効力ヲ有ス

第四十二條　第四十條管理委員會タル市立建築會議ヨリ受ケタル認可ハ十五日以後ヨリ其効ヲ有スルモノニシテ其以前ニアリテハ工事ヲ開始スルヿヲ得ザルモノトス

第四十三條　認可書受領ノ日ヨリ起算シ一ケ年間工事ヲ開始セザルカ又ハ開始スルモ一ケ年間中止シタル場合ニアリテハ認可ハ消滅スベシ

第四編　專門家委囑

第四十四條　第十八條ニ揭ゲタル工事ノ實施ハ之ヲ專門家ニ委囑スベキモノニシテ認可請求者ハ豫ジメ係リ官廳ニ向テ之ガ指名ヲナスヿヲ得

技師ノ資格

第四十五條　左記事項ノ一ニ該當セルモノハ之ヲ專門家ト爲ス

1 王國ウンガルンヨセフ工科大學校ノ卒業証書又ハ該學校ノ証明付免狀若クハ之ト同等ノ卒業証書ヲ有シ少クモ二ケ年以來建築業ニ從事シタルヿヲ証明シ得ル建築又ハ土木專門家

2 千八百八十四年王國**ウンガルン**農商工務大臣ノ命令四六、一八八號ニ於テ資格ヲ與ヘラレタル專門家ノ各種工事ノ建築技師ハ建築全部ヲ擔任シ得

3 煉瓦職頭梁ハ土工、煉瓦積、家屋移轉工事、平家造ノ物置等ヲ擔任スルヿヲ得

4 石工職頭梁ハ其專屬事業ヲ擔任スルヿ

5 大工職頭梁ハ其專屬工事及木造家屋ホ鑿井職頭梁ハ井戸堀工事其築壁及井戸機械取付ケ

6 實地家建築專門家トシテ從來獨立營業セシモノ

第四十六條　專門家トシテ指名セラレタルモノ技術並ニ信用ニ關シ建築委員會ガ其者ノ經驗上疑ヲ容ルヽ場合ニアリテハ建築主ハ之ニ關スル管督官廳ノ要求ニ應ジ他ニ信用スベキ專門家ニ更任スベシ之ガ手續ヲ了セザル場合ニ於テハ係リ廳ハ建築ヲ中止シ若クハ其開始ヲ禁ズルヿ得

第四十七條　當該專門家ハ如何ナル場合ニアリテモ工事開始前ニ於テ設計圖及明細書ニ署名スルノ義務ヲ有ス設計者又同ジ

右署名ハ技術ニ關スル責任ノ引受ヲ意味スルモノトス

第四十八條　實施ノ委任ヲ受ケタル專門家ガ工事中引續キ「ブタペント」市ニ滯留スルヲ得ザルトキハ第四十五條ノ資格アル代理人ヲ撰定シ其旨係リ廳ニ對シテ其責ヲ有ス

第四十九條　認可受領者ニシテ工事繼續中其實施ヲ別ニ他ノ專門家ニ依賴シタルトキハ其旨係リ廳ニ屆出ヅベシ

新任專門家ハ豫メ官廳ニ提出シ置キタル建築書類ニ署名スベシ之ト同時ニ技術上ノ責任ハ新任者ニ移ルニ先任者ハ自己ノ行爲ニ關スル責任ヲ有ス

第五十條　專門家ニ係リ廳ニ對シ認可條項ヲ遵守シ工事仕上ゲニ付キテモ其責ニ任ズベシ

第五十一條　同一人ガ施工及ビ設計ヲ兼ネザル場合ニアリテハ設計ノ如何及ビ構造ノ適否ニ付キテハ設計者其責ヲ有シ使用材料及工事ノ良否ヲ警察的治安法及ビ隣家ニ關スル適當ノ注意ニ付キテハ施工建築師若クハ工事ヲ擔當スル泥工石工大工及井工各頭梁ニ於テ各部其責ヲ有ス

第五十二條　係リ廳ニ對スル責任ハ三年間ニ亘ルモノトス

此期間ガ建物ニアリテハ認可証下附ノ日ヨリ起算シ他ノ工事ニアリテハ出來ノ時ヨリ算スルモノトス

認可証主ノ直接希望ニ依リ誤謬若クハ欠點ヲ生ジタル場合タリトモ專門家其責ヲ免カルヽヲ得ズ但此場合ニ於テ認可証主ハ係リ廳ニ對スル責任ヲ有セザルベカラズ

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　池田寅（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　波江悌夫
　　佐藤四郎
　　江村郊郵
設樂貞雄
書記　小谷信藏
　　山崎萬壽夫

會員	一七一	會員（地方）	五〇
名譽賛助員	六四	終身賛助員	三九
特別賛助員	九	普通賛助員	二四三
合計	五七六		

大正八年十二月廿六日印刷
大正九年一月一日發行（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎　大阪市北區相生町一三四　電話（東一八八三番）
兼印刷人　伊藤幸太郎　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷所　大阪活版所　大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　日本建築協會　電話本局二二四一番　振替口座大阪三九、九七五

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

廣告目次

ニ、日本コルク株式會社 四一
日本石綿盤株式會社 四二
日本建築用製紙會社 三八
ホ、ホーン株式會社大阪支店 一九
ヘ、米國貿易會社 三三
別府ステインド硝子製作所二七
ト、東京電氣株式會社(前)一
東洋鐵鋼製造會社 二四
東洋コンプンツソル會社七及四〇
東洋工業社(前)二
チ、大阪鐵筋混凝土工務所 二六
大阪煖房商會 二九
大阪窯業株式會社 二七
大野式特許品營業所 四六
カ、川崎工場 二七
ヨ、横河橋梁製作所 三一
タ、高石商會 三二
高田商會銀座販賣店 一七
高島屋裝飾部 四三
高田南會 三〇
ナ、土木建築内外材料合資會社 三六
ム、村井工業所 二四
ウ、宇野澤組ステインド硝子製作所二四
ノ、野澤幸三郎 二四
ヤ、山本窯業商店 三三
山本コンベス商會 二一
マ、松尾和助商店 一四
ケ、建築事務所案内 四七
建築請負業者案内 一八
コ、小林福進 三二三
エ、榮社 三七
ア、淺野スレート株式會社 三四
有雅彦太郎 一四
淺海商店 二三
穴原商會 一六
有田製陶所 四八
キ、銀座建築用品店 一五
銀座建築用品店支店 二八
共同建材製作所 三五
メ、明正社 一八
シ、清水工務所工事部 二二
モ、木材石材商案内 一三
茂木合名會社(裏表紙表裏)
ス、須賀商會 四四
巢鴨製作所 二〇
砂崎合名會社 九三